

平成26年度
宮城県検証改善委員会報告書



確かな学力への入口

「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用



宮 城 県 教 育 委 員 会

はじめに

全国学力・学習状況調査が、昨年度に続き平成26年4月22日に実施されました。

この調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析と教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立すること、また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることにあります。

調査の結果から、本県の国語については改善傾向が見られ、小学校、中学校の「知識」に関するA問題、中学校の「活用」に関するB問題が全国平均を上回り、小学校のB問題についても昨年度から全国平均との差が小さくなっています。算数・数学については、A問題、B問題とも全国平均を下回っており課題が見られるものの、算数のA問題、B問題、数学のB問題は昨年度と比較して全国平均との差が小さくなっています。これは、前回調査における中学校の国語以外は全国平均を下回るといった本県の状況から、現場の教職員をはじめ教育関係者の皆様が一丸となって取り組んできた成果が徐々に現れてきたものと受け止めております。

県教育委員会では、宮城県検証改善委員会の調査結果を基に、本県児童生徒の学力向上に向けての結果分析と対応策等について協議・検討を進めて参りました。

今年度は、昨年度の当検証委員会において示した、「みやぎ授業づくりスタンダード」の「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントを展開し、「見通し・振り返り」の学習活動に視点を当て「確かな学力の入口」としてまとめました。

この視点は、昨年度開催した「学力向上に関する緊急会議」を受けて発信した「学力向上に向けた5つの提言」の実践化につながり、小・中学校学習指導要領にうたわれている「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」これらを活用した課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等の育成」「学習意欲の向上や学習習慣の確立」に資するものと考えております。

今回の報告書には、「見通し・振り返りの学習活動の提言」「みやぎ授業づくりスタンダード」「みやぎ授業づくりスタンダードを活用した学校の声」を掲載し、併せて、「教員の教科指導力の向上」「児童生徒の学習習慣の形成」「教育環境基盤の充実」の面から改善の方向性を示しております。

本報告書が、各学校における授業改善に積極的に活用されるとともに、本県の児童生徒の学力向上に役立てていただけることを期待しております。

平成27年1月

宮城県教育委員会
教育長 高橋 仁

はじめに

第1章 児童生徒の学力向上に向けて

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(1) 確かな学力への入口 ～「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用～ — 1

- 「見通し・振り返り」の学習活動を充実させるために
 - 1 「見通し・振り返り」の学習活動が確かな学力を育む
 - 2 児童生徒自身が「見通し・振り返り」の学習活動に取り組む
- 国語科
 - 1 国語科における単元導入時の「見通し」
 - 2 国語科における各単位時間の「見通し」
 - 3 国語科における各単位時間の「振り返り」
 - 4 国語科における単元終末時の「振り返り」
- 算数・数学科
 - 1 算数・数学科における「見通し」
 - 2 算数・数学科における「振り返り」
 - 3 算数・数学科における「見通し・振り返り」の学習活動
 - 【例1】平成26年度全国学力・学習状況調査問題【小学校算数A⁶】：平行四辺形の作図
 - 【例2】平成26年度全国学力・学習状況調査問題【中学校数学B³】：ウェーブ（比例）

(2) みやぎ授業づくりスタンダード（平成25年度作成） — 9

本 本時で何を学ばせるのかを考えましょう！
気 気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！
で 出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！
と 説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！
り 理想の授業、指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！
く 繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！
む 夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！

(3) 平成25年度宮城県検証改善委員会報告書活用状況調査より 「みやぎ授業づくりスタンダード」を活用した学校の声 — 19

2 教員の教科指導力の向上

平成26年度の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

(1) 小学校 国語 — 20

- 成果と課題、指導改善のポイント例
- 授業アイデア例

(2) 中学校 国語	24
■ 成果と課題, 指導改善のポイント例	
■ 授業アイデア例	
(3) 小学校 算数	28
■ 成果と課題, 指導改善のポイント例	
■ 授業アイデア例	
(4) 中学校 数学	32
■ 成果と課題, 指導改善のポイント例	
■ 授業アイデア例	
3 児童生徒の学習習慣の形成	36
4 教育環境基盤の充実	37

第2章 全国学力・学習状況調査結果

1 全国学力・学習状況調査の概要	38
2 各教科の調査の結果	42
3 類似(同一)問題の比較	58
4 児童生徒質問紙調査結果	71
5 学校質問紙調査結果	73
6 平均正答率の高い県との比較	75
教員の授業力向上, 児童生徒の学力向上に結び付く参考文献等 へのアクセス方法	79
宮城県検証改善委員会について	82
資料 『学力向上に関する緊急会議』からの提言	83

確かな学力への入口

「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用



- 「見通し・振り返り」の学習活動を充実させるために
 - 1 「見通し・振り返り」の学習活動が確かな学力を育む
 - 2 児童生徒自身が「見通し・振り返り」の学習活動に取り組む
- 国語科
 - 1 国語科における単元導入時の「見通し」
 - 2 国語科における各単位時間の「見通し」
 - 3 国語科における各単位時間の「振り返り」
 - 4 国語科における単元終末時の「振り返り」
- 算数・数学科
 - 1 算数・数学科における「見通し」
 - 2 算数・数学科における「振り返り」
 - 3 算数・数学科における「見通し・振り返り」の学習活動
 - 【例1】平成26年度全国学力・学習状況調査問題【小学校算数A⁶：平行四辺形の作図】
 - 【例2】平成26年度全国学力・学習状況調査問題【中学校数学B³：ウェーブ（比例）】

平成25年度は「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントとして「みやぎ授業づくりスタンダード」を作成しました。

本年度は「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用として、「見通し・振り返り」の学習活動に視点を当てました。「見通し・振り返り」の学習活動を充実させることが、教員の授業力向上、ひいては児童生徒の確かな学力への入口になるものと思います。本報告書を活用することによって、教職員の協働体制のもとに授業改善が図られることを期待します。

「見通し・振り返り」の学習活動を充実させるために

1 「見通し・振り返り」の学習活動が確かな学力を育む

小学校学習指導要領 第1章総則の「第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」として、新たに「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」を示しています。

小学校学習指導要領解説総則編には「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度を育むことは、学習意欲の向上に資する。」、さらに「これらの指導を通じ、児童の学習意欲が向上するとともに、児童が学習している事項について、事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりすることで学習内容の確実な定着が図られ、思考力・判断力・表現力等の育成にも資する。」と説明されています。(中学校も同様です。)

「見通し・振り返り」の学習活動は、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力・判断力・表現力等の育成につながります。



2 児童生徒自身が「見通し・振り返り」の学習活動に取り組む

平成25年度から全国学力・学習状況調査では、「見通し・振り返り」の学習活動に関わる質問を追加しています。授業の冒頭で目標の達成に向けた見通しをもち、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れることは、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力・判断力・表現力等の育成につながり、これが「確かな学力への入口」となります。

全国学力・学習状況調査における質問紙調査の宮城県の状況は次のとおりです。

(ポイント上段：肯定的な回答「よく行った」「どちらかというよく行った」の合計 下段：「よく行った」)

<学校質問紙>	小学校		中学校	
	H25(%)	H26(%)	H25(%)	H26(%)
① 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れた。	96.1 42.9	95.2 48.6	95.4 31.3	94.1 31.7
② 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。	91.4 27.1	91.6 29.1	90.9 20.0	91.6 18.8
<児童生徒質問紙>	児童		生徒	
	H25(%)	H26(%)	H25(%)	H26(%)
① 普通の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。	78.1 42.5	77.5 42.6	65.0 20.9	67.7 24.0
② 普通の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	73.3 34.0	68.0 30.1	52.9 13.6	53.0 14.3

調査結果から考えられる問題点として、教師と児童生徒の意識に差が見られることです。教師は「見通し・振り返り」の学習活動を計画的に取り入れていると思っていますが、児童生徒の中には「見通し・振り返り」の学習活動と捉えていない児童生徒がいるということです。

「見通し・振り返り」の学習活動について、教師と児童生徒との間で共有が図られているか検証し、授業改善を図りましょう。

教師も児童生徒も「よく行った」と回答できるよう、改善を目指しましょう。

児童生徒自身が、「何を学ぶのか」を理解し、「何を学んだのか」を実感できる学習活動が求められます。



1 国語科における単元導入時の「見通し」



単元導入時の「見通し」の段階では、「この学習では、どんな力を身に付けるのか」を、教師と児童生徒と一緒に押さえ、児童生徒に学習の必然性を実感させることが大切です。

小学校3年生の「読むこと（サーカスのライオン）」の指導例を紹介します。

第一 次	第二 次	第三 次
<p>○目標とその具体的な姿（第三次の姿）を知る。</p> <p>気持ちの変化を読み取る力を身に付け、1年生に読み聞かせをしよう！</p>	<p>○教材「サーカスのライオン」を通して「登場人物の気持ちや、その変化を読み取る力」を身に付ける。</p>	<p>○身に付けた力を活用し、お気に入りの本を1年生に読み聞かせる。</p>

□ポイント1 「身に付けさせる力の明確化」

あれもこれもと欲張らず、焦点化を図りましょう。

登場人物の気持ちや、その変化を読み取る力を勉強で伸ばしましょう。



学習指導要領解説国語編で指導事項を確認しましょう。

付録に、領域ごとに指導事項の系統表が掲載されています。この系統表を手元に置いておくとう便利です。

(C 読むこと)

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
目標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じて、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じて、内容や強弱をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
内容	(1) 読むことの能力を育てるため、ア 話のまともりや言葉の働きなどに気を付けて音読すること。	次の事項について指導する。 ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読すること。
読解方法			イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
学習の態度	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事象と意見との関係を考え、文章を読むこと。	ウ 目的に応じて、文章の内容を押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
学習の成果	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ち	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ

□ポイント2 「学習のゴールとなる姿の明示」

単元が終了するときの学習のゴールとなる具体的な姿を児童生徒に明示しましょう。その姿を目指して主体的に学習に取り組むことができるよう、あこがれをもたせましょう。

単元の最後は、1年生にお気に入りの本を読んであげます。今日は、先生が「サーカスのライオン」を読みます。先生は、じんざという年若いサーカスのライオンが男の子を助ける場面が気に入っています。じんざの気持ちがよく表れていると思う言葉や文に心を込めて読みますから、想像しながら聞いてください。



ぼくも上手に読んであげたいな。何の本を1年生に読んであげようかな。

□ポイント3 「単元の目標を受けた言語活動の選択」

目標を実現するために最適な単元を貫く言語活動を選び、児童生徒にも明示しましょう。

気持ちが表れている言葉や文を探し出します。その言葉や文を手掛かりに、気持ちを想像します。そして、友達と考えを交流し合い、読みを広げたり深めたりします。授業の終わりには、想像を広げたり深めたりしたことを音読に表します。毎時間、積み重ねて力を付けましょう。



□その他 単元導入時の「見通し」に必要な事前準備

- ① 実態把握：身に付けさせたい力についての一人一人の実態調査をしておきましょう。
- ② 教材研究：扱う教材について教えることと考えさせることの区別を付けておきましょう。
- ③ 学習環境の整備：参考となる資料や本を整備し、図書室の活用なども考えておきましょう。

2 国語科における各単位時間の「見通し」



各単位時間の「見通し」では、「今日は何の学習をするのか」を、教師が示すだけではなく、児童生徒に自分の学習として自覚させることが大切です。

小学校3年生の「読むこと（サーカスのライオン）」の指導例を紹介します。

第 一 次	第 二 次					第 三 次
○学習目標とその 具体の姿（第 三次の姿）を知 る。	○教材「サーカスのライオン」を通して「登場人物の気持ちや、その変化を 読み取る力」を身に付ける。					○身に付けた力 を活用し、お気 に入りの本を1 年生に読み聞か せる。
	サーカスの じんごの気 持ちを読み 取る。	夜の散歩で 男の子と出 会ったとき の気持ちを 読み取る。	男の子と話 しているじ んごの気持 ちを読み取 る。	火事が起き たときのじ んごの気持 ちを読み取 る。	サーカス最 後の日の登 場人物の気 持ちを読み 取る。	
○教材で身に付けた力を自分のお気に入りの本に適用する。						

□ポイント1「単元における本時の位置付けの意識化」

学習計画表などを基にし、単元における本時の位置付けを意識できるようにしましょう。各単位時間の学習が、どのように第三次につながっているのかを容易に見通すことができるようにしましょう。



学習計画表を見ると、今日は火事が起きた場面だな。もうすぐ1年生に自分のお気に入りの本を読んであげるんだ。そのときに、先生みたいに気持ちを盛り上げて読みたいから、今日の勉強を参考にしたいな。

□ポイント2「自分の学習課題であるという認識」

学習課題を板書し、児童生徒にノートに視写させることで、学習課題を示していると誤解していませんか。児童生徒が学習課題を自分の課題として受け止めるよう工夫しましょう。

今日は、火事が起きたときのじんごの気持ちが表れている言葉や文を見付けて、想像して読み取ります。自分のお気に入りの本でも、登場人物の気持ちが大きく変化することが分かる言葉や文を見付けて、想像して読み取ることができるようにしましょう。



「自分の学習課題であるという認識」は、学力向上に向けた5つの提言にも取り上げられています！

学力向上に向けた5つの提言（H25. 10. 16 宮城県教育委員会）

- 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること。
- 2 子供をほめること、認めること。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

3 国語科における各単位時間の「振り返り」



各単位時間の「振り返り」は、「見通し」と対になるようにします。つまり、「今日は何の勉強をするのか」に照らして「今日はどうな学びがあったのか」と、本時の学習成果を児童生徒に認識させるようにします。

□ポイント1「学びの実感」

本時の学習を通して、「自分の課題を追求できた」「はじめは分からなかったけれど、勉強して分かった」という学びの実感を味わわせるようにしましょう。ノートに自分の言葉でまとめさせることが有効です。

小学校3年生の「読むこと（サーカスのライオン）」の指導例を紹介します。

今日は、火事が起きたときのじんざの気持ちが表れている言葉や文を手掛かりに、想像豊かに読み取る勉強をしました。どんなことが勉強になりましたか？ノートに書きましょう。



気持ちが表れている言葉や文を見付けて想像して読むと、じんざの気持ちがよく分かりました。気持ちを想像して音読すると、聞いている人に伝わると思いました。



気持ちが表れている言葉は、意外にたくさんあって驚きました。「ウオーツ」という言葉の読み方を変えるだけで、気持ちの伝わり方が違うことが一番勉強になりました。

□ポイント2「学びの定着」

学習のまとめを板書し、児童生徒にノートに視写させることで、学習の振り返りやまとめとして終わっていませんか。言葉の力を身に付ける国語科では、一定の知識として押さえるだけでは不十分です。学びを定着させる工夫を行きましょう。

<指導例>

- | | |
|-----------|--|
| 「読むこと」 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材に立ち戻り、学んだことを確かめながら改めて読み返す。 ・学んだことを実際の読書に生かす。 |
| 「話す・聞くこと」 | <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを確かめながら話してみる。 ・学んだことを生活に生かせる場面を発表してみる。 |
| 「書くこと」 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習のはじめの原稿と書き直した原稿を比べ、変化したところをまとめる。 |

「学びの実感」や「学びの定着」は、学力向上に向けた5つの提言にも取り上げられています！

学力向上に向けた5つの提言（H25.10.16 宮城県教育委員会）

- 1 どの子供にも積極的に声掛けするとともに、子供の声に耳を傾けること。
- 2 子供をほめること、認めること。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

4 国語科における単元終末時の「振り返り」



単元終末時の「振り返り」は、単元導入時の「見通し」と対になるようにします。つまり、単元導入時の「この学習では、どんな力を身に付けるのか」に照らして「この学習では、どんな学びがあったのか」と、本単元の学習成果を児童生徒に認識させるようにします。

小学校3年生の「読むこと（サーカスのライオン）」の指導例を紹介します。

第 一 次	第 二 次	第 三 次
○目標とその具体の姿（第三次の姿）を知る。	○教材「サーカスのライオン」を通して「登場人物の気持ちや、その変化を読み取る力」を身に付ける。	○身に付けた力を活用し、お気に入りの本を1年生に読み聞かせる。

□ポイント1「学びの成就感」

単元の学習計画表などを基に、学習の足跡を児童生徒とともに振り返りましょう。また、学んだことを表現させ、大いにほめて認めましょう。自分の課題として追求した結果、目標を果たすことができたという成就感を味わわせましょう。



ぼくは、「サーカスのライオン」で、じんぎが「ウオーツ」と叫ぶ言葉に、たくさんのじんぎの気持ちがかくれていることを勉強しました。だから、ぼくが選んだ「スイミー」でも、スイミーの気持ちが表れている言葉を探して、そのところを何回も読んで気持ちを想像しました。その気持ちが伝わるように気を付けて読みます。

大変上手に読みましたね。特に、「スイミーは かんがえた。いろいろ かんがえた。うんと かんがえた。それから とつぜん スイミーはさげんだ。『そうだ!』」の読み方は、スイミーの気持ちがぐんぐん大きくなって、思いついたぞ!という喜びが伝わりました。



□ポイント2「新しい学びへの意欲」

満足感や成就感を味わった児童生徒は、「次は、〇〇を頑張りたい。」とつぶやいたり、ノートなどに感想を書いたりします。児童生徒と共に学ぶ楽しさにひたりましょう。



「サーカスのライオン」で勉強したように、「スイミー」を工夫して読みました。「スイミーは かんがえた。いろいろ かんがえた。うんと かんがえた。それから とつぜん スイミーはさげんだ。『そうだ!』」のところに気を付けて読みました。1年生の人たちが、たくさん拍手をしてくれたので、とてもうれしかったです。今度は、家の人たちにも読んであげたいです。



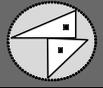
本を読むとき、劇をしているみたいで楽しかったです。今度は、図書室で別の本を選んで読んでみたいです。

授業で身に付けた言葉の力を、日常の生活に生かすことができるよう呼び掛けていきましょう。

<指導例>

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 「読むこと」 | ・ 学んだことを実際の読書に生かす。 |
| 「話す・聞くこと」 | ・ 学んだことを生活に生かせる場面を見付ける。 |
| 「書くこと」 | ・ 総合的な学習の時間などに生かす。 |

1 算数・数学科における「見通し」



算数・数学科における「見通し」には、「結果の見通し」と「方法の見通し」があります。

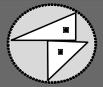
まず、「結果の見通し」について確認します。

計算問題に取り組ませたとき、あり得ない答えを出して、平然としている児童生徒が見られます。闇雲に計算に取り組むのではなく、だいたいこれくらいになるはずだと「見通し」をもって取り組んでいけば、この答えは見通したことと違うから変だと気付くはずで、結果を見通していれば、このような間違いは防げます。このように、結果を予想することが「結果の見通し」をもつということです。なお、どの授業でも「結果の見通し」をもたせるというわけではありません。学習内容によっては、「結果の見通し」が必要でない場合もあります。

次に、「方法の見通し」について確認します。

算数・数学の学習は、概念を形成したり、既習事項を活用して問題を解決したりする学習です。例えば、三角形の合同の証明など、これまでの学習経験から、「図や表を使って考えられないか」、「見通した根拠は何か」などと教師が子供に働き掛けることにより、子供は自力で解決策を見出すことがあります。方法の見通しをもって取り組むと、新しい問題場面に出会っても解決できるということを感じることができます。つまり、方法の見通しをもって問題解決に取り組ませることによって、見通したことのよさを実感できるものと思います。

2 算数・数学科における「振り返り」



算数・数学科における「振り返り」として、見通した結果や方法を振り返る「事中の振り返り」と学習したことを全体的に振り返る「終末時の振り返り」があります。

「終末時の振り返り」については、授業づくりスタンダード（本報告書P12）に記載していますので、ここでは「事中の振り返り」について確認します。

授業を参観させていただくと、問題を解いて、すぐに自力解決したことが正しいかどうかを先生に確認する児童生徒に出会うことがあります。また、自力解決後に正答だけを拾い、説明する活動を取り入れて集団解決に向かう授業も見られます。

自力解決したことが正しいかどうかを「結果の見通し」と照らし合わせたり、見通した方法で正しく解決できていたのかを確認したりするといった、「結果の振り返り」を意識して実践することが大切です。

「この解き方でいいですか。」に加えて「なぜこの解き方ではいけないのですか。」という解き方の根拠を問うことによって、確実な理解の定着を図ることが大切です。



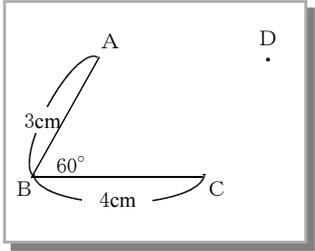
「見通し・振り返り」の学習活動のポイントを、次ページの具体的な問題で確認しましょう。

3 算数・数学科における「見通し・振り返り」の学習活動 

平成26年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例を参考に、「見通し」と「振り返り」について、小学校算数、中学校数学の例をそれぞれ一つ紹介します。

【例1】 平成26年度全国学力・学習状況調査問題【小学校算数A⑥：平行四辺形の作図】
ねらい：作図の手順や方法だけでなく、それらと関連する平行四辺形の約束や性質と結びつけ、図形の理解を深める。

- ①問題把握 右の図をもとに、平行四辺形を完成させましょう。
- ②結果の見通し 残りの点は何のあたりになりますか。
- ③考えの交流 なぜその場所になると思ったのですか。



② 考えの交流

あ ABとDC, BCとADが平行になりそうだからです。

い ABとDC, BCとADが同じ長さになりそうだからです。

ポイント
結果を予想（結果の見通し）させるだけでなく、予想した根拠を述べさせることを大切にします。

④方法の見通し それぞれの考え方で作図してみましょう。

ポイント
考えの交流の中で、「向かい合う辺が平行になりそうだから。」「向かい合う辺が同じ長さになりそうだから。」といった発言を引き出すことで、「向かい合う辺が平行になるように線を引けばよい。」「向かい合う辺の長さが等しくなるように線を引けばよい。」という**方法の見通し**をもたせます。

⑤結果の振り返り 予想したことと作図で求めた点Dの位置がほぼ同じになっているか確認しましょう。

ポイント
作図させて終わりではなく、作図したことが正しいかどうかを、自分で確認するという意識付けを図ります。

⑥方法の振り返り 2つの作図は、平行四辺形のどの特徴を用いて、作図したのですか。

- ① 向かい合う2組の辺が平行になる。
- ② 向かい合う2組の辺の長さが等しい。
- ③ 向かい合う2組の角の大きさが等しい。
- ④ 2つの対角線がそれぞれ真ん中の点で交わる。

あは、平行四辺形の特徴①を、いの特徴②を用いていますが、それぞれ他の特徴を用いていない理由を言えますか。

ポイント
他の特徴が用いられていない理由を述べさせます。そうすることで、理解の確実な定着が図られます。

「今日は、平行四辺形の特徴2つを取り上げて作図をしましたが、平行四辺形の③や④の特徴を用いても、作図できます。」といった一歩先に進もうとする児童に育てたいものです。

【例2】 平成26年度全国学力・学習状況調査問題【中学校数学B③：ウェーブ（比例）】
 ねらい：事象を理想化・単純化して問題解決した結果を、事象に即して解釈し、2つの数量の関係を数学的に説明することができる。

①問題把握

体育祭で全校生徒320人が一列に並んでウェーブをします。このとき、ウェーブをするのにかかる時間を予想してみましょう。



【ウェーブをする人数とかかる時間】

人数 x (人)	0	6	12	18	24	30	36
時間 y (秒)	0	1.4	2.9	4.1	6.0	6.8	8.4

表を延長して考えられないかな？式に表して考えられないかな？グラフに表して考えられないかな？

ポイント

生徒からは、「人数が一定の割合で増加しているとき、時間は一定の割合で増加していないので、式や表に表すことは困難です。」といった発言が予想されます。そこで、「この表をもとにグラフは作れないかな。そこから何か見えてくるかもしれないね。」と課題解決に向かわせる働き掛けをします。

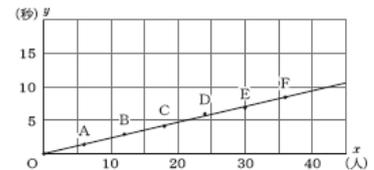
②考えの交流

グラフからどのようなことがわかりますか。



ポイント

「点が直線上に並んでいるように見えます。」といった反応が返ってくることが予想されます。そこで「直線を引いてみよう。」と切り返します。



③方法の見通し

比例とみなせるのなら、グラフや式を用いて掛かる時間を求められないだろうか。



ポイント

比例とみなし、式でも表せるのではないか、グラフの読み取りでできるのではないかといった「方法の見通し」をもたせ、解決に至らせます。なお、次の学習場面で、解き方を比較・検討させるために、できるだけグラフの読み取りによる解き方、式を立てて計算による解き方の両方に取り組みさせるようにします。

④方法の振り返り

グラフからどのようなことがわかりますか。



ポイント

解いて終わりではなく、表、グラフ、式を照らし合わせ、この解き方で本当によかったのかを振り返らせることが大切です。もし、グラフから導いた答えと、式から導いた答えが異なっていた場合には、どこに原因があるのかを比較・検討させる必要があります。

集団解決の場面では、生徒からは、いろいろなグラフの引き方が出てきて、いろいろな考えが出てくると思われますが、「多少、原点からずれるような直線になるけれども、人数が0人のときには時間も0秒だから、原点を通ると決めてもよいと思います。」といった発言を共有します。

⑤結果を確かめる

それでは実際にみんなで輪をつくり、320人分のウェーブをして、掛かる時間を実際に確かめてみよう。

比例の学習では、表、式、グラフを相互に関連付けることを大切にします。課題解決に向かわせるために、「表が与えられているのだから表から規則性を見付けよう。式で表すことはできないか、グラフではどうか。」といった解決の糸口を見付けようとしたり、「時間は人数に比例していると思えるので、式に表しても求めることができる。」といった「方法の見通し」をもって学習を進めようとしたりする生徒を育てたいものです。

第1章 児童生徒の学力向上に向けて

教師も子供も「本気で取り組む」

みやぎ 授業づくりスタンダード



- 本** 本時で何を学ばせるのかを考えましょう！
- 気** 気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！
- で** 出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！
- と** 説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！
- り** 理想の授業、指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！
- く** 繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！
- む** 夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！

「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントを「みやぎ授業づくりスタンダード」としてまとめました。

どの学校でも、どの教室でも、どの教員も共通の視点を持ちながら、日々の授業改善に向かっていただきたいと思います。

本：本時で何を学ばせるのかを考えましょう！

段階	学習課題の把握	1 本時のねらいを明確にする	
		<p>チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえていますか。 ・本時の学習活動を通して身に付けさせたい力は何ですか。 ・目の前の児童生徒の実態を踏まえたものになっていますか。 ・単元全体を見通して、本時の位置付けを捉えていますか。 <p>○ ねらいを達成させるために何を指導するのか（教えること、考えさせること）、どのような力を身に付けさせたいのかなどを明確にすることで、指導の方向性が決まってきます。</p> <p>○ 教材研究の段階で、単元の系統性を踏まえ、児童生徒にとって何が既習か、どこが未習かなどを的確に捉えることが重要です。</p> <p>○ ねらいを達成した児童生徒の具体の姿を明確にしておきましょう。</p>	
導入	見通す	2 ねらい達成のために適切な学習課題を設定する	
		<p>チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が主体的に追究したくなる課題になっていますか。 ・本時のねらいが達成できる課題になっていますか。 ・既習事項とのずれを生じる問題（教材）を提示し、児童生徒から問いを引き出していますか。（算数・数学など） <p>○ 児童生徒一人一人が、やってみたい考えてみたいという興味・関心を高めるものを提示し、自分のこととして捉えられるよう問題意識を喚起することが大切です。</p> <p>○ 問題（課題）提示により、児童生徒の問いを引き出し、つぶやきを拾い上げ、それらを生かした学習課題の設定につなげるよう十分な計画を立てましょう。</p> <p>○ 「なぜだろう？」「あれっどうして？」という疑問や知的好奇心を引き出すことが、主体的に「考えたい」「解決したい」「友達の考えを聞いてみたい」という意欲につながります。</p> <p>○ 本時でどのような力を付けさせたいのかを教材研究によって明らかにしておくことが大切です。問題場面を解決するだけが学習のねらいになるわけではありません。</p>	
展開	集団解決 【比較・検討】	3 学習課題と学習のまとめが対応することを意識して設定する	
		<p>○ どのようなまとめとなるかを教師が明確にしておくとともに、児童生徒には「学習課題に立ち返らせる」ことで、学習活動の目的を意識させましょう。</p>	
終末	まとめ・振り返り		

気：気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！

段階	学習課題の把握
	見通す
展開	自力解決
	集団解決〔比較・検討〕
終末	まとめ・振り返り

1 自分なりの解決方法で課題に取り組ませる



- ・児童生徒が自分の考えをもったり、自分の立場を明確にしたりする時間だと意識させていますか。
- ・どこまでできて、どこが分からないかを自分で言えるように意識させていますか。
- ・ノートをどのように使って何を書くかなど、多様な表現方法で考えを書けるようノート指導を継続して行っていますか。
- ・自分の考えが相手に伝わるように理由や根拠を示し、筋道立てて考えるように指導を積み重ねていますか。
- ・児童生徒の考えや学習への取組を見取り、意欲を高めるよう積極的に褒めたり、声掛けをしたりしていますか。
- ・学習効率だけを考えて、安易にワークシートを活用していませんか。



- 課題を既習事項と関連付け、これまで解決した方法が使えないかと考えさせることが大切です。
- サイドラインの引かせ方、グラフや資料の読み方、活用の仕方など、教師が教え、学習活動の中で繰り返し指導して身に付けさせましょう。
- 教科書や資料、データ等を基に、自分の考えの理由や根拠を明確に示し、相手に分かりやすく説明できるようにノート指導を充実させる必要があります。書くことで、考えが促されたり、整理されたりします。
- 児童生徒に「何をどこまで求めるのか」を教師が明確にしておくことで、自力解決で考えさせる内容、必要な時間、集団解決のもち方（何をさせるのか）などが、おのずと決まってきます。
- 一人一人の考えを見取り、賞賛の声掛けや適切な助言をしましょう。



○『学びが見えるノートにしよう！』

学年の発達段階や教科の特性に応じてノートの書き方も異なりますが、学校、教科で共通理解をして指導することが大切です。

- ① 板書を視写する。(構造的な板書が求められる。)
- ② 自分の考えを書く。
- ③ 友達の考えや授業のポイントなどを書く。
- ④ 学び合い(考えの交流)の後、考えを見直したり、書き加えたりする。
- ⑤ 本時の学習を振り返る。

①②で終わらせずに、③④⑤を意識して自分の考えの変容など学びを振り返られるノートに！

- ・ノートはできれば授業毎に回収して、評価することで児童生徒の意欲、思考力、表現力を高めます。
- ・児童生徒の発達段階等を考慮して、場面絵を描いたり、イラストで描くことなど多様な表現方法を認め、あせらず徐々に段階を踏んで考えさせていくことが重要です。

学習問題	友達の考え
学習課題	※気付き・新たに考えたことなど
自分の考え	○まとめ
	○振り返り

ノート例

で：出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！

段階	学習課題の把握	1 ねらいに応じた話し合いの方法，形態を工夫する	
		<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要感のある話し合いになっていますか。 考えの発表で終わっていませんか。 児童生徒に話し合う目的や方法を示していますか。 (児童生徒は話し合いの目的や方法を理解していますか。) <p>○ 形だけのペア学習，グループ学習，全体での話し合いを行うことではありません。本時のねらいを達成したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けさせたりするために言語活動の充実が必要なのです。</p> <p>○ ペア学習やグループ学習を行う目的や方法を児童生徒に示し，継続して指導を行うことで，目的意識や話し合いの方法が身に付きます。</p> <p>○ 話し合う目的は何か，そのためにどのような話し合いの形態がふさわしいのかをよく考えてペア学習やグループ学習を取り入れましょう。</p>	
導入	見通す	2 児童生徒間の関わりを意図的に設定する	
		<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> いつも決まった児童生徒だけの発表になっていませんか。 能動的に「聞くこと」「聴き合うこと」を意識させていますか。 児童生徒の思いや考えを見取り，褒めたり認めたりするとともに意図的に類型化して取り上げていますか。 共通点や相違点を整理して，それぞれの考えを関連付けていますか。 教師が全て説明していませんか。 児童生徒に説明や関連付けをさせていますか。 <p>○ 児童生徒の考えを見取り，どの考えをどの順番で取り上げ，関連付けるかを考えておくことが大切です。</p> <p>○ 関わらせる目的を明確にし，話し合う必然性を理解させることが大切です。「多様な考えを引き出したい」「友達の考えを理解させたい」「どの考えがよりよい考えか検討させたい」などを明確にするとともに，対立や矛盾などを示すことで，児童生徒の思考を揺さぶり，話し合いをする必然性をつくっていきます。</p> <p>○ ペア学習，グループ学習では，何を発表させ（説明させ），何を書かせるか（相違点や相手の考えのなるほどと思ったところなど）など目的や意味を理解させていくことが大切です。</p> <p>○ それぞれの考えを関連付け，共通点や相違点に気付かせたり，考えを比較・検討させたりすることが教師の大切な役割です。考えや気付き，学ぶ姿などに向上的な評価言を添え，自己肯定感を高めさせましょう。</p> <p>○ なるほどと思った友達の考え方や新たに気付いたことなどをノートに書き加えることで，学び合うことの意義，考えの深まりを実感させたいものです。</p>	
展開	自力解決	集団解決	比較・検討
終末			

と：説くことでなく，振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！

段階	導	学習課題の把握 見通す	<h3>1 本時の学習をまとめる</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対応したまとめになっていますか。 ・形式的に板書を視写するだけになっていませんか。 ・学習したことが共有できていますか。 ・1時間の学習が一目で分かる板書になっていますか。 <div style="text-align: right;">  </div>
			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 答えを出した方法を吟味し，よりよい方法を学び，いつでも使える一般的な方法に高めたり，問題を解くポイントをまとめたりすることが大切です。 ○ 本時の学習を通して「何が分かったのか」「どのような力が身に付いたのか」が分かるように，本時のねらいや学習課題と整合性があるかを意識してまとめましょう。 ○ 板書が構造的で見やすく，分かりやすいものであるか，板書計画を吟味しておきましょう。学習課題とねらいに整合性があるかを可視化して判断することができます。 </div>
展	開	自力解決 集団解決（比較・検討）	<h3>2 本時の学習を振り返る</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・今日はどのような課題に向き合い，何をどのように考え，そこからどんなことを理解し，学んだかなどの視点を与えて振り返らせていますか。（書く観点や分量を示した学習感想など） ・「～できた」「うまくいかなかった」という結果だけで終わらせていませんか。 ・学んだこと，共有化したことを使って適用問題に取り組ませていますか。 ・友達と学び合うことで新たな発見や気づきが生まれ，考えや理解が深まったことを実感させていますか。（適用問題・小テスト・学習感想など） <div style="text-align: right;">  </div>
			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「何をどのようにしたから分かったのか」あるいは「何が足りなかったのか」「それはなぜか」「学んだことを今後どう生かしていくか」などの視点を示し，できるようになった過程を振り返り，今後の学習への見通しなどをもたせることも大切です。振り返りのさせ方を工夫し，児童生徒の主体的な学びへつなげていきましょう。 ○ 実際に類似の問題を解いて，よりよく解けるようになったことを実感したり，自分なりに大切だと思ったこと，考えて理解できたこと，新たに気付いたことなどを書いたりすることが大切です。「個」で考えたことを基に「集団」で考えを共有化し，それらを踏まえ「個」にもどって考えさせることが，考えの深まりや学びの自覚につながります。 ○ 児童生徒が本時のねらいを達成できたか，考えを深めることができたかどうかを「適用問題」「学習感想」などで見取るとともに，教師の「授業評価」の方法を工夫し，授業改善に生かしていきましょう。 </div>
終末		まとめ・振り返り	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 家庭学習につなげる工夫も考えましょう。 </div>

り：理想の授業，指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！

◎ 教師の授業力を伸ばす・・・「授業づくり～模擬授業のすすめ～」

模擬授業とは ⇒ 教師が指導者役と児童生徒役に分かれ，授業場面を実際にやること



実際に模擬授業を行ってみると，自分の書いた指導案の展開では授業がうまく流れないことに気付いたり，発問が分かりにくかったり，児童生徒役の先生の反応にうろたえたりと，いろいろな改善点が見えてくるものです。

この模擬授業は，授業のある場面だけを想定して行うことも可能ですので，単位時間（45分間や50分間）をかけなくても実践できます。教師役だけではなく，児童生徒役になることも，児童生徒理解の一助にもなりますし，何よりも，学校や学年の研究への取組に一体感が生まれます。

模擬授業のよさについて ⇒ 本時のねらいや提案事項を事前に共有化すること



模擬授業は，実際の授業場面を想定して行うので，授業の流れ，発問のよしあし，指示，板書の仕方やタイミング，教師の動き，児童の反応などを具体的に検討できます。普段の授業で迷っていることや疑問に感じていることを提示しながら，その状況を共有し，改善点を見付け出すことができます。

また，授業者の細かい指導技術を学んだり，より効果的な指導技術を見付け出すこともできます。さらに，教師が児童生徒役になってみることによって，児童生徒の反応を多方面から予測することを学べ，授業を考える上でのヒントをいくつも得られます。

1時間の授業をすべて行う必要はありません。研修内容によって，10分間でも20分間でもかまいません。導入の部分だけを取り上げて見ることもできますし，展開の一場面を取り上げてみることも可能です。

模擬授業の方法 ⇒ 趣旨説明は端的に，途中解説を入れずに，本番のように行うこと

全体で

研究授業の事前検討会に模擬授業を取り入れている学校もあります。参加者全員で学習過程のポイントとなる部分や，授業者が悩んでいる部分を模擬授業を通して検討することで，より授業改善につながります。

また，打合せの前や職員会議のはじめに，輪番制で10分間の模擬授業を行う方法もあります。気付いたことを付箋紙やメモなどに書き，視点別のシート等に貼って授業者に渡したり，回覧したりする方法です。このように短時間で継続的に行う方法も可能です。



教科ごとで

中学校の教科部会で，研修の一環として，模擬授業を取り入れていく方法です。同一教科担当者が，共通の課題を意識しながら模擬授業を行うことで，教科ならではの研修ポイントを絞って行うことができます。

学年部ごとで

学年部会を活用して模擬授業を行う方法です。同学年担当の教員であることから，児童生徒の実態を理解し合うことが容易で，授業の指導技術だけでなく，広く児童生徒の指導を考えることが可能です。

く：繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！



自分の授業を公開して多くの先生方に参観してもらったり、他の先生の授業を参観したりすることで、授業を互いに見合う機会が増えてきます。模擬授業や研究授業等では、ねらいに応じて、適切な観点を設定したいものです。校内研究の視点や手立てを活用している学校も多いかと思われます。

模擬授業実施の観点例

模擬授業を効果的に行うためには、模擬授業での指導の観点を明確にすることが大切です。観点例を以下に挙げてみます。

(1) 授業の進め方について

- ・導入部には、児童生徒を引きつける工夫が見られるか。
- ・ねらいが明確であり、ねらいに沿った学習課題が提示されているか。
- ・展開部には、教える場面や考えさせる場面、児童生徒の活動場面が適切に設定されているか。
- ・児童生徒の思考や活動に無理がないように、授業が易から難へと展開するように工夫されているか。
- ・教師は何を学ばせたか、児童生徒は何を学んだかが明確になっているか。

(2) 教師の発問や指示について

- ・学習課題（めあて）を達成できるような発問になっているか。
- ・教師の意図に沿って児童生徒が活動できるような指示になっているか。
- ・発問や指示は、ねらいが明確で分かりやすいものか。また、児童生徒の意欲を引き出し、活発に活動させることができるように工夫されているか。
- ・児童生徒の発達段階に即した言葉遣いであるか。

(3) 板書について

- ・1時間の授業の流れ、学習の足跡が見える板書になっているか。
- ・文字の大きさや分量、チョークの色使い、提示物は適切であるか。
- ・1時間の授業の「学習課題（めあて）」や「まとめ」は分かりやすくまとまっているか。

(4) 児童生徒への配慮や支援について

- ・児童生徒一人一人の発達段階や理解の程度に配慮しながら、意図的な指名ができてきているか。
- ・児童生徒の実態に応じた手立てや支援は適切であるか。
- ・児童生徒を認め、褒めたり励ましたりすることで、自己肯定感をもたせているか。
- ・机間指導のねらいやタイミングは適切であるか。
- ・児童生徒が学びを実感できる振り返りがなされているか。

(5) 資料や教材について

- ・準備された資料や教具は、ねらいを達成する上で適切であるか。

「教師にも大切な振り返り」 日々の授業を振り返り、次の実践につなげましょう。

○ 授業評価の意義

授業評価は、学習指導要領や教育目標を踏まえ、授業のねらいや児童生徒の実態に照らし合わせながら、多面的・多角的に振り返る営みです。授業評価をもとに授業改善を図っていくことは、教師一人一人の力量を確かなものにし、授業の質を高めることにつながります。それは、児童生徒一人一人の学力向上にもつながるものです。

○ 今日的な授業評価

授業評価は、「校内研究の目標や仮説に沿っての評価」「単元や学期を通しての総括的な評価」になりがちです。日々の授業については、教師自身の判断で意図的に評価する以外は、学校全体で日常的にあまり行われてこなかったのではないのでしょうか。形成的評価が授業の過程で実施され、授業計画の修正や児童生徒の回復指導などに生かされますが、授業のポイントが明確でなかったり、児童生徒へ適切にフィードバックされていなかったりしている面があります。また、評価方法や観点なども学校として共通に認識されていなかったかもしれません。

学校全体で日々の授業を改善するためには、個々の教師が日々の自分自身の授業を継続的に振り返ることはもちろん、学年部や教科部、全校で互いの授業を気軽に見せ合い（「開き」）、意見を交換し合いながら授業の課題を共有していくことが大切です。

さらに、これからは児童生徒や保護者、地域の方々など様々な評価にも耐えうる授業づくりが一層求められています。時代のニーズに対応できるような授業評価を求め、授業力の向上に努めていく必要があります。

○ 授業評価シートの作成と活用に向けて

学校全体で授業の質を高めるための授業評価の方法には、教科や児童生徒の発達段階に応じた様々な方法があると思います。まずは評価者が評価項目を共有し、同一の視点から授業を検討する必要があると感じます。課題の共有化や授業改善の糸口の発見が可能になると考えられるからです。

そのためにも、校内で統一した授業評価シートを作成し、**授業者自身が授業を振り返ったり、全校で授業の成果と課題を明らかにしたりして授業改善につなげる**ことがより大切になってきます。評価結果を集約し、これを基に授業検討会を行うことでより活発な話し合いができるかもしれません。

評価シートの観点や項目については、各学校の教育目標や校内研究の目標、授業評価の実態などを踏まえて作成することが大切であると考えます。

本気でとrikumu

〈授業評価シート（例）〉

◎ できる 続ける つながる 3分間の振り返り

※ 評価後、授業づくりスタンダードを活用し、授業改善につなげましょう。

No. _____		月 日 ()	時
		授業教科 ()	
A : おおいにあてはまる B : あてはまる C : ややあてはまらない D : あてはまらない			
観点の項目 (参考ページ)	設	問	評 価
授 業 展 開 や 指 導 技 術	ねらいの明確化 (P 1)	・ 授業のねらいを明確にし、学習課題（めあて）を板書し、子供に把握させている。	
	思考場面 (P 2)	・ 子供が考える場面、書く時間を十分確保している。	
	発表や学び合いの工夫 (P 3)	・ 子供が発表できる機会を作っている。 ・ 話し合うねらいを明確にして、適切な形態（ペアやグループ、全体等）で話し合う場を設定している。	
	発問・指示 (P 6)	・ 子供にとって明確で分かりやすい発問や指示をしている。（繰り返さない） ・ 教師が説明し過ぎず、子供から考えを引き出している。	
	対応・支援 (P 3) (P 2) (P 6)	・ 意欲の低い子供、発言が少ない子供にも意図的・計画的な指名をし、適切に声掛けしている。 ・ 子供の声に耳を傾け、考えや学ぶ姿を見取り、褒めたり、励ましたりしながら、子供の学習意欲や自己肯定感を高めている。	
	板書 (P 6)	・ 授業の内容が構造化され、重要箇所は色チョークを使い、1時間の学びが分かるよう工夫されている。	
子 供 の 様 子	評価（振り返り） (P 4)	・ 授業の最後に、本時の授業を振り返り、学びの実感をもたせている。（適用問題、小テスト、学習感想、自己評価や相互評価等）	
	子供の様子で気付いたこと		

※ 授業内容に応じて、項目を増やしたり、絞ったりすることも必要と考えられます。授業評価シートを活用して日々の授業を振り返り、授業改善につなげましょう。

む：夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！



教師が本気になって「分かる授業・できる授業」づくりに取り組むことは、着実な授業改善、授業力向上につながっていきます。また、「分かる授業・できる授業」が児童生徒の学習意欲を高め、学ぶ楽しさ、できる喜びを実感させることで、学力の向上が図られていくものと考えます。

児童生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にして、授業アイデア例を有効に活用したり、授業に工夫を加えたりするなどできることから始めましょう。

- ※ 授業アイデア例・・・① 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ② 本報告書 等

～ 当たり前に行っていることも意図的に！ 基礎的な力、
 「書く力」「考える力」等を伸ばす授業のワンポイント工夫例 ～
 習熟の工夫、既習事項や新聞等の活用、課題提示の工夫で子供を鍛える

- (1) 「効率的な漢字練習法で定着率の向上」
- (2) 「習熟を通した定着率の向上」
- (3) 「社説を使った、読む力と書く力の向上」
- (4) 「課題提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」



(1) 「効率的な漢字練習法」

- ① ノートに折り目をつけて四列にする。
- ② 練習したい漢字の読み方をノートの一列目に書く。
- ③ 少し時間をおいてから、その漢字が書けるかどうか
 答えを二列目に書いてみる。【1回目】
- ④ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。
- ⑤ 丸が付いたものは覚えた漢字なので1回目で合格。
 間違えたり書けなかったりした漢字だけ、読み方を、三列目にもう一度書く。
- ⑥ 間違えたり書けなかったりした漢字だけを、四列目に書いてみる。【2回目】
- ⑦ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。【後は全部書けるまで繰り返し】

◎ノート

一列目
二列目
三列目
四列目

- ・ この「自己テスト法」は、書ける（覚えた）漢字は1回だけ、書けない（覚えていない）漢字は、書けるまで（覚えるまで）何回も練習することになります。
- ・ 例えば、同じ漢字を10回ずつ書いて覚える作業だと、書けるようになっている漢字も10回ずつ書くことになりしますので、その分だけ時間が余計にかかります。大切なのは、その漢字を書けるようになったか（覚えたか）どうかですので、このやり方だと、時間を節約しながら、効率的に練習ができます。
- ・ 読み方と漢字を一緒に覚えることになるので、特別な「読み練習」をしなくても、「読む力」も付きます。
- ・ さらに、記憶の「IN PUT」と「OUT PUT」を交互に繰り返すので、漢字だけに限らず、他教科（社会や理科）への波及効果も十分に期待できます。
 特に、英単語を覚えるときにも有効な方法です。
- ・ ノートは高学年や中学生であれば、六列に分けてもよいと思われます。

(2) 「習熟を通じた定着」

- ① 授業の終末や習熟の時間に適用問題，習熟問題に取り組んで，定着を図ります。
- ・ 特に，TT指導や少人数指導の場合，終末や習熟の場面で児童生徒一人一人の取組を見取り，丸付け，助言を意図的に行うとより効果的です。
 - ・ 例えば算数で，補充問題，発展問題を事前に何題も準備し（数枚のプリント），その児童生徒の学習段階に応じて，取り組ませます。みやぎ単元問題ライブラリー等を活用し，予め学年分，単元分を印刷するなどして，いつでも使えるようにしておきます。ファイリングして，できるようになったところ，間違った問題などを自覚させることもできます。
- ② 学習場面で，前時までの既習事項を活用する場面を設定したり，日常場面で意図的に活用させたりしていくこともできます。
- ・ 例えば，グラフや表などの資料の読み方（データの取り出し）を学んだら，説明する内容の根拠として最も適切な資料を選ぶ学習をします。
 - ・ 複数の資料から必要な情報を取り出すこと，情報が根拠として適切かどうかを判断することを通して，資料の読み方の定着を図ることができます。

(3) 「社説を使った，読む力，書く力の向上」

- ① この学習は，10分間で新聞の社説（だいたい1600～2000字程度）を読んで，要旨を100字ちょうどにまとめる，というものです。
- ② 400字詰原稿用紙を使うと，4日分になります。高学年や中学生の夏休みの課題として10日分や20日分をまとめて出して，毎日行くと効果的です。
- ・ 期待できる学習の効果としては，論説文を読む力が付くと同時に書く力を付けることができます。また語彙を増やすことができます。
 - ・ 10分間で社説を読んで100字ぴったりに書くためには，慣れるまでが大変ですから，児童生徒の実態に合わせて制限時間を変えることもできます。

(4) 「提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」

- ① 問題（課題）提示の仕方を工夫することで，児童生徒の思考が促されます。
- ・ 例えば，連続する2つの整数の2乗の差を提示します。
- | | |
|---|-----------------------------|
| A「連続する2つの整数の2乗の差は，その2つの整数の和になります。このことが成り立つことを証明しなさい。」 | $4^2 - 3^2 = 7$ |
| B「この計算からどんなことが考えられるでしょうか。」 | $9^2 - 8^2 = 17$ |
| | $10^2 - 9^2 = 19$ |
| | $25^2 - 24^2 = 49$ |
| | ※ $(-7)^2 - (-8)^2 = -15$ |
| | ※ $(-14)^2 - (-15)^2 = -29$ |
- ・ AでもBでも証明を行うことには変わりありませんが，Aは「成り立つ」ことが与えられているのであまり必要感を意識せずに証明に取り組みます。一方，Bは，共通点に気付き，予想（仮説）を立てる際に思考が促されます。そこから（自分の予想が成り立つことを証明するという）目的意識をもって主体的に取り組むと考えられます。
 - ・ 同じ問題場面でも，課題提示の仕方や発問の工夫によって，学習意欲や思考力を高めることにつながります。少しずつ工夫をしていきましょう

みなさん このように活用していますよ！

平成25年度宮城県検証改善委員会報告書活用状況調査（H26.6実施）より

☆日常の活用では

- ・増刷りし、全員に配布して、授業づくりや研究授業の際に活用しています。（中学校）
- ・評価シートを使って1日1時間授業を振り返り、授業改善に役立っています。
- ・「学力向上に向けた5つの提言」を増刷りして全員に配布し、職員室にも拡大版を掲示して、いつでも目に留まるようにしています。

☆職員会議では

- ・研究部が、一つずつポイントを提示して共通理解を図っています。

☆校内研究の推進では

- ・授業の進め方や発問、板書、また、評価の仕方等についての理解を深めるとともに、本校の授業の基本的な組立てを作成するのに役立っています。
- ・「授業づくり～模擬授業のすすめ～」(本報告書13, 14ページ)を参考に、校内研究で行っている模擬授業の行い方を見直しました。
- ・授業評価シートを、研究授業の参観の際に活用しています。
- ・研修会の話合いの際に、必携資料として全員が持参して活用しています。
- ・全国と自校の調査結果を重ねて、学習指導や校内研究の成果や課題を確認するのに使っています。

☆学習指導案を作成するときには

- ・県内の学習状況の課題のところを読み、自分の算数科の授業づくりの参考にしました。

☆初任者研修の資料として

- ・初めて学級担任をする職員に、授業の進め方の基本を説明するときに使いました。

☆自校の全国学力・学習状況調査の結果分析では

- ・自校の結果検証のために、研究部が中心となって資料を活用しました。

☆研究紀要の作成では

- ・年度末の研究紀要作成時に、報告書の調査結果データを参考にしました。

☆保護者への働き掛けでは

- ・学校だより等へ一部を引用し、家庭学習への協力をお願いする材料としました。
- ・家庭学習の定着を図るために、家庭学習の質を高める3つのヒントなどを活用しています。

☆児童生徒へ学習を促す資料を作成する際に

- ・今ある「学習のきまり」「家庭学習の手引き」等を改善する作業の資料として役立ちました。



☆ 「みやぎ授業づくりスタンダード」を活用した学校の声 ☆ ～ 校内研修会で参考資料として読み合う ～



(研究主任からの説明)

- 年度初めの校内研修会で、「みやぎ授業づくりスタンダード」を読み合いました。自校の実態と照らして話し合ったり、授業研修の手立てとして参考にしたりしました。
- 研究授業の事後検討会では、「みやぎ授業づくりスタンダード」を手元に置いて話し合い、共通理解を図ることができました。

(授業者自評)

「みやぎ授業づくりスタンダード(本報告書10ページ)に書いてありますが、ノートづくりを大切にしてきました。ノートづくりの約束事が浸透してきたと思います。」



第1章 児童生徒の学力向上に向けて



教員の教科指導力の向上 児童生徒の学習習慣の形成 教育環境基盤の充実



2 教員の教科指導力の向上

平成26年度の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

(1) 小学校 国語

① 成果と課題、指導改善のポイント例

<話すこと・聞くこと>

成果

- 質問の意図を捉える。[B 1二]

課題

- △ 話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける。[A 7]
- △ 目的に応じて、話し合いの観点を整理する。[B 1一]

指導改善のポイント例

- * 話し合う際、目的や意図を明確にした上で観点を設定し、その観点に沿って意見を整理していくことが大切です。そのためには、目的や意図に応じた適切な話し合いの観点を選択させ、出された観点と意見とを関係付けるために図で分類したり、表にまとめさせたりしましょう。
- * 話し手の発言を受け止め、話し合いの適切な観点を明確にしていくために、司会には、発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えることができるように指導しましょう。

<書くこと>

成果

- 仮定の表現として、適切なものを捉える。[A 6二]

課題

- △ 情景描写の効果を捉える。[A 3]
- △ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く。

[B 2二]

指導改善のポイント例

- * 物語を創作する上で、表現の特徴とその効果を捉えることは大切です。文学的な文章を読むことの授業において、描写の工夫（行動や表情、会話、風景など）の効果を理解することができるように指導しましょう。
- * 必要な情報を取り出し、分類したり関係付けたりした上で全体を通して分かったことや考えたことを書かせることが大切です。構成や記述などについて条件を示して書かせましょう。

<読むこと>

成果

- 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える。[A4]

課題

- △ 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く。[B3三]
- △ 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く。[B2二]
- △ 課題を解決するために、目次や検索を活用して効果的に読む。[B2三]

指導改善のポイント例

- * 複数の詩を比べて読み、自分の考えを書くために、表現の工夫や詩の捉え方を観点にしてそれぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈ができるように指導しましょう。
(次項「授業アイデア例」参照)
- * 必要な情報を取り出して、分類したり関係付けたりした上で、全体を通して分かったことや考えたことを一定のまとまった文章にして書かかせましょう。
- * 課題に対する解答や結果の予想を立て、どのような方法で必要な情報を収集するとよいかなど、解決のための見通しをもって本や文章を探して読ませましょう。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

成果

- 故事成語の意味と使い方を理解する。[A2二]
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。[A1一(2)]
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。[A1二(2)]

課題

- △ 情景描写の効果を考える。[A3]
- △ 国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する。[A8]
- △ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を考える。[B3一(1)]

指導改善のポイント例

- * 物語を創作する上で、物語の表現の特徴とその効果について捉えさせることが大切です。物語などの文学的な文章を読む授業で、描写の工夫(行動や表情など)の効果を理解することができるように指導しましょう。
- * 国語の学習だけでなく、各教科等の学習や日常生活においても、国語辞典を使って言葉の意味や使い方を調べる習慣を身に付け、言葉についての関心を高めましょう。
- * 詩の連の構成(連と連の関係、連の中に書かれている内容)、表現技法(比喩・反復・擬態語・擬声語など)、表記の仕方(漢字・平仮名・片仮名、常体と敬体の違いなど)などについて具体的に指導しましょう。

②授業アイデア例

1 課題が見られた問題の概要と結果…B③三 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く（正答率：宮城県 44.4% 全国 48.1%）

2 単元名 「詩を読み比べ、自分の考えをまとめて発表しよう」（東京書籍 5年）

3 目標

- ・詩の内容や表現の工夫について、考えながら読もうとする。【関心・意欲・態度】
- ・二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉えるとともに、それらについて自分の考えをまとめることができる。【読むこと】
- ・比喩や反復などの表現の工夫に着目しながら、詩を読み味わうことができる。【伝 国】

4 授業改善の視点

- (1) 「見通し」の工夫
- (2) 「詩を読む視点」の提示
- (3) 「振り返り」の工夫

「単元全体」と「本時」の二つの視点から課題解決の見通しをもたせ、子供の意欲を高めましょう。



5 指導過程(第3時間目)

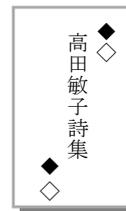
(1) 「見通し」の工夫

・[単元全体の見通し]「学習のゴールとなる姿」を明示し、「本単元で身に付けさせる力」を理解させる。「学習計画表」も提示することで、児童に課題解決の見通しをもたせる。

4	③	2	1	学習のゴール
○単元全体の学びを振り返る。	○それぞれの作者のものの方や考え方について、感じたことを発表し合う。	○高田敏子の詩「水のこころ」「樹の心」を読み比べる。	○自分が感じたことをまとめて発表し合う。	○学習の見通しをもつ。 ○「詩を読む視点」を理解する。
		○黒田三郎の詩「紙風船」「支度」を読み比べる。		詩を読み比べ、自分の考えをまとめて発表しよう。

・[本時の見通し]以下のような手立てをとり、学習課題を自分の課題として受け止めさせる。

- ① 左の「学習計画表」を基に、単元全体における本時の位置付けを確認する。
- ② 前時の「読み比べ」を振り返り、本時も同じ手順、同じ観点で詩を読み比べていくことを理解させる。
- ③ 本時で扱う「高田敏子」の詩集を紹介することで、子供の意欲を高めさせる。



高田敏子さんには、たくさん作品があります。今日は「心」を題材にした二つの詩を読んでいきましょう。



段階	T：主な発問・指示 S：予想される児童の反応	(1) (2) (3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点
導入	T：学習課題と本時の見通しを提示 「水のこころ」と「樹の心」を比べて読み、感じたことを自分の言葉で書きましょう。 S：学習課題を確認し、見通しをもつ。	(1) 「見通し」の工夫 ・[単元全体]と[本時]の両方から、児童に学習の見通しをもたせる。 ・特に[本時の見通し]については、上記①～③のような手立てをとることで、具体的に課題解決の見通しをもたせる。
展開	T：今日は、高田敏子さんがつくった二つの詩「水のこころ」と「樹の心」を読み、感じたことをまとめましょう。 S：二つの詩にはどんなことが書いてあるのかな。 T：「詩を読む視点」を基にして、二つの詩の共通点と異なる点を整理していきましょう。	* 「水のこころ」と「樹の心」の二つの詩を比べて読み、自分が感じたことをノートにまとめながら本時の課題を解決していくことを理解させる。
		課題克服のポイント 二つの詩を比べて読み自分の考えを書くためには、表現の工夫や詩の捉え方を観点にしてそれぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈することができるように指導することが大切である。(次頁参照)

(2) 「詩を読む視点」の提示

- ・児童が常に確かめたり振り返ったりできるように工夫して提示する。
- 【例】模造紙やカードに記して掲示する、ノートに貼付させる。
- ・自分の考えを確実にもたせられるような指導過程を取り入れる。

【例】①二つの詩の共通点と相違点を全体で整理→②個人でのまとめ→③全体で交流

【内容】		【表現の仕方】	
①題材	③時や場所	①連の構成	→連と連の関係、連の内容
②登場人物	④語り手の視点 →誰が誰に対して、どのようなことをどのように(優しく・温かくなど)語っているのか。	②表記	→漢字・平仮名・片仮名、常体と敬体
		③表現技法	→反復・比喩・擬人法・擬声語・擬態語・省略 倒置法・列挙 など
			※用語の指導ではなく、具体例を取り上げながら気付かせる。

展
開

【異なる点】 水のところ 【内容】 ・人の心を水に例えている。 ・様子を表す言葉(びったり、そおつと) 【表現の仕方】 ・敬体 ・「ころ(ひらがな)」の使用 ・リズム感 ・くり返し	【共通点】 「水のところ」「樹の心」 【内容】 ・題名に「ころ(心)」を使っている。 ・水と樹の心を例に取り上げながら、作者の思いを語っている。 【表現の仕方】 ・三連に分かれている。 ・句読点がない。	【板書】 「水のところ」「樹の心」 【共通点】 「水のところ」「樹の心」 【内容】 ・題名に「ころ(心)」を使っている。 ・水と樹の心を例に取り上げながら、作者の思いを語っている。 【表現の仕方】 ・三連に分かれている。 ・句読点がない。

T: 「詩を読む視点」をもとに二つの詩を比べて読み、次の三つの条件に合せて感じたことを書きましょう。

- ① 共通点や異なる点を取り上げて書くこと。
- ② 「ころ(心)」と「高田敏子」の両方の言葉を使って書くこと。
- ③ ノートに3～5行程度で書くこと。

S: 高田敏子さんがどちらの詩にも使った「心」という言葉は、ひらがなで書くとやさしい感じになると思いました。

高田敏子さんは、心についての自分の考えを、水と樹を例にしながら読み手にうたえていると感じました。

終
末

(略)
T: 今日の学習で学んだことや新たに気付いたことについて、ノートに3行程度で書きましょう。

S: 二つの詩を比べるときは、共通する点や違っている点に気を付けて読んでいけばよいことが分かりました。

(3) 「振り返り」の工夫

- ・【本時の振り返り】 次の視点から本時を振り返らせることで、学びの実感をもたせる。「本時における気付き・発見」「新たにできるようになったこと」「自分の変容」等
- ・【単元全体の振り返り】 本時の学びが次時以降にどのようにつながるのかを明らかにし、新しい学びへの意欲を高める。

【年間を通して「身に付けた力」を実感させていくために…】

【例】「読みのポイント一覧表(身に付けた力)」の作成と活用

* 「読みのポイント一覧表(身に付けた力)」を常時教室に掲示し、単元の学習が終わるごとに身に付けた力を書き加えていく。児童のノートにも同様のものを貼付させることで、いつでも確認したり活用しることができる。

読みのポイント一覧表 (身に付けた力) 【読むこと】 ◆ 思いが伝わるように音読する力 ・ 声の出し方・速さ・間の取り方 ◆ あらすじをつかむ力 ◆ 登場人物の気持ちを考える力 ・ 会話・様子を表す言葉・描写 ◆ 小見出しを考える力
--

本単元の学習後は、
◆ 詩を読む力(内容・表現の仕方)
◆ 自分の考えをまとめる力
等が左の表に加わります。



(2) 中学校 国語

① 成果と課題、指導改善のポイント例

<話すこと・聞くこと>

成果

- 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する。[A6一]
- 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす。[A6二]
- 必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す。[A1二]

課題

- △ 目的に応じて、資料を効果的に活用して話す。[A1一]

指導改善のポイント例

- * 報告や説明をするスピーチの際には、内容や場に応じて、文字や図形などを用いて視覚に訴える資料を活用することが有効です。フリップの他にも、プレゼンテーションソフトなどを活用して資料を作成したり、実物投影機で資料を提示したりして指導しましょう。

<書くこと>

成果

- 書いた文書について意見を交流し、文章を書き直す。[A7二]
- 心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える。[A2一]

課題

- △ 落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして書く。[B3三]
- △ 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く。

[B2三]

指導改善のポイント例

- * 文学的な文章を読む際には、登場人物の心情を豊かに想像することが、文章全体の面白さや雰囲気を楽しむことにつながります。場面ごとに登場人物の心情を独立して捉えるだけでなく、文章の展開に即して変化していく心情を捉えさせるようにしましょう。
- * 登場人物の心情や作者の思いなどを想像するためには、自分が感じたことや考えたことの根拠を、文章の一節や文章の展開に照らして明らかにさせるように指導しましょう。
- * 本や文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図れます。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現できるようにしましょう。

<読むこと>

成果

- 文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ。[A1二]
- 文脈の中における語句の意味を理解する。[A3二]
- 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。[A3一]
- 文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する。[A5二]

課題

- △ 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える。[B2一]
- △ 資料から適切な情報を得て、伝えたい事案や事柄が明確に伝わるように書く。[B2三]
- △ 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く。[B1三]

指導改善のポイント例

- * 目的に応じて、文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解させることが必要です。説明的な文章を読んで、更に調べたいことを明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動にしましょう。
(次項「授業アイデア例」参照)
- * 本や文章を読んで得られた知識は、他の人に向けて説明することで一層明確になるとともに定着が図られます。説明する際には、複数の情報を正確に理解し、相手や目的に応じて取捨選択したり関係付けたりして、説明する内容を適切に表現できるようにしましょう。
- * 書いた文章を交流する際は、どのような観点で意見を述べ合うかを明確にする必要があります。その上で、単に感想を述べ合うだけでなく、叙述を具体的に取り上げたり、自分の考える代案を示したりするなど、根拠を示して具体的に述べ合うようにしましょう。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

成果

- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。[A8三ウ]
- 文脈に即して、漢字を正しく読む。[A8二1]
- 古典と昔話とを対比させて内容を捉える。[A8五2]
- 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く。[B1三]

課題

- △ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。[A8五1]
- △ 表現の技法について理解する。[B1一]
- △ 文脈に即して、漢字を書く。[A8一1, 2, 三ア]

指導改善のポイント例

- * 文語のきまりについては、音読や朗読をしたり、音声を聞いたりすることを通して理解するように指導しましょう。
- * 比喻や反復などの表現技法については、その名称を確認するとともに、具体的な表現と結び付けて考えさせることが大切です。詩や短歌に用いられている表現の技法を取り上げ、意味や用法を指摘しながら、その効果について意見を述べ合うよう指導しましょう。
- * 漢字を書くことの指導においては、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導しましょう。字形の似ている漢字のそれぞれの意味を的確に理解させるとともに、部首との関連や、熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認しながら指導しましょう。

②授業アイデア例

1 課題が見られた問題の概要と結果…B² — 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える。
(正答率：宮城県30.5% 全国31.4%)

2 単元名「情報を比較して、宮城のお薦めスポットをALTの先生に紹介しよう」 (2年)

3 目標

- ・新聞や本、インターネットで得た情報を読み、情報の特徴について考えを深めようとする。【関心・意欲・態度】
- ・新聞や本、インターネットの記事について、文章の構成や表現の仕方に着目し、具体的な箇所を引用しながら情報の特徴の違いをまとめることができる。【読むこと】
- ・複数の方法で得た情報を比較し、目的に応じて選択して自分の考えをまとめることができる。【読むこと】
- ・新聞や本、インターネットにおける文章の形態や展開の違いについて考えることができる。【伝 国】

4 授業改善の視点

- (1) 「見通し」の工夫
- (2) 「モデル」提示の工夫
- (3) 「振り返り」の工夫

教師がモデル（紹介カード）を作成することで、導入段階で、「見通し」をもたせる手立てだけでなく、努力を要する生徒の手立てや授業改善にもつながりますよ。



5 指導過程(第3時間目)

(1)「見通し」の工夫：学習計画表(単元・本時)の提示

単元学習計画表・本時の学習の流れを具体的に示し、単元における本時の位置付けを意識化させることで、生徒自身で思考・判断しながら主体的な学習が期待できる。

4	③	2	1	先生に紹介しよう
め、単元を振り返る。	まとめる。	スット等に関するニュースや情報を収集する。	城の観光スポット等の情報を話し合う。	「情報を比較して、宮城のお薦めスポットをALTの先生に紹介しよう」
⑥今日の学習を振り返る。	⑤自分のお薦めスポットにふさわしい情報を決め、論の構成を考える。	④お薦めスポットの情報について、情報源の違いを捉える。	③お薦めスポットの情報源の絞り込み、項目ごとにまとめる。	②今日の学習課題を確認する。
				①今日の学習課題を明確にする。

【板書でも】

学習のゴールを本時でも意識させる「学習課題」提示の工夫

本時の学習提示	情報を比較して、宮城のお薦めスポットをALTの先生に紹介するために
---------	-----------------------------------

	T：主な発問・指示 S：予想される生徒の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点
導入	T：学習課題の提示 集めた情報を比較し、情報源による違いを捉えた上で、必要な情報をまとめよう。 S：学習課題を確認し、見通しをもつ。	(1)「見通し」の工夫 学習計画表、本時の学習の流れを確認させ、課題解決に向けた考えを発表させる。 目的意識…宮城のお薦めスポットの紹介 相手意識…ALTの先生
	T：前時に集めた情報から、自分の考えをまとめるための情報を選ぼう。 S：お薦めスポットの情報について、情報源による違いを捉える。 S：インターネットは、信頼のおける情報とそうでない情報があるなあ。	*事前にALTの先生から、夏休みに行けそうな宮城の観光スポット情報を生徒に求めるなど、意図的に関心を高めておく。 *インターネットの情報に偏らないように、本や新聞等からも情報を収集させる。

S: 新聞記事は、去年の様子が実際にどうだったのか具体的に分かるぞ。

S: 情報を適切に選択しなければ…。自分のお薦めするスポットの考えと引用した情報の整合性が大事だなあ…。分量やお薦めする言葉も選ばないと…。

展 T: それぞれの資料から必要な情報を絞り込み、項目ごとにまとめよう。

*情報の内容の違いだけでなく、情報源による違いについても考えさせる。

(2)「モデル」提示の工夫
 事中にもモデルを提示し、本時の学習のゴールを意識させ、次の活動につながる見通しを2～3名程度に発表させる。

*引用部分の取り扱いや資料の出典の明記の仕方等について確認する。

開 設定したお薦めスポット：「〇〇〇花火大会」

情報源	新聞	本(雑誌・パンフレット)	インターネット
出典等	〇〇新聞 (平成26年×月×日、朝刊)	『〇〇〇〇』 (▲▲出版、2014年4月)	「〇〇〇〇」 (http://*****)
内容の要約	課題克服のポイント 目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、読む目的を明確にした上で、文章の特徴を踏まえて、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように具体的に丁寧に指導することが大切である。		
オリジナル情報			
情報の特徴			
紹介内容(構想):			

T: 紹介したい優先順位を考え、論の構成を考えよう。

S: A L Tの先生だから、日本の伝統的な文化を…。一番の見所は…。移動手段は…。

T: 要約した内容が、お薦めする根拠、情報になっているかな。

*「どの程度の分量」で、「どのような言葉」を使って、「どのような構成」で書いていくのかをしっかりと意識させる。

*有効な情報に印を付したり、重要な部分を抜き書きしたりするなどして、効率的に必要な情報を取り出すようにする。

(略)

終 T: 今日の授業で学んだこと、今後に生かしたいことを含めて、ノートに3～5行で書きましょう。また、「学習したポイントの手引き」をまとめましょう。

(3)「振り返り」の工夫
 学んだ成果や課題を、自分の言葉で整理させ、伝え合わせる。

(3)「学びの実感」～メタ認知(自己調整や内省、批判的思考等を可能にするもの)

*「はじめは…だったけど、今は…気付いた。意味がやっと分かった。…深まった。広がった。」
 *「▲▲さんの意見や先生の助言を参考に…してみた。すると、…のところまではできた。でも、…ところについてはもう少し…。だから、そのために～」

◆過去の自分との比較と変容、自他の成長 ◆出会いによる発見
 ◆学習の意味付け ◆日常生活、他教科への活用の発見

「学びの定着」～学習したポイントを「手引き」としてノート等に累積させ、いつでも活用できるようにする。

〈この単元なら・・・〉

◆新聞とインターネットの特徴やその違い ◆あらすじを書くポイント
 ◆図書館で見つきたい本を探す方法 ◆引用の仕方と注意点
 ◆紹介と推薦の違いやそのポイント など

(3) 小学校 算数

①成果と課題、指導改善のポイント例

<数と計算>

成果

- 小数第一位までの減法の計算をすることができる。[A 1 (3)]
- 示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数) × (1位数) の筆算をすることができる。[B 1 (1)]

課題

- △ 10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる。[B 3 (2)]
- △ 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる。[B 5 (2)]
- △ 割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量) × (割合)になることを理解している。[A 2 (2)]

指導改善のポイント例

- * 10や100を単位として数の相対的な大きさを捉えさせましょう。実感を伴って捉えられるように、ある数を単位として、ほかの数を図や数直線などを用いて表す活動を取り入れましょう。
- * 問題場面から小数倍の関係を図に表す活動を取り入れ、基準量と比較量の関係を明らかにさせましょう。
- * 乗法の意味についての理解を深め、割合(倍)が1より小さく、比較量が基準量より小さい場面でも乗法が用いられることを、数直線などを用いて理解させましょう。その際、基準量の2倍、3倍に当たる量が乗法で求められることを基にして、1.5倍や0.8倍に当たる量も乗法で求められることを説明する活動を取り入れましょう。

<量と測定>

成果

- 体積の単位(1cm³)と測定について理解している。[A 5 (2)]

課題

- △ 示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる。[B 3 (1)]
- △ 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる。[B 3 (3)]
- △ 単位量当たりの大きさの求め方を理解している。[A 4 (2)]

指導改善のポイント例

- * 日常生活において、時刻を読むことや条件に合わせて時刻や時間を求める経験をさせましょう。情報や条件を図の中に表し整理することで筋道を立てて考えさせるようにしましょう。
- * 問題解決に必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付けて、判断の理由を説明させましょう。その際、比較対象が不明確な説明を例に出し、説明として何が不足しているのかについて考えさせ、課題に応じた説明へと洗練する活動を取り入れましょう。
- * 単位量当たりの大きさを用いて異種の二つの量の割合を表すためには、問題場面を図に表すことで二つの量のどちらを単位量とするかを明らかにし、的確に判断して立式できるように指導しましょう。

<図形>

成果

○ 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している。[A 7]

課題

△ 作図に用いられている図形の約束や性質を理解している。[A 6]

△ 示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる。[B 5 (1)]

指導改善のポイント例

- * 単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考えさせましょう。
- * 問題解決の結果が正しいかどうかを適切に判断するために、結果が条件を満たしているかどうかについて振り返る場面を設けましょう。その際、考えられる複数の敷き詰め方を条件を基に観察し、条件に合っているかどうかを振り返って考えさせましょう。

<数量関係>

成果

○ 四則の混合した式の意味について理解している。[A 8]

課題

△ 繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる。[B 4 (1)]

△ 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる。[B 1 (2)]

△ 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる。[B 5 (3)]

指導改善のポイント例

- * 日常生活での事象や他教科等での場面を取り上げ、その中にある数量の関係から規則性を見出すことができるようにすることが大切です。その際、事象を図や表に表し、数量の関係を調べる活動を取り入れましょう。(次頁「授業のアイデア例」参照)
- * 事象からきまりを見だし、そのきまりを用いて合理的、能率的に処理したり、きまりを用いる良さを説明したりする活動を取り入れましょう。数を多面的にみることによって、計算の工夫をすることができ、式や式変形の意味を理解することにつながります。
- * 示された情報を整理して、筋道を立てて考え、求め方を言葉や式を使って説明できるようにすることが大切です。その際、問題解決に用いる情報を書かせ、それらを組み合わせることで解決の筋道を明確にし、その上で、求め方を言葉や式を使って説明させる活動を取り入れましょう。

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果…B4(1)「示された事象から規則性を見だし活用する」
(正答率：宮城県 58.7% 全国 62.2%)
- 2 小単元名 「変わり方調べ」(東京書籍 4年)
- 3 本時のねらいと評価規準

本時のねらい	評価規準	
	数学的な考え方	数量や図形についての技能
伴って変わる2つの数量の関係(商が一定)を表に表したり、□や○を用いて式に表したりして、その関係を捉えることができる。	伴って変わる2つの数量の関係を、表や式などを用いて簡潔に捉える方法を考えている。	伴って変わる2つの数量の関係を、表から変化の特徴を読み取り、□や○などを用いて式に表すことができる。

4 授業改善の視点

- (1) 「見通し」の工夫
- (2) 図や表を活用して考えさせるための工夫
- (3) 「振り返り」の工夫

日頃から、図や表で表すことの良さを味わわせたり、式や言葉などで表すことの大切さを指導したりしていくことで、数学的なものの見方や考え方が育まれます。



5 指導過程

段階	T：主な発問・指示 S：予想される児童の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点
学習課題の把握	<p>T：問題提示</p> <p>1辺が1 cmの正方形のあつ紙を、左の図のように1だん、2だん、・・・とならべて、階段の形を作ります。</p> <p>(20だんのときの、まわりの長さを求めましょう。)</p> <p>T：段の数が1段増えると、何がかわるでしょう。 S：面積、形、まわりの長さ T：段の数が増えると、いろいろなものが変化しますね。今日は、その中でもまわりの長さを調べてみましょう。</p> <p>だんの数が増えるとまわりの長さがどのように変わるか求め方を考えよう。</p>	<p>(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点</p> <p>* 最初に問題場面の前半を図とともに提示し、伴って変わる2つの数量が何かを考えさせる。その後()を提示し、何を求めるのかを明確にする。</p> <p>(2)図や表を活用して考えさせるための工夫 最初の図の提示は、問題場面を確認しながら数段にとどめ、児童が自分で図をかいてみようと思えるようにするなど、工夫が必要である。</p> <p>* 児童との対話をとおして、課を引き出し共有させる。</p>
見通す	<p>T：20段になると、まわりの長さは何cmになりそうですか。 S：1段で4cmだから20段で80cmかな。 階段のようになってるから、そのまま20倍はできないかも…</p> <p>T：どのようにしたら、まわりの長さを調べることができそうですか。 S：段の数とまわりの長さに、きまりがあると思う。 式に書けるかもしれない。 図にかけば分かる。 前の学習で、三角形のまわりの長さを求めた時のように表にまとめればいい。</p>	<p>(1)「見通し」の工夫 「結果の見通し」をもたせるときに、なぜそう考えたのか理由を発表させたい。「1段で4cmだから20段なら80cm」「階段のような部分もあるからそれより多い」など、図をもとに自分の考えの根拠を明確にさせ、より確かな見通しをもたせる。「方法の見通し」をもたせる際には、まず前時の学習を振り返り、既習事項を想起させ、使えそうな方法を見いださせることで自分の力で解けそうだという思いをもたせるようにしたい。</p>
自力解決	<p>T：図や表、式などを使って、まわりの長さがどのように変わるか調べて、20段のときのまわりの長さをノートに書きましょう。その際、説明も書き加えましょう。 S： 図をかいて考えよう。 1段で4cm、2段で8cm… 辺の数は4本ずつ増えているよ。 式にしたら 段の数×4＝まわりの長さ</p>	<p>(2)図や表を活用して考えさせるための工夫 自分の考えをノートに書けない児童には、見通しをもたせる際に出た「図の続きをかく」方法に取り組みさせたい。日頃から、図や表をかいて考える習慣をつけておくことが大切である。</p>

表にして考えてみよう。まわりの長さは、段の数の4倍に
なっているな。

段の数	1	2	3	4	5
まわりの長さ	4	8	12	16	20

集団解決

T : どんな方法で考えたのか発表しましょう。

S : 図をかいたけど、20段かくのは大変でした。

図を途中までかけば、表にした方が分かりやすいよ。

表からきまりを見付けられればいいんじゃない？

T : まわりの長さはどのように変わりましたか。

S : 段の数が1つ増えるとまわりの長さは4cmずつ増えます。

まわりの長さは段の数の4倍になっています。

T : きまりが見えると、まわりの長さはすぐに分かりますね。

S : まわりの長さ=段の数×4 という式になると思う。

□段のまわりの長さは、1だんのまわりの長さ(4cm)より4の倍数増えます。

T : 段の数を□だん、まわりの長さを○cmとすると、どんな式に表すことができますか。

S : $\bigcirc = \square \times 4$ になる。

段の数×4の4は何の数だろう。

T : $\square \times 4$ の4は何の数か、図の中から見付けられますか。

S : 図で、でこぼこの所を動かすと大きな正方形になっているよ。

4は、図を動かしてできた正方形の辺の数かもしれない。

T : なるほど、図で確かめると4をかける意味が分かりますね。20段のときのまわりの長さは何cmになりましたか。

S : 80cmです。

* 20段までの図や表をかいて大変だったという児童の意見を取り上げ、表や式で表すことの良さ結び付けていくようにする。

(3)「振り返り」の工夫

「事中の振り返り」では、図の続きをかき加えていくことで、きまりが見えてくることを確認させたい。子供たちの考えの交流を通して図から表にまとめたり、表にして見えてきたきまりの「 $\square \times 4$ 」の4の意味を、図に戻って確認したりする。そして、図と表と式の相互の関連を図りながら考えることよさを体験させることが大切である。

* 集団解決の場で、一人の児童が言葉で説明したことをほかの児童に図で確かめさせたり、式に表わさせたりしながら、全員で考えの交流をしていくことで、式の意味をしっかりと捉えさせる。

まとめ・振り返り

T : 段の数とまわりの長さの変わり方を調べるには、どんな方法を使うと分かりやすいか、ノートにまとめましょう。

S : 図をかいたり表にまとめたりすると、きまりが見えてきます。

表をかいて、きまりを見つけた後、式にすれば、まわりの長さは計算で求めることができます。

T : 今日学習したことを生かして次の問題を解きましょう。

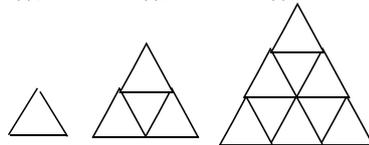
図工の時間に、下の図のようにカードを立てて組み合わせ、タワーを作ることにしました。タワーを7階にしたとき、一番外側のカードは何まい必要ですか。階の数を□、一番外側のカードの枚数を○として式を立てて求めましょう。



1階

2階

3階



T : 今日の学習で新しく気付いたことや考えたことをノートに書きましょう。

S : 学習を振り返り、ノートに記入する。

最初は図に全部かいていたけれど、表にしてきまりを見付けるという○○さんの考えを使って解いたら、すぐに答えが出ました。

(3)「振り返り」の工夫

「終末時の振り返り」では、「結果の振り返り」をするだけでなく、「方法の振り返り」も大切にする。自分の解決方法と他の解決方法とを照らし合わせ、よりよい解決方法に気付かせることで、理解が深まり、次時からの学習に生かすことができる。

適用問題を解く際には、気付いたよりよい方法を活用させ、学びの成果を実感させることが大切である。

また、適用問題では、日常生活場面と結びつく問題に取り組ませることで、本時の学習が生活の中でも役立つことを実感させることができる。適用問題の内容を工夫することも大切である。

* 振り返りでは、本時で得た新たな学びや自分の変容に気付けるよう、観点を示して書かせる。

(4) 中学校 数学

①成果と課題、指導改善のポイント例

<数と式>

成果

- 絶対値の意味を理解している。[A 1 (3)]
- 等式の性質と移項の関係を理解している。[A 3 (1)]
- 正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している。[A 1 (4)]

課題

- △ 与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる。[B 2 (1)]
- △ 分数を含む一元一次方程式を解くことができる。[A 3 (2)]
- △ 指数を含む正の数と負の数の計算ができる。[A 1 (2)]

指導改善のポイント例

- * 事柄が一般的に成り立つことを説明する際に、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにすることができるように指導しましょう。その際、式を変形した理由を説明し合うなど、話し合う場を設けましょう。
- * 分数や小数を含む一元一次方程式を解く際に、方程式を解く過程やその結果を確かめる活動を取り入れ、等式の性質を適切に用いて正しく解を求めることができるように指導しましょう。その際、分数を含まない簡単な方程式に直して解くことの良さを実感させましょう。
- * 指数を含む正の数と負の数の計算では、計算の順序を理解し、確実に計算できるようにするために、誤りのある計算例などを取り上げ、計算方法を確認する場面を設定しましょう。

<図形>

成果

- 日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる。[B 1 (2)]
- 対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる。[A 4 (1)]

課題

- △ 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している。[A 5 (4)]
- △ 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる。[B 4 (2)]
- △ 事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる。[B 1 (3)]

指導改善のポイント例

- * 柱体と錐体の体積の関係を実感を伴って理解できるようにするために、柱体と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかを模型を用いた実験による測定を行って確かめさせましょう。
- * 与えられた問題に条件を付加することで、発展的に考える機会を設けましょう。その際、図を条件に合うようにかき直すとともに、証明を振り返り、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見いだすことができるかどうかを考える場面を設定しましょう。
- * 日常的な事象を理想化・単純化して図に表すなどして考察し、得られた結果をもとの事象に即して解釈したり、実際に確かめたりする活動を取り入れましょう。その際、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにして説明させましょう。

<関数>

成果

- グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる。[B 6 (2)]
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。[B 3 (1)]

課題

- △ 比例の関係を式に表すことができる。[A 10 (1)]
- △ 反比例について、グラフと表を関連付けて理解している。[A 10 (4)]

指導改善のポイント例

- * 比例の関係を式に表すことができるようにするために、変数と比例定数の意味の理解を深め、比例定数を求めることができるように指導しましょう。その際、表やグラフに表し様々な x や y の値の組に対して比例定数 q が一意に定まることや、比例定数を求めれば比例の式が決まることを確認する活動を取り入れましょう。
- * 反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解させるようにしましょう。例えば、グラフから比例定数の符号が判断できることや、比例定数は表の対応する x の値と y の値の積になることを確認するとともに、比例定数の符号だけを変えた表を選んだり、そのグラフをかいたりする活動を取り入れましょう。

<資料の活用>

成果

- ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる。[B 5 (1)]

課題

- △ 樹形図などを利用して、確率を求めることができる。[A 14 (2)]
- △ ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している。[A 13 (2)]

指導改善のポイント例

- * 確率を求めることができるようにするために、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る全ての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げられるように指導しましょう。その際、樹形図が全ての場合の落ちや重なりがなく表していることや、ある事象が樹形図のどの部分に表されているかを確認する場面を設定しましょう。
- * 目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動を取り入れましょう。その際、実際のデータを取り上げ、ヒストグラムに表してデータの散らばりの様子を読み取る活動を通して、平均値、中央値、最頻値などの代表値の必要性和意味を捉えることができるようにしましょう。

(次頁「授業のアイディア例」参照)

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果… A13(2)「ヒストグラムにおける中央値の意味理解」
(正答率：宮城県 46.6% 全国 52.0%)
- 2 小単元名 「範囲と代表値」(東京書籍 1年)
- 3 本時のねらいと評価規準

本時のねらい	評価規準	
	数学的な見方や考え方	数量や図形などについての知識・理解
目的に応じて資料を整理し、代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向を読み取ることができる。	目的に応じて、ヒストグラムや範囲、代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明することができる。	目的に応じて、ヒストグラム、範囲、代表値を選択しなければならないことを理解している。

4 授業改善の視点

- (1) 「見通し」の工夫
- (2) 考えを広げ深めるための工夫
- (3) 「振り返り」の工夫

生徒が疑問に思う問題を提示し、「見通し」や「振り返り」の場面などで一人一人の気づきを共有していくことで、ものの見方や考え方を広げ深めることができます。



5 指導過程

段階	T：主な発問・指示 S：予想される生徒の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 *：指導上の留意点																		
学習課題の把握	<p>T：問題提示</p> <p>K君は、雑誌で話題になっている3件のラーメン店のどこかにお昼を食べに行きたいと考えています。ただし、できるだけ待ち時間の少ない店を選びたいと思っています。あなたならK君にどの店を勧めますか。30日間のお昼の最大の待ち時間は以下の通りです。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>A店</th> <th>B店</th> <th>C店</th> </tr> <tr> <td>7 11 13 18 23 28 34</td> <td>4 9 14 19 24 29 33</td> <td>4 8 13 18 23 29 33</td> </tr> <tr> <td>37 36 6 12 17 22 27</td> <td>39 43 47 3 8 14 19</td> <td>39 44 48 3 7 12 18</td> </tr> <tr> <td>33 37 42 11 16 22 27</td> <td>23 38 42 46 7 13 18</td> <td>22 29 32 38 43 46 6</td> </tr> <tr> <td>33 36 41 21 26 32 26</td> <td>23 37 41 46 17 22 45</td> <td>17 21 28 30 37 16 28</td> </tr> <tr> <td>31 31 (分)</td> <td>17 16 (分)</td> <td>36 28 (分)</td> </tr> </table>	A店	B店	C店	7 11 13 18 23 28 34	4 9 14 19 24 29 33	4 8 13 18 23 29 33	37 36 6 12 17 22 27	39 43 47 3 8 14 19	39 44 48 3 7 12 18	33 37 42 11 16 22 27	23 38 42 46 7 13 18	22 29 32 38 43 46 6	33 36 41 21 26 32 26	23 37 41 46 17 22 45	17 21 28 30 37 16 28	31 31 (分)	17 16 (分)	36 28 (分)	
A店	B店	C店																		
7 11 13 18 23 28 34	4 9 14 19 24 29 33	4 8 13 18 23 29 33																		
37 36 6 12 17 22 27	39 43 47 3 8 14 19	39 44 48 3 7 12 18																		
33 37 42 11 16 22 27	23 38 42 46 7 13 18	22 29 32 38 43 46 6																		
33 36 41 21 26 32 26	23 37 41 46 17 22 45	17 21 28 30 37 16 28																		
31 31 (分)	17 16 (分)	36 28 (分)																		
見通す	<p>T：勧める店を決めるのに、このデータをどのように活用しますか。</p> <p>S：このままでは比べられない。 度数分布表やヒストグラムにまとめてみる。 平均を求めてみる。</p> <p>T：では、まず平均を分担して求めてみよう。</p> <p>S：Aは25.2分です。 Bは25.2分です。 Cは25.2分です。 どの店も同じだ。 平均では比較できない。</p> <p>平均値以外の比較の方法を考えよう</p>	<p>(1)「見通し」の工夫</p> <p>「方法の見通し」をもたせるために、まず平均では比較できないことを確認させ、別の視点で比較しなければならないことを押さえておく必要がある。それを踏まえることで生徒は、既習事項である範囲や代表値などに目を向けることになり、様々な値を用いてデータを比較しようとするにつながる。</p>																		
	<p>T：比較するためには、どうしたらよいですか。</p> <p>S：ヒストグラムに表してみる。 範囲を求めてみる。 最頻値を求めてみる。 中央値を求めてみる。</p> <p>T：それぞれの店の待ち時間を、グループごとに分担してヒストグラムに表し、範囲、最頻値、中央値を求めてみよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>A店 平均25.2分</th> <th>B店 平均25.2分</th> <th>C店 平均25.2分</th> </tr> <tr> <td>範囲36 中央値26.5 最頻値32.5</td> <td>範囲44 中央値22.5 最頻値17.5</td> <td>範囲45 中央値28.0 最頻値27.5</td> </tr> </table>		A店 平均25.2分	B店 平均25.2分	C店 平均25.2分	範囲36 中央値26.5 最頻値32.5	範囲44 中央値22.5 最頻値17.5	範囲45 中央値28.0 最頻値27.5												
A店 平均25.2分	B店 平均25.2分	C店 平均25.2分																		
範囲36 中央値26.5 最頻値32.5	範囲44 中央値22.5 最頻値17.5	範囲45 中央値28.0 最頻値27.5																		
	<p>T：グループを作り、A、B、Cの店のデータを比較し、気付いたことを、各自メモしよう。</p> <p>S：平均が同じなのに、ヒストグラムの形が全く違う。 中央値や最頻値がかなり違う。</p>	<p>* 自力解決のための視点を与え、自分の考えをもたせやすくする。</p>																		

自力解決

T: あなたは、K君にどの店を勧めますか。また、その店を選んだ理由も書きなさい。

S

A店、範囲が一番小さく、最大待っても42分だから。

B店、中央値、最頻値が最も小さく、待つ時間が短い日が多いから。

C店、各階級の度数にあまり差が無く、早く入れる可能性も高いから。

集団解決

T: グループで、各自の考えを発表し合い、グループごとにK君に勧める店を決めましょう。

S: グループで話し合い、1つの意見にまとめる。

T: グループごとの意見を全体で発表してもらいます。

1班 A店、理由は・・・

5 B店、理由は・・・

6班 C店、理由は・・・

T: グループごとの意見を聞いて、疑問に思ったことは何かありませんか。(疑問が出た場合は該当の班に答えさせる)

S

A店は範囲は狭いですが、最頻値が32.5と大きく待つ時間が長いのではないですか。

B店は中央値、最頻値とも小さいのですが、長く待たされる可能性も一番高いのではないですか。

C店は、階級の度数にあまり差が無く、特徴が見えにくく、判断しづらいのではないですか。

まとめ・振り返り

T: グループのメンバーの意見や他のグループの意見を聞いて、自分が最初に考えた意見と比較して、気付いたことを書きなさい。(記入後、数名に発表させる)

S

平均値だけでは比較できない場合がある、その他の代表値も使って資料の特徴をつかまなければならない。

代表値だけでは比較できないことがある、範囲や資料の散らばりなども合わせて考えなければいけない。

資料を整理して特徴を判断する場合、目的を明確にして判断することが大切である。

T: 資料の傾向をつかむとき、範囲や代表値などの視点によって様々な読み取りができるのですね。

T: 今日学習したことを生かして、次の問題を家で考えてきましょう。(家庭学習課題を提示する)

(家庭学習課題) (平成24年度全国学力・学習状況調査問題B3(2)より)

次の表は、1998年シーズンの長野オリンピックまでのいくつかの国際大会で、スキージャンプ競技の原田雅彦選手と船木和喜選手の二人が飛んだ距離の記録をまとめたものです。

次の1回でより遠くへ飛びそうな選手を選ぶとすると、あなたはどちらの選手を選びますか。どちらか一方の選手を選び、選んだ理由を説明しなさい。

原田選手 (m)	
117.0	122.0
119.5	113.0
120.0	108.0
126.0	107.0
89.5	102.0
117.5	66.0
123.5	120.0
108.5	136.0
113.0	79.5
114.0	137.0
平均値 112.0 m	

船木選手 (m)	
111.0	116.0
113.5	108.5
119.0	113.0
121.0	120.0
109.5	121.5
108.0	122.5
116.5	126.0
116.0	132.5
117.0	118.5
119.0	125.0
平均値 117.7 m	

(2) 考えを広げ深めるための工夫

自力解決の時間を、十分に確保し、確実に自分の考えをもたせる。その際に、なぜその店を選んだかの理由を自分なりの言葉で表現させることが大切である。その後、グループや全体で考えの交流を行わせることで、さらに考えが広がり、グループごとに1つの考えに絞らせる過程や、他の意見に対する疑問などを出させることで、考えをより深めることができる。

- * 疑問に対する答えに模範解答はないので、「自分ならこう考える」という意見を大切に扱う。
- * 生徒からの意見が出ない場合は教師から疑問を投げ掛ける。

(3) 「振り返り」の工夫

「事中の振り返り」として、自分が始めに考えた意見と、他の人が考えた意見との比較によって、「方法の振り返り」を行わせ、自分の考えの再検討をさせることが大切である。また、結果を確かめる場面では、資料の傾向は、範囲や代表値などの視点によって、様々な読み取りができることに気付かせることがポイントとなる。

「終末時の振り返り」として、学習したことを適用して考える課題を与えることで、本時の学習内容をより確実に定着させるとともに、実際の生活場面との関連を図らせることが大切である。その際、過去の全国学力・学習状況調査の問題などを活用することも有効である。

- * 課題プリントを用意しておき、家庭学習とする。各自に度数分布表やヒストグラムにまとめて比較させることで、本時の学習内容を確実に定着させる。
- * 実際の活用場面と結び付けることで、本時の学習が生活場面でも役立つことを実感させる。

3 児童生徒の学習習慣の形成

■平成26年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果

○ 「家で、学校の宿題をしていますか」という質問については、小学校では96.9%の児童が、中学校では88.7%の生徒が肯定的な回答をしている。しかし、「家で、学校の授業の予習（復習）をしていますか」の質問については、小学校では49.7%（33.9%）の児童が、中学校では53.1%（37.0%）の生徒が「あまりしていない」「全くしていない」と回答をしている。どの児童生徒も家庭学習の習慣化が図られるように、家庭学習に取り組めないでいる要因を把握し、学校と家庭が協力して取り組む必要がある。

上段：宮城県 下段：全国

校 種 質問項目 \ 回答類型	小学校				中学校			
	1	2	3	4	1	2	3	4
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	28.4	37.3	26.2	8.0	16.5	33.9	35.6	14.0
	26.0	35.0	29.2	9.8	15.2	31.4	37.4	15.9
家で、学校の宿題をしていますか	85.9	11.0	2.5	0.6	62.0	26.7	8.5	2.7
	86.0	10.5	2.8	0.6	63.7	24.5	8.7	3.0
家で、学校の授業の予習をしていますか	20.7	29.5	34.7	15.0	16.4	30.3	34.2	18.9
	16.1	27.1	37.4	19.2	11.0	23.2	37.6	28.0
家で、学校の授業の復習をしていますか	31.1	35.0	24.1	9.8	25.8	37.2	26.0	11.0
	21.9	32.1	31.1	14.9	17.5	32.9	32.1	17.5

1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない

■家庭学習の指導

家庭学習は、「学んだことを定着させる」という重要な役割がある。児童生徒が自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度は、教師の適切な指導によって育成されるため、以下の点を大切にしたい。

「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る。

- (1) 学校としての家庭学習の方針や目的
- (2) 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- (3) 課題の内容と量

- 授業とかかわる課題で、児童生徒が自分の力で取り組める内容
- 課題が明確で取り組むねらいが把握できる（予習、復習、自主課題等）
- 児童生徒が意欲的に取り組める分量

（小学校では担任が把握し、適切な一定量実施。 中学校では、教科担任間の連絡・調整を図る。）

- (4) 家庭学習の意欲の維持のさせ方

- 家庭学習の課題についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）
- 努力を認める声掛けや励まし

- (5) 児童生徒への家庭学習の指導

家庭へ協力を依頼する。

- (1) 家庭学習の具体的内容、方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- (2) 学校が家庭学習について説明したり保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- (3) 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。
- (4) テレビやビデオ・DVD の視聴時間や、コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を行う時間が全国値より高いことを踏まえ、学習を支える望ましい生活習慣を育成することの大切さについて働き掛ける。

4 教育環境基盤の充実

◎指導体制の工夫

■小学校における教科担任制

- 平成26年度学校教育の方針と重点（宮城県教育委員会）の中で、「教員の得意分野や教科の特性を生かした小学校における教科担任制の実施」について明記されている。平成26年度全国学力・学習状況調査によると、下記のとおり、本県小学校では、国語や算数の授業で、前年度までに教科担任制を実施していた割合は1割に満たない状況である。今後、各学校において、目的や効果を考えて吟味・検討が必要である。

上段：宮城県 下段：全国

校 種	小学校		
	1	2	その他・無解答
調査対象学年の児童に対する国語の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか	3.5	96.2	0.3
	3.1	96.7	0.2

1 実施していた 2 実施していなかった

上段：宮城県 下段：全国

校 種	小学校		
	1	2	その他・無解答
調査対象学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか	7.6	92.4	0.0
	5.8	93.9	0.3

1 実施していた 2 実施していなかった

■少人数指導

「少人数指導」「ティーム・ティーチング」「小学校における教科担任制」など指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実を図ることが求められている。本県においては、平成13年度から少人数指導加配を行っているが「少人数指導を行えば必ず学力向上に結び付く」ということではない。少人数で編制した全ての学習集団が教科の目標を達成できるように指導を工夫・改善しなければならない。少人数指導に当たっては、以下の点に留意したい。

指導体制

- (1) 少人数指導の目的についての共通理解を図り、全教職員で取り組む。
目的と方針、実施期間、実施学年、実施教科、実施方法（学習集団の編制、指導内容、指導方法、評価等）、推進組織、児童生徒と保護者への説明等について共通理解を図り、「少人数指導実施計画」を作成する。
- (2) 担当教員間の情報交換等を大切にして取り組む。特に、評価規準について共通理解を図る。
- (3) 互いに尊重し合う雰囲気にあふれる学年・学級経営を大切にして取り組む。
- (4) 少人数指導に使う教室の環境を整備するとともに、教育機器や学習教材等の確保を図る。

指導方法と指導形態

- (1) 少人数指導のよさと課題を把握し、よさを生かした指導を行う。
 第一のよさは児童生徒の実態や学習状況に応じたきめ細かな指導ができることである。
 児童生徒の反応やつまずきなどを予測し、それに応じた指導・助言や手立てを準備しておく。
- (2) 児童生徒や学校の実態、学習指導のねらい、教科の特性等に応じて、指導形態と指導方法を検討する。

 学習集団の質の検討 <等質分割にするか、習熟度別の分割にするか。>
 分割する母集団と集団の数の検討
 <一つの学級を分割するか、複数学級を分割するか、いくつの集団に分割するか。>
 少人数指導を取り入れる場面の検討
 <年間を通して取り入れるか、単元全体の中の一部の時間に取り入れるか、単位時間の一部の時間（前半部や後半部）に取り入れるか。>
 組合せの検討<上記の内容をどのように組み合わせるかの検討。>



第2章

全国学力・学習状況調査結果



I 全国学力・学習状況調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日

平成26年4月22日（火）

3 調査対象

- ・小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年の全児童
- ・中学校第3学年，中等教育学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年の全生徒

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・小学校6年生：国語，算数
 - ・中学校3年生：国語，数学
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

5 参加状況（仙台市を含む）

【小学校調査】 公立学校395校 参加児童数19,961名

【中学校調査】 公立学校202校 参加生徒数18,835名

6 調査結果の概況

(1) 平成19年度から平成26年度までの教科に関する調査結果一覧

			「知識」に関するA問題			「活用」に関するB問題				
			問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較	問題数	全国 平均正答率	宮城県 平均正答率	全国平均 との比較
小学	国語	H26	15	72.9	74.2	+1.3	10	55.5	54.3	-1.2
		H25	18	62.7	60.8	-1.9	10	49.4	47.6	-1.8
		H24	17	81.6 81.4-81.7	81.7 81.2-82.3	+0.1	11	55.6 55.4-55.8	55.9 55.1-56.8	+0.3
		H22	15	83.3 83.2-83.5	83.4 82.7-84.0	+0.1	10	77.8 77.7-78.0	77.7 76.9-78.5	-0.1
		H21	18	69.9	67.4	-2.5	10	50.5	49.8	-0.7
		H20	18	65.4	64.2	-1.2	12	50.5	49.2	-1.3
		H19	18	81.7	80.6	-1.1	10	62.0	61.0	-1.0
	算数	H26	17	78.1	77.3	-0.8	13	58.2	56.8	-1.4
		H25	19	77.2	76.3	-0.9	13	58.4	56.5	-1.9
		H24	19	73.3 73.1-73.5	72.7 71.9-73.5	-0.6	13	58.9 58.7-59.1	58.1 57.2-59.1	-0.8
		H22	19	74.2 74.0-74.4	73.8 72.9-74.7	-0.4	12	49.3 49.1-49.5	47.8 46.8-48.7	-1.5
		H21	18	78.7	77.5	-1.2	14	54.8	54.0	-0.8
		H20	19	72.2	71.3	-0.9	13	51.6	50.4	-1.2
		H19	19	82.1	81.1	-1.0	14	63.6	61.4	-2.2
中学	国語	H26	32	79.4	80.3	+0.9	9	51.0	52.0	+1.0
		H25	32	76.4	77.6	+1.2	9	67.4	68.6	+1.2
		H24	32	75.1 75.0-75.2	76.2 75.6-76.7	+1.1	9	63.3 63.2-63.4	65.5 64.9-66.2	+2.2
		H22	35	75.1 75.0-75.2	76.2 75.6-76.7	+1.1	10	65.3 65.1-65.5	66.7 66.0-67.4	+1.4
		H21	33	77.0	78.1	+1.1	11	74.5	76.4	+1.9
		H20	34	73.6	73.8	+0.2	10	60.8	61.8	+1.0
		H19	37	81.6	80.8	-0.8	10	72.0	71.0	-1.0
	算数	H26	36	67.4	65.6	-1.8	15	59.8	59.4	-0.4
		H25	36	63.7	62.2	-1.5	16	41.5	39.7	-1.8
		H24	36	62.1 62.0-62.3	60.8 59.9-61.8	-1.3	15	49.3 49.2-49.5	50.5 49.4-51.6	+1.2
		H22	36	64.6 64.4-64.8	64.4 63.4-65.4	-0.2	14	43.3 43.1-43.5	44.0 42.9-45.1	+0.7
		H21	33	62.7	62.1	-0.6	15	56.9	57.7	+0.8
		H20	36	63.1	61.4	-1.7	15	49.2	49.1	-0.1
		H19	36	71.9	70.3	-1.6	17	60.6	59.4	-1.2

※平成22年度、24年度の値は、抽出校の平均正答率、下段は抽出校の平均正答率をもとに、悉皆調査を実施した場合の県の平均正答率を想定した値の範囲（95%信頼区間 文部科学省の説明による）。平成23年度は、東日本大震災により中止。

(2) 教科に関する調査の結果

- 国語については改善傾向が見られ、小学校、中学校の「知識」に関するA問題、中学校の「活用」に関するB問題が全国平均を上回った。小学校のB問題については、昨年度と比較して全国平均との差が小さくなっている。
- 算数、数学については、数学のA問題以外は昨年度と比較して全国平均との差が小さくなっているものの、A問題、B問題とも全国平均を下回っており課題が見られる。
- 昨年度との比較で、全国平均を上回る教科が増え、下回っている教科でも全国平均との差が小さくなっている教科も多いことから、震災による厳しい学習環境の中、各校で児童生徒と教師が努力を重ねてきた結果が徐々に成果となって表れてきたものと考えられる。

(3) 児童生徒質問紙調査の結果

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、昨年度に引き続き全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。学力向上を支える基盤となる基本的な生活習慣が児童生徒に身に付いてきていると考えられる。
- 家庭で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに全国値を大きく上回っている。
- 長時間（3時間以上）テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小学生は全国値よりは高いものの昨年度より減少し、中学生においては全国値よりも低い。
- 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。
- 国語の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、中学生においては全国値よりも高い。
- 算数・数学の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小学生で昨年度よりも減少しており、小・中学生ともに全国値よりも低い。
- 平日に2時間以上勉強している中学生の割合は、昨年度より減少し、全国値を下回っている。
- 授業のはじめに目標を示されたり、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行ったりしていると思っている割合は、小学生で昨年度より減少し、小・中学生ともに全国値を下回っている。

(4) 学校質問紙調査の結果

- 「全国学力・学習状況調査の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 国語の指導において、書く習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高く、特に小学校では大きく上回っている。
- 算数・数学の指導において、補充的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より増加しており、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- 算数・数学の指導において、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より減少しており、小・中学校ともに全国値よりも低い。

7 今後の対応

- 昨年度示した学力向上に向けての基本となる「5つの提言」を全ての学校でさらに推進していくよう働き掛ける。中でも「5つの提言」の3つ目にある「ねらいを明確にし、終末にしっかり振り返る」ことの徹底を促し、授業改善につなげていく。
- 言葉の意味や漢字の書き取り、計算など基礎・基本の定着に課題が見られたことから、単元問題ライブラリーや学力テストの過去問等を活用し、授業や放課後学習、家庭学習等での繰り返しを徹底させることによって基礎学力の定着を図っていく。
- 特に、未だ全国平均に達していない算数については、ひいては中学校の数学への影響も懸念されることから、緊急的に「算数科研修会」を10月に実施するとともに、算数科指導力向上のための研修を継続していくほか、学力向上に向けて効果的な実践をしている小・中学校の取組事例をまとめたリーフレットを全校に配布し、教師の指導力の更なる向上を図っていく。
- 今回の調査結果の詳細分析と10月に実施する宮城県学力・学習状況調査の分析を連動させながら、各学校の検証改善サイクルを確立していく。その際、各学校での調査結果の効果的な活用を推進するため、「学力・学習状況調査活用研修会」を開催する。
- 今後とも、市町村教育委員会と連携して、学力向上に向けたこれからの取組を着実に進めていく。

児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査結果のポイント

〈児童生徒質問紙調査の結果〉

1 基本的な生活習慣について

(1) 基本的な生活習慣関連の質問10項目について

質問事項	小学校	中学校
肯定的な回答が全国値を上回る項目数(割合)	5項目(50%)	8項目(80%)
肯定的な回答が全国値と等しい項目数(割合)	2項目(20%)	0項目(0%)
肯定的な回答が全国値を下回る項目数(割合)	3項目(30%)	2項目(20%)

(2) 基本的な生活習慣の具体的な例(はやね、はやおき、あさごはん等、生活に関する項目) ※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	81.7 +2.5	80.6 +1.7	79.0 +1.6	77.4 +1.9	75.4 +0.3	73.2 +0.5	73.5 +1.6	77.5 +3.4	78.0 +3.7	76.2 +2.2	74.8 +3.8	72.5 +3.1	71.5 +3.3	70.1 +3.2
2 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.9 0.0	90.4 -0.5	90.0 -0.6	90.1 -0.2	89.3 -0.9	88.2 -0.8	88.7 +0.2	92.9 +0.8	92.6 +0.3	92.4 +0.5	92.5 +1.3	91.8 +0.9	91.3 +0.9	89.9 +1.0
3 朝食を毎日食べていますか	96.8 +0.8	96.7 +0.4	96.6 +0.5	97.4 +1.0	96.6 +0.6	96.3 +0.9	96.2 +1.0	94.6 +1.1	94.7 +0.9	94.4 +0.8	94.5 +1.2	94.0 +1.6	93.6 +1.7	93.3 +1.7
4 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	39.6 +1.6	41.9 +3.3	47.8 +5.1	47.2 +3.9	51.1 +5.4	51.7 +5.6	38.0 +3.7	30.3 -1.2	29.7 0.0	33.3 +0.8	38.1 +1.6	40.4 +2.4	43.0 +3.4	35.9 +2.8
5 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか(3時間以上)	17.4 +0.4	16.1 +1.2	13.7 +1.1	12.6 +1.3	13.0 +1.4	14.0 +2.1	9.8 +0.9	19.8 -0.5	14.3 0.0	10.5 -0.9	10.2 -0.6	10.5 +0.1	10.4 -0.1	10.5 -0.2
6 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(3時間以上)	4.8 -0.2							18.8 -1.0						

※4と5については、数値が高いほど、また、全国との比較の値が大きいかいほど改善の必要性が高い。

2 家庭での学習習慣

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
7 家で学校の授業の予習をしていますか	50.2 +7.0	47.6 +6.3	45.6 +5.1	48.6 +8.2	42.6 +5.1	39.1 +3.7	36.6 +3.7	46.7 +12.5	48.3 +14.8	39.3 +10.0	43.9 +13.0	42.1 +12.6	41.0 +12.6	39.3 +9.8
8 家で学校の授業の復習をしていますか	66.1 +12.1	61.9 +10.5	59.9 +9.7	61.2 +11.6	54.9 +8.9	50.8 +7.4	35.8 -4.3	63.0 +12.6	60.8 +12.2	56.8 +11.3	54.4 +10.9	49.7 +9.2	48.4 +8.8	45.8 +6.6
9 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師含む、小学校:1時間以上、中学校:2時間以上)	64.1 +2.1	64.8 +1.6	61.2 +1.7	61.5 +3.3	56.9 -0.3	52.9 -3.2	53.8 -4.0	29.6 -5.5	30.7 -5.8	30.0 -5.3	28.5 -7.2	29.1 -6.6	29.8 -5.9	27.4 -8.0
10 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師含む、小学校:2時間以上、中学校:3時間以上)	22.0 -2.0	20.9 -4.3	19.5 -4.3	20.5 -3.0	17.9 -4.9	16.3 -6.4	15.4 -7.6	15.6 -1.3	15.5 -1.7	15.0 -1.2	12.9 -2.9	13.5 -1.9	13.6 -1.5	11.8 -3.1

3 学習に関する関心・意欲・態度

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
11 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか	77.5 -4.5	78.1 -4.4						67.7 -3.8	65.0 -3.1					
12 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	68.0 -3.9	73.3 -3.4						53.0 -0.3	52.9 +1.6					
13 国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8 -1.3	78.4 -1.5	83.7 +0.6	82.3 0.0	80.1 +0.1	77.6 -0.4	78.7 +0.7	74.5 +2.5	74.3 +2.4	74.7 +3.5	71.5 +1.6	70.1 +1.3	69.6 +2.8	67.5 +2.1
14 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	78.2 -1.4	78.6 -1.6	79.5 +0.4	78.0 +0.8	80.2 +1.0	79.2 +0.8	77.9 +0.8	71.4 -0.1	70.5 0.0	64.1 -0.8	64.8 -0.9	62.4 -2.5	64.5 -1.0	61.5 -2.1

〈学校質問紙調査の結果〉

※下段は全国との比較

質問事項	小学校(%)							中学校(%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか	97.5 +0.4	96.1 +4.0	87.2 +1.7	100.0 +0.1	93.0 +1.3	89.0 -5.8		97.1 +1.8	92.4 +3.7	76.6 -3.2	94.2 +1.3	93.2 +3.2	94.1 +8.1	
2 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか	93.2 +2.6	89.1 -0.8	94.0 +4.2	91.6 +2.2	88.3 -0.8	90.1 +2.7	82.2 -1.2	96.5 +2.9	96.0 +3.8	94.9 +3.3	94.2 +3.1	95.0 +4.1	89.5 -0.3	85.8 -1.9
3 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか	82.5 -0.7	86.0 +2.3	89.5 +6.6	85.4 +2.4	85.5 +2.2	87.4 +4.5	82.6 +2.3	84.7 -1.4	78.3 -5.9	84.6 +0.7	84.9 +0.2	85.9 +3.2	81.4 -1.7	84.4 +2.3
4 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行ったか	89.8 +0.3	87.4 +0.1	91.9 +3.6	89.6 +1.8	88.5 +1.8	93.1 +3.1	88.8 +1.0	88.1 +0.5	88.9 +2.9	87.3 +0.3	89.0 +2.4	88.2 +2.1	91.8 +3.0	91.2 +4.5
5 算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行ったか	54.4 -3.9	54.7 +0.3	55.0 +1.1	58.4 +4.5	55.4 +0.9	59.2 +1.4	56.4 -1.9	59.4 -1.9	52.5 -5.8	53.9 -4.6	52.6 -4.1	60.0 +4.5	55.9 -3.2	55.1 -4.6
6 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったか	86.6 +14.6	78.6 +7.1	77.6 +6.3	72.3 +1.7	68.1 -1.4	62.1 -4.1		96.0 +1.8	99.0 +4.5	97.3 +2.0	94.1 -2.1	96.8 +0.9	95.9 0.0	

※示している数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計した割合

II 各教科の調査の結果

1 小学校国語A問題

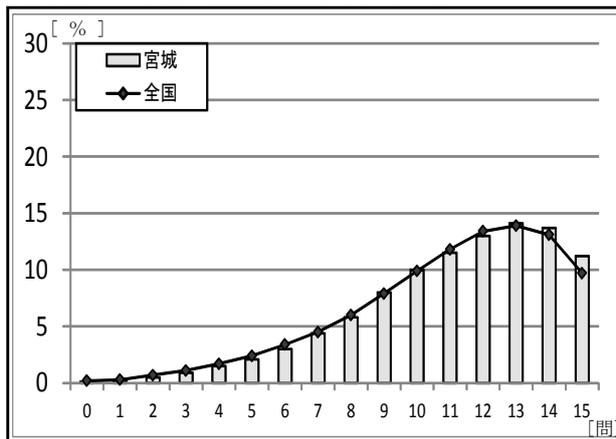
(1) 結果の概要

- 平均正答率は74.2%であり、全国平均を1.3ポイント上回る結果となっている。
- 「伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項」において全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、改善が図られている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において全国平均を下回り、課題が見られる。

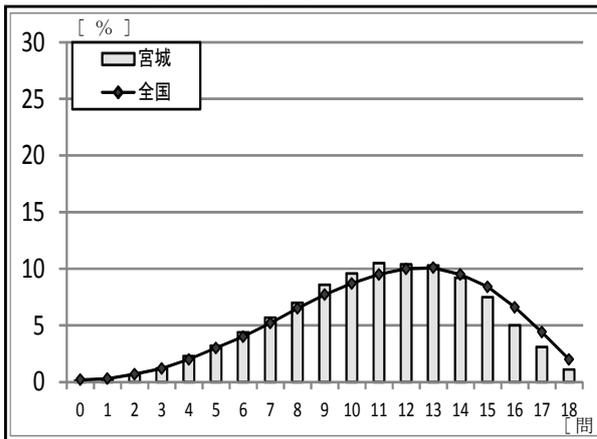
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、14問（90%程度）以上正答している児童の割合が全国と比べて高く、正答数が6問（40%程度）以下の児童の割合が全国より低くなっており、全体的に底上げが図られている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「伝統的な言語文化と国語科の特質に関する事項」において全国平均を1.8ポイント上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において全国平均を下回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	69.5	72.4	-2.9	70.2	72.2	-2.0	68.5	68.5	0.0	75.5	73.7	1.8	74.2	72.9	1.3
H25	45.4	43.3	2.2	50.1	53.0	-2.9	60.7	60.1	0.6	60.8	62.6	-1.8	60.8	62.7	-1.9
H24	79.8	79.4	0.4	55.0	57.5	-2.5	82.5	82.1	0.4	86.8	86.3	0.5	81.7	81.6	0.1
H22	82.7	83.2	-0.5	66.0	67.7	-1.7	73.6	74.1	-0.5	86.0	86.8	0.2	83.4	83.3	0.1
H21	65.2	68.0	-2.8	84.9	85.4	-0.5	67.2	68.7	-1.5	60.9	64.2	-3.3	67.4	69.9	-2.5
H20	76.4	76.1	0.3	50.7	53.3	-2.6	44.1	44.5	-0.4	64.0	65.2	-1.2	64.2	65.4	-1.2
H19	54.5	56.6	-2.1	83.3	85.3	-2.0	67.0	67.3	-0.3	86.0	86.8	-0.8	80.6	81.7	-1.1

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】

- ◆ 話合いの記録の仕方として適切なものを選択する問題の正答率は69.5%であり、全国平均を2.9ポイント下回っている。[7]

【書くこと】

- ◆ 情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する問題の正答率は54.7%であり、全国平均を4.0ポイント下回っている。[3]

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◇ 故事成語の使い方として適切なものを選択する問題の正答率は57.0%であり、全国平均を7.1ポイント上回っている。[2二]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正答率の かい離	無回答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無回答率 (%)	正答率 (%)	無回答率 (%)		
1一(1)	漢字を読む (道路の標識を見る)				5-6 (1)ウ (ア)		○		92.1	1.6	91.7	1.7	0.4	-0.1
1一(2)	漢字を読む (街灯がつく)				5-6 (1)ウ (ア)		○		92.6	1.4	87.0	2.5	5.6	-1.1
1一(3)	漢字を読む (塾いよく走り出す)				5-6 (1)ウ (ア)		○		77.8	1.2	74.4	1.5	3.4	-0.3
1二(1)	漢字を書く (料理をのせた <u>さら</u> を運ぶ)				5-6 (1)ウ (ア)		○		97.8	0.6	97.8	0.6	0.0	0.0
1二(2)	漢字を書く (勝利を <u>い</u> わう)				5-6 (1)ウ (ア)		○		64.7	5.2	59.3	6.8	5.4	-1.6
1二(3)	漢字を書く (かぜを <u>よ</u> ぼうする)				5-6 (1)ウ (ア)		○		80.6	6.3	77.4	7.2	3.2	-0.9
2一	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)				3-4 (1)ア (イ)		○		60.2	0.3	55.8	0.3	4.4	0.0
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する (百聞は一見にしかず)				3-4 (1)ア (イ)		○		57.0	0.4	49.9	0.5	7.1	-0.1
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する		3-4 オ		5-6 (1)イ (ケ)		○		54.7	0.1	58.7	0.2	-4.0	-0.1
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なもの を選択する			5-6 ウ			○		73.2	0.2	71.7	0.3	1.5	-0.1
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く			5-6 エ			○		63.9	0.5	65.3	0.5	-1.4	0.0
6一	「～たり、…たり」という表現に直して書く		5-6 オ		5-6 (1)イ (キ)		○		74.1	6.2	74.9	5.7	-0.8	0.5
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する		5-6 オ		5-6 (1)イ (キ)		○		81.9	1.6	83.1	2.0	-1.2	-0.4
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	5-6 ア					○		69.5	1.4	72.4	2.1	-2.9	-0.7
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する (はかる)				3-4 (1)イ (カ)		○		72.6	1.8	74.3	2.7	-1.7	-0.9

2 小学校国語B問題

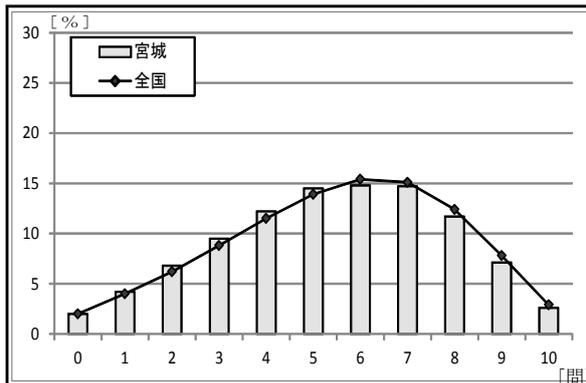
(1) 結果の概要

- 平均正答率は54.3%で、全国平均を1.2ポイント下回っているものの、全国平均とのかい離は平成25年度より0.6ポイント小さくなっている。
- 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けて書くことや、二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことなど、「書くこと」の領域に課題が見られる。

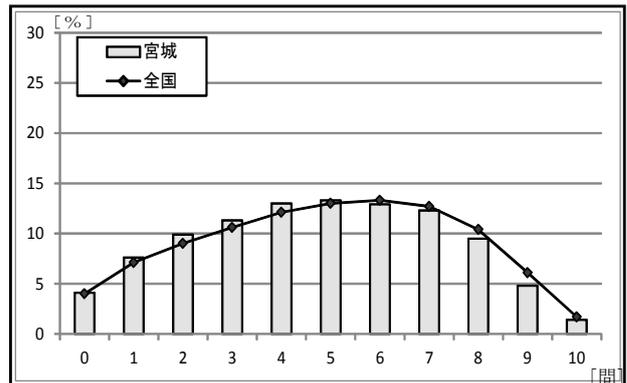
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、6問(60%)以上正答している児童の割合が低い状況が見られ、全体的な底上げが課題である。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域の平均正答率が、全国平均を下回っている。
- 「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率の差は-0.3ポイントであり、全国平均とのかい離が平成25年度と比較して小さくなっている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝道的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	50.9	51.2	-0.3	32.5	34.4	-1.9	55.7	57.3	-1.6	68.6	69.8	-1.2	54.3	55.5	-1.2
H25	63.1	64.8	-1.7	41.7	43.8	-2.1	46.1	47.9	-1.8	63.7	63.8	-0.1	47.6	49.4	-1.8
H24	62.6	63.0	-0.4	47.0	46.8	0.2	5.6	55.7	-0.1	54.7	55.2	-0.5	55.9	55.6	0.3
H22	75.0	75.4	-0.4	92.2	91.6	0.6	73.1	73.4	-0.3	72.3	73.0	-0.7	77.7	77.8	-0.1
H21	61.1	61.3	-0.2	12.7	14.5	-1.8	55.6	56.5	-0.9	58.5	59.7	-1.2	49.8	50.5	-0.7
H20	72.7	73.0	-0.3	48.0	49.1	-1.1	46.6	48.3	-1.7				49.2	50.5	-1.3
H19	67.6	70.9	-3.3	60.5	61.7	-1.2	56.5	57.7	-1.2	79.4	77.0	2.4	61.0	62.0	-1.0

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>◆ 司会④の発言の内容をまとめて書く問題の正答率は62.7%であり、全国平均を2.5ポイント下回っている。[1ー]</p> <p>【書くこと】</p> <p>◆ 付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く問題の正答率は24.9%であり、全国平均を2.0ポイント下回っている。[2二]</p> <p>【書くこと】【読むこと】</p> <p>◆ 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く問題の正答率は44.4%であり、全国平均を3.7ポイント下回っている。[3三]</p>

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			宮城県 (公立)		全国 (公立)		正答率の かい離	無回答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無回答率 (%)	正答率 (%)	無回答率 (%)		
1一	司会㉔の発言の内容をまとめて書く	5・6 オ					○	62.7	8.8	65.2	7.9	-2.5	0.9	
1二	林さん㉕の質問の狙いとして適切なものを選択する	5・6 エ				○		61.6	2.9	60.2	3.5	1.4	-0.6	
1三	大野さん㉖の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	5・6 エ	5・6 ウ				○	28.3	5.1	28.3	5.0	0.0	0.1	
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く			5・6 ウ			○	71.3	8.7	71.9	8.2	-0.6	0.5	
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く		5・6 ウ	5・6 ウ			○	24.9	8.4	26.9	7.4	-2.0	1.0	
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く			5・6 イ			○	64.7	4.2	66.0	4.3	-1.3	-0.1	
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する			5・6 エ	5・6 (1)イ (カ)		○	79.9	3.8	80.4	4.4	-0.5	-0.6	
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する			5・6 エ	5・6 (1)イ (カ)		○	57.4	4.9	59.2	5.5	-1.8	-0.6	
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する			3・4 オ			○	47.6	18.4	48.5	19.8	-0.9	-1.4	
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く		5・6 ウ	5・6 エ			○	44.4	26.7	48.1	26.0	-3.7	0.7	
児童質問紙														
質 問 事 項										宮城県	全国	かい離		
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのよう に解答しましたか		1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。								74.2	76.1	-1.9		
		2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりし たものがあった。								23.3	21.3	2.0		
		3 書く問題を全く解答しなかった。								2.1	2.0	0.1		
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）		1 時間が余った。								48.8	49.7	-0.9		
		2 ちょうどよかった。								37.7	35.8	1.9		
		3 やや足りなかった。								11.5	11.8	-0.3		
		4 全く足りなかった。								1.9	2.3	-0.4		
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）		1 時間が余った。								23.3	23.7	-0.4		
		2 ちょうどよかった。								28.1	26.9	1.2		
		3 やや足りなかった。								37.8	37.8	0.0		
		4 全く足りなかった。								10.4	11.2	-0.8		

3 小学校算数A問題

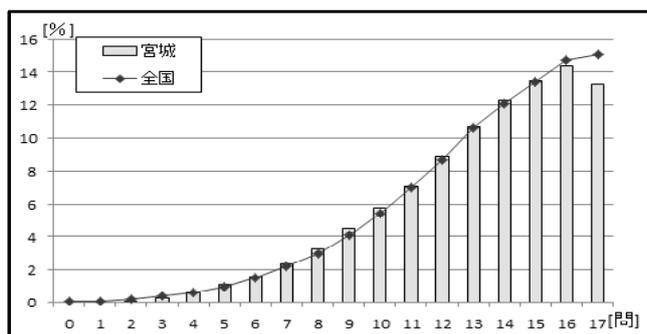
(1) 結果の概要

- 平均正答率は77.3%であり、全国平均とのかい離は平成25年度より0.1ポイント小さくなっているものの、全国平均を0.8ポイント下回っている。
- 平均正答率で全国平均を上回った問題は17問中5問であった。作図に用いられている図形の約束や性質を基に考える問題や二つの数量の関係を記号を用いて式に表す問題、円周の長さを求める問題で、全国平均を2.3ポイント以上下回る結果となっている。いずれも図形領域の問題である。

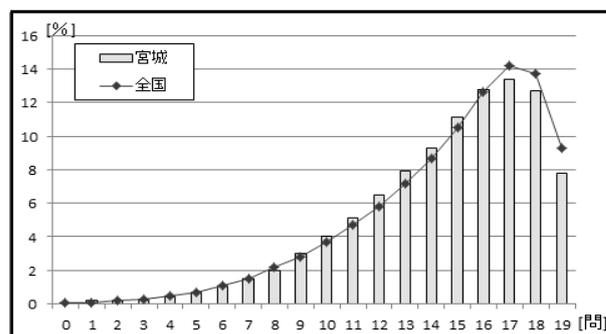
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、16～17問（90～100%）正答している児童の割合が低い。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域で平均正答率が、全国平均を下回っているものの、「数と計算」「量と測定」の領域でのかい離は、0.1ポイントと小さくなっている。
- 「図形」「数量関係」の領域で、全国平均正答率とのかい離が平成25年度より大きくなり、課題が見られる。

年度	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26	81.7	81.8	-0.1	74.7	74.8	-0.1	69.5	71.8	-2.3	79.6	81.3	-1.7	77.3	78.1	-0.8
H25	80.0	80.2	-0.2	66.7	68.3	-1.6	70.9	72.5	-1.6	82.7	83.4	-0.7	76.3	77.2	-0.9
H24	74.6	75.0	-0.4	71.0	71.7	-0.7	73.0	72.6	+0.4	71.9	74.4	-2.5	72.7	73.3	-0.6
H22	75.0	74.1	+0.9	72.0	74.1	-2.1	83.7	83.1	+0.6	63.4	65.7	-2.3	73.8	74.2	-0.4
H21	81.2	82.8	-1.6	77.4	78.5	-1.1	81.1	81.3	-0.2	63.0	64.2	-1.2	77.5	78.7	-1.2
H20	76.2	76.8	-0.6	56.1	56.2	-0.1	71.6	72.7	-1.1	69.8	72.4	-2.6	71.3	72.2	-0.9
H19	79.6	81.5	-1.9	85.1	86.1	-1.0	86.3	86.1	+0.2	74.0	75.4	-1.4	81.1	82.1	-1.0

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【図形】

- ◆ 直径が示されている円の円周の長さを求める問題の正答率は81.6%であり、全国平均を2.3ポイント下回っている。[5(1)]
- ◆ 平行四辺形の作図に用いられている約束や性質の理解についての問題の正答率は47.0%であり、全国平均を5.0ポイント下回っている。[6]

【図形・数量関係】

- ◆ 二つの数量の関係を□, △などの記号を用いて式に表す問題の正答率は79.6%であり、全国平均を2.4ポイント下回っている。[9]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)			
1(1)	$46 + 57$ を計算する	2A (2)ア						○		96.9	96.9	0.1	0.1	0.0	0.0
1(2)	903×6 を計算する	3A (3)イ						○		92.8	92.8	0.2	0.2	0.0	0.0
1(3)	$9 - 0.8$ を計算する	3A (5)イ						○		85.1	83.8	0.7	0.8	1.3	-0.1
1(4)	$2 \div 5$ を計算する	4A (5)ウ						○		91.5	91.8	0.8	0.9	-0.3	-0.1
1(5)	$100 - 20 \times 4$ を計算する				4D (2)ア			○		79.4	80.9	0.4	0.5	-1.5	-0.1
1(6)	$1 \div 3 + 2 \div 5$ を計算する	5A (4)オ						○		89.1	90.6	1.4	1.1	-1.5	0.3
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	5A (3)ア						○		72.1	71.9	0.3	0.3	0.2	0.0
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	5A (3)ア						○		55.0	54.1	0.4	0.4	0.9	0.0
3	示された分数の中から、 $1/2$ より大きいものを選ぶ	5A (4)ア イエ						○		70.9	72.5	0.7	0.6	-1.6	0.1
4(1)	8m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	5B (4)ア						○		81.5	82.3	0.7	0.7	-0.8	0.0
4(2)	8m^2 に16人いるAの部屋について、 1m^2 当たりの人数を求める式を書く	5B (4)ア						○		60.8	60.8	3.8	3.4	0.0	0.4
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く			5C (1)エ				○		81.6	83.9	1.2	1.5	-2.3	-0.3
5(2)	1cm^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	5B (2)アイ						○		81.8	81.1	1.8	1.8	0.7	0.0
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ			4C (1)アイ				○		47.0	52.0	0.5	0.6	-5.0	-0.1
7	縦5cm、横1cm、高さ4cmの直方体の面㊦になる四角形を選ぶ			2C (1)ウ 4C (2)ア				○		69.8	69.4	0.5	0.7	0.4	-0.2
8	答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ				4D (2)ア			○		79.7	81.0	0.8	0.9	-1.3	-0.1
9	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ			5C (1)ア	4D (1)ア 4D (2)ウ			○		79.6	82.0	1.1	1.2	-2.4	-0.1

4 小学校算数B問題

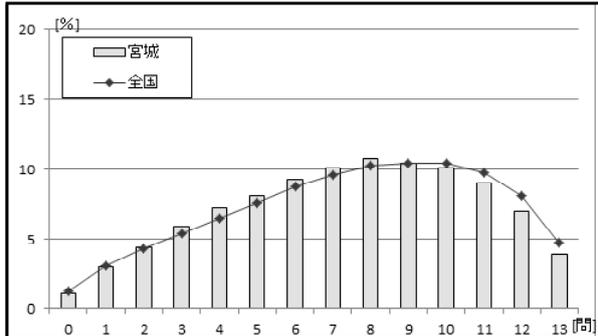
(1) 結果の概要

- 平均正答率は56.8%であり、全国平均とのかい離は平成25年度より0.5ポイント小さくなっているものの、全国平均を1.4ポイント下回っている。
- 平均正答率で全国平均を上回った問題が13問中3問であった。無解答率が10%以上の問題は2問あり、いずれも記述式の問題であった。

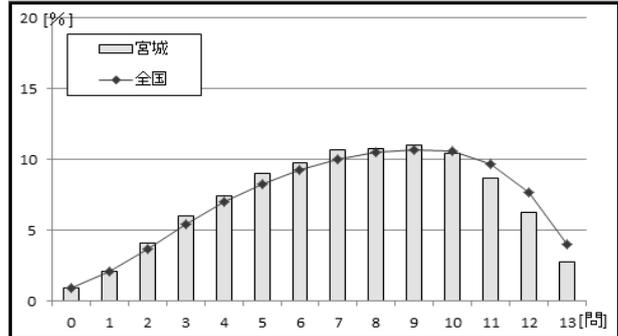
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、10問(70%程度)以上正答している児童の割合が低い状況が見られ、全体的な底上げが必要である。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「図形」を除く3領域で平均正答率が、全国平均を下回っているものの、「量と測定」の領域ではかい離は小さくなっている。

年度	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)												
H26	59.7	61.3	-1.6	55.5	56.5	-1.0	65.8	65.7	+0.1	54.4	56.2	-1.8	56.8	58.2	-1.4
H25	46.7	48.3	-1.6	54.0	56.0	-2.0	78.2	79.3	-1.1	52.9	54.9	-2.0	56.5	58.4	-1.9
H24	52.5	54.0	-1.5	60.2	60.8	-0.6	63.2	63.3	-0.1	48.1	49.5	-1.4	58.1	58.9	-0.8
H22	54.8	55.8	-1.0	30.6	33.3	-2.7	40.3	42.0	-1.7	52.8	54.3	-1.5	47.8	49.3	-1.5
H21	55.0	55.8	-0.8	58.7	59.9	-1.2	54.6	56.4	-1.8	57.1	56.8	+0.3	54.0	54.8	-0.8
H20	64.3	65.2	-0.9	51.9	53.3	-1.4	59.9	61.2	-1.3	43.8	44.9	-1.1	50.4	51.6	-1.2
H19	55.0	58.9	-3.9	55.7	58.0	-2.3	71.0	72.5	-1.5	63.9	65.5	-1.9	61.4	63.6	-2.2

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇:かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と計算】

◆ 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述する問題の正答率は52.5%であり、全国平均を2.7ポイント下回っている。[1(2)]

◆ 10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択する問題の正答率は53.7%であり、全国平均を3.0ポイント下回っている。

[3(2)]

◆ 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する問題の正答率は43.7%であり、全国平均を2.4ポイント下回っている。[5(2)]

【量と測定】

◆ 示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題の正答率は35.4%であり、全国平均を3.2ポイント下回っている。[3(1)]

【数と計算・数量関係】

◆ 繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求める問題の正答率は58.7%であり、全国平均を3.5ポイント下回っている。[4(1)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	宮城県 (公立)	全国 (公立)	宮城県 (公立)	全国 (公立)		
1(1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	3A (3)ア				○			94.6	94.6	0.2	0.3	0.0	-0.1
1(2)	二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く	2A (1)エ 3A (3)ウ			4D (3)ア			○	52.5	55.2	6.7	6.0	-2.7	0.7
2(1)	6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く	4A (3)イエ	5B (2)ア					○	82.3	82.5	3.2	3.0	-0.2	0.2
2(2)	1目盛りを 50m^3 として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く		5B (2)ア		3D (3)ア			○	67.0	69.1	3.1	2.6	-2.1	0.5
2(3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ		5B (2)ア		2D (3)ア 3D (3)ア 4D (4)イ 5D (4)	○			62.9	61.5	1.0	1.2	1.4	-0.2
3(1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く		3B (3)イ					○	35.4	38.6	4.2	3.4	-3.2	0.8
3(2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	1A (1)キ 2A (1)オ				○			53.7	56.7	1.8	1.8	-3.0	0.0
3(3)	示された分け方でスープを分けるとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く		2B (2)ア 5B (4)ア					○	29.8	30.6	2.0	1.9	-0.8	0.1
4(1)	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	1A (1)イ			4D (1)ア			○	58.7	62.2	1.7	1.7	-3.5	0.0
4(2)	二人の㊦のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	5A (1)イ						○	61.2	60.5	12.7	12.1	0.7	0.6
5(1)	畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく			2C (1)イ				○	65.8	65.7	5.1	5.2	0.1	-0.1
5(2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あたり半の長さを表している図を選ぶ	5A (3)ア				○			43.7	46.1	3.2	3.5	-2.4	-0.3
5(3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	5A (3)イ			5D (3)			○	31.1	33.0	14.6	13.1	-1.9	1.5

児童質問紙

質問事項		宮城県	全国	かい離
今回の算数の問題について、言葉や数式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたか。どのように解答しましたか。(全ての問題で努力した)	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	77.7	79.7	-2.0
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった。	20.9	18.1	2.2
	3 書く問題は全く解答しなかった。	1.7	1.8	0.1
解答時間は十分でしたか。(算数A)	1 時間が余った。	54.6	55.9	-1.3
	2 ちょうどよかった。	35.0	33.5	1.5
	3 やや足りなかった。	8.4	8.3	0.1
	4 全く足りなかった。	1.8	2.0	-0.2
解答時間は十分でしたか。(算数B)	1 時間が余った。	45.0	47.3	-2.3
	2 ちょうどよかった。	30.1	29.1	1.0
	3 やや足りなかった。	18.9	17.9	1.0
	4 全く足りなかった。	5.8	5.3	0.5

5 中学校国語A問題

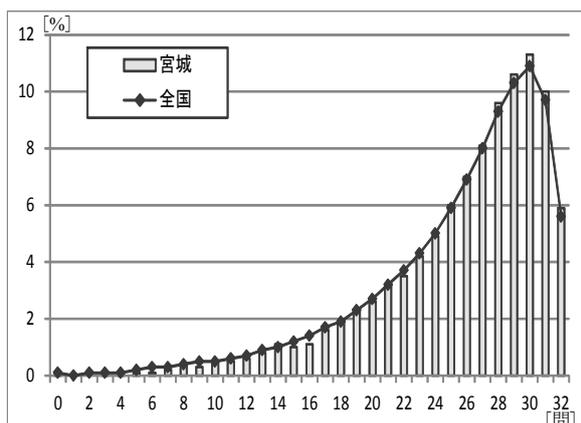
(1) 結果の概要

- 平均正答率は80.3%であり、全国平均を0.9ポイント上回る結果となっている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において全国平均を上回り、基礎的・基本的な内容に関する知識・技能について、バランスよく定着が図られている。

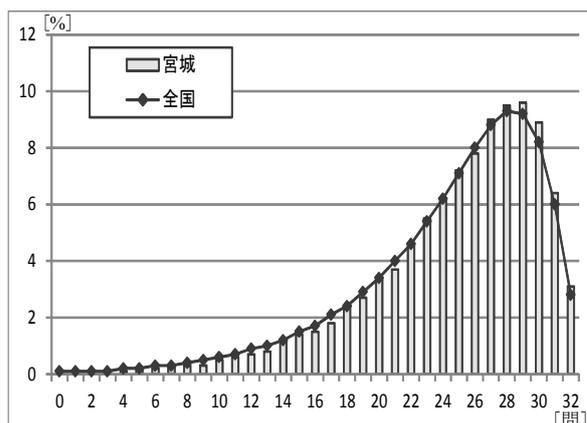
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 28問(85%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べて高く、正答数が16問(50%)以下の生徒の割合は全国より低くなっており、全体的に底上げが図られている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域において全国平均を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均を1.8ポイント上回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比(%)
H26	74.1	72.3	1.8	84.4	83.4	1.0	83.8	82.9	0.9	79.3	78.7	0.6	80.3	79.4	0.9
H25	78.6	77.6	1.0	66.1	64.5	1.6	81.6	80.0	1.6	78.6	77.5	1.1	77.6	76.4	1.2
H24	89.4	87.7	1.7	89.0	88.1	0.9	66.7	65.4	1.3	74.7	73.7	1.0	76.2	75.1	1.1
H22	75.6	74.2	1.4	71.6	71.1	0.5	77.9	76.6	1.3	76.8	75.8	1.0	76.2	75.1	1.1
H21	87.0	86.8	0.2	65.8	64.6	1.2	76.7	75.7	1.0	77.4	76.0	1.4	78.1	77.0	1.1
H20	80.3	80.1	0.2	55.8	55.2	0.6	71.2	71.0	0.2	75.4	75.2	0.2	73.8	73.6	0.2
H19	90.3	90.1	0.2	74.1	73.4	0.7	79.9	80.6	-0.7	78.2	80.3	-2.1	80.8	81.6	-0.8

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス、[]内の記号は設問番号）

【話すこと・聞くこと】

- ◇ 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する問題の平均正答率は56.8%であり、全国平均を2.5ポイント上回っている。[6一]
- ◇ 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす問題の平均正答率は78.5%であり、全国平均を2.5ポイント上回っている。[6二]
- ◇ 報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する問題の平均正答率は82.7%であり、全国平均を2.4ポイント上回っている。[1二]

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◇ 適切な語句を選択する（地域の伝統的な文化を継承する）問題の平均正答率は85.7%で、全国平均を4.9ポイント上回っている。[8三ウ]
- ◇ 漢字を読む（アユの稚魚を放流する）問題の平均正答率は81.2%で、全国平均を4.2ポイント上回っている。[8二1]
- ◆ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（まうけて）問題の平均正答率は73.9%で、全国平均を6.4ポイント下回っている。[8五1]
- ◆ 漢字を書く（地域の人をショウタイする）問題の平均正答率は52.2%で、全国平均を5.4ポイント下回っている。[8二1]

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無回答率の かい離	
			話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質 に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県 (公立)	全国 (公立)	宮城県 (公立)	全国 (公立)			
1一	フリップの効果の説明したのとして適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	2ウ					○			78.5	78.6	0.1	0.2	-0.1	-0.1
1二	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	1エ					○			82.7	80.3	0.1	0.2	2.4	-0.1
2一	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	2ウ					○			92.1	90.9	0.2	0.2	1.2	0.0
2二	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える	2エ					○			80.2	79.8	10.0	9.2	0.4	0.8
3一	主人公が「素通りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ			○			93.2	91.9	0.1	0.2	1.3	-0.1
3二	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア			○			81.5	79.8	0.1	0.2	1.7	-0.1
3三	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したのとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ			○			79.9	79.1	0.3	0.4	0.8	-0.1
4一	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する		1イ				○			93.9	92.6	0.3	0.4	1.3	-0.1
4二	主語を書き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える		1エ				○			80.8	80.5	3.1	3.1	0.3	0.0
5一	「動物」と「外界のもの」との組合せとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する			2ア			○			78.6	78.2	0.3	0.4	0.4	-0.1
5二	「次々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する			2イ			○			86.0	85.6	0.3	0.5	0.4	-0.2
6一	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	2オ					○			56.8	54.3	5.9	5.9	2.5	0.0
6二	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	1オ					○			78.5	76.0	0.9	1.2	2.5	-0.3
7一	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	2ア					○			85.5	84.6	0.4	0.6	0.9	-0.2
7二	文章の構成を変える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す	2オ					○			74.0	72.1	0.9	1.0	1.9	-0.1
8一1	漢字を書く(地域の人をショウタイする)				2(1)ウ(イ)			○			52.2	57.6	16.2	12.3	-5.4	3.9
8一2	漢字を書く(円のハンケイを求める)	文脈に即して漢字を正しく書く			2(1)ウ(イ)			○			59.1	59.5	3.1	3.3	-0.4	-0.2
8一3	漢字を書く(計画を行動にウツす)				2(1)ウ(イ)			○			75.3	73.6	11.5	10.9	1.7	0.6
8二1	漢字を読む(アユの稚魚を放流する)				2(1)ウ(ア)			○			81.2	77.0	6.6	7.7	4.2	-1.1
8二2	漢字を読む(このホールは音響効果が良い)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(ア)			○			90.6	88.6	3.5	4.1	2.0	-0.6
8二3	漢字を読む(新記録に挑む)				2(1)ウ(ア)			○			96.5	95.2	0.8	1.3	1.3	-0.5
8三ア	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)				1(1)イ(ウ)			○			58.8	59.2	0.8	1.0	-0.4	-0.2
8三イ	適切な語句を選択する(先のことは分からないが、とりあえず準備だけはしておこう)				1(1)イ(ウ)			○			97.0	96.2	0.3	0.6	0.8	-0.3
8三ウ	適切な語句を選択する(地域の伝統的な文化を継承する)				2(1)イ(イ)			○			85.7	80.8	0.5	0.8	4.9	-0.3
8三エ	適切な語句を選択する(笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う門には福来たる」という)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			1(1)イ(ウ)			○			90.5	89.5	0.5	0.7	1.0	-0.2
8三オ	適切な敬語を選択する(お客様、私が校内をご案内します)				2(1)イ(ア)			○			94.3	93.0	0.5	0.8	1.3	-0.3
8三カ	適切な語句を選択する(あの人は、単刀直入にものを言う)				1(1)イ(ウ)			○			86.5	86.3	0.8	1.1	0.2	-0.3
8三キ	適切な語句を選択する(忙しい兄は、休日にのびのびと羽を伸ばす)				1(1)イ(ウ)			○			93.6	92.1	0.7	1.0	1.5	-0.3
8四	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を養う)	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く			2(1)イ(イ)			○			62.0	59.9	11.7	12.3	2.1	-0.6
8五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(まうけて)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む			1(1)ア(ア)			○			73.9	80.3	8.4	7.0	-6.4	1.4
8五2	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	古典と昔話とを対応させて内容を捉える			2(1)ア(イ)			○			73.9	71.0	8.5	9.0	2.9	-0.5
8六	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く			1(2)ア			○			77.0	77.6	1.2	1.6	-0.6	-0.4

6 中学校国語B問題

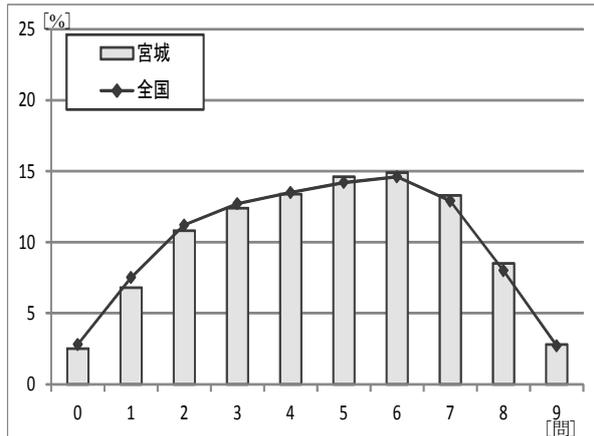
(1) 結果の概要

- 平均正答率が52.0%であり、全国平均を1.0ポイント上回っている。
- 「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域の平均正答率が、全国平均を上回っている。
- 全ての設問において、無解答率が全国平均を下回っている。

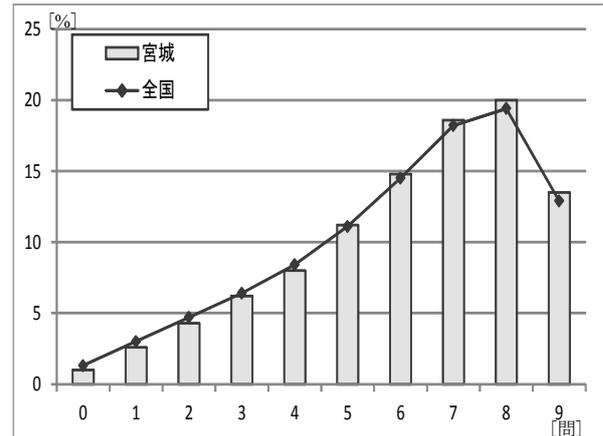
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 5問(60%程度)以上正答した生徒の割合が全国と比べて高く、特に5問から7問(60%～80%程度)正答した生徒の割合が高くなっている状況が見られる。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域において全国平均を上回っており、全体的に底上げが図られている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、平成25年度と比べて全国平均とのかい離がマイナスからプラスに転じており改善が図られている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H26				43.1	41.0	2.1	50.5	49.2	1.3	57.6	56.8	0.8	52.0	51.0	1.0
H25				63.9	62.7	1.2	69.2	67.8	1.4	64.2	64.6	-0.4	68.6	67.4	1.2
H24	61.9	59.9	2.0	59.1	57.4	1.7	64.0	61.5	2.5				65.5	63.3	2.2
H22	47.5	45.6	1.9	62.8	60.2	2.6	68.8	67.5	1.3				66.7	65.3	1.4
H21				75.0	72.5	2.5	76.4	74.5	1.9				76.4	74.5	1.9
H20				48.1	46.7	1.4	61.8	60.8	1.0	63.1	60.5	2.6	61.8	60.8	1.0
H19	81.8	81.3	0.5	63.4	64.4	-1.0	69.8	70.6	-0.8	67.4	68.5	-1.1	71.0	72.0	-1.0

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇ : かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】(設問なし)

【書くこと】

- ◇ ノートを基に、標語から伝わってくる〈メッセージ〉と〈表現の工夫とその効果〉を書く問題の平均正答率が50.8%であり、全国平均を2.6ポイント上回っている。[1三]

- ◇ 水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く問題の平均正答率が30.7%であり、全国平均を2.3ポイント上回っている。[2三]

【読むこと】

- ◇ 標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する問題の平均正答率は61.5%であり、全国平均を2.6ポイント上回っている。[1二]

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1一	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する				1(1) イ(オ)	○			64.1	65.3	0.2	0.3	-1.2	-0.1
1二	標語から伝わってくるメッセージを書く際に気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ			2 エ		○			61.5	58.9	0.3	0.4	2.6	-0.1
1三	ノートを基に、標語から伝わってくる(メッセージ)と(表現の工夫とその効果)を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く		2 オ	2 ウ	1(1) イ(オ)		○		50.8	48.2	2.9	3.4	2.6	-0.5
2一	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える			1 イ		○			30.5	31.4	0.4	0.6	-0.9	-0.2
2二	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る			1 カ		○			61.2	60.9	0.5	0.7	0.3	-0.2
2三	水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く		1 ウ	2 オ			○		30.7	28.4	15.1	16.0	2.3	-0.9
3一	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る			1 カ		○			53.5	52.0	0.6	0.7	1.5	-0.1
3二	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する			2 イ	2(1) ア(イ)	○			67.9	67.2	0.7	0.8	0.7	-0.1
3三	落語の演じ方を選択し、なぜのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く		1 ウ	2 エ	2(1) ア(ア)		○		47.8	46.5	8.5	8.6	1.3	-0.1

生徒質問紙

質問事項	宮城県	全国	かい離	
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	71.1	70.4	0.7
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた。	24.4	24.2	0.2
	3 書く問題は全く解答しなかった。	4.1	4.7	-0.6
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	1 時間が余つた。	56.4	61.8	-5.4
	2 ちょうどよかった。	36.5	31.2	5.3
	3 やや足りなかった。	5.3	4.8	0.5
	4 全く足りなかった。	1.1	1.2	-0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	1 時間が余つた。	38.6	44.4	-5.8
	2 ちょうどよかった。	37.8	35.1	2.7
	3 やや足りなかった。	19.7	16.3	3.4
	4 全く足りなかった。	3.1	3.1	0.0

7 中学校数学A問題

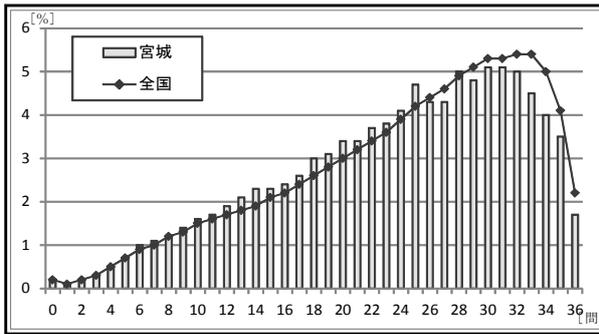
(1) 結果の概要

- 平均正答率は65.6%で、全国平均を1.8ポイント下回っている。全国平均とのかい離は、昨年度より0.3ポイント大きくなっており、課題が見られる。
- 全国平均とのかい離は、「図形」領域を除く3領域で、昨年度より大きくなっている。
- 4領域において、全国平均とのかい離が5ポイント以上ある設問が1問ないし2問ある。

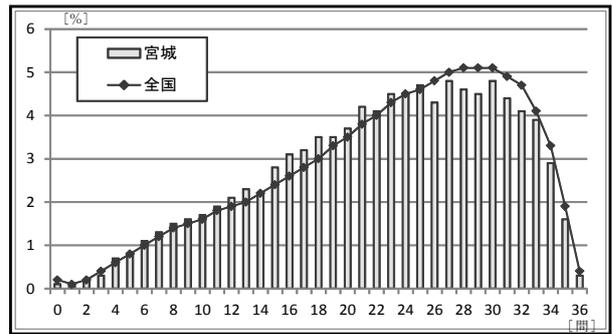
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、26問(70%程度)以上正答している生徒の割合が低く、9問～25問(25%～70%程度)正答している生徒の割合がやや高くなっている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域とも、全国平均より1.2ポイント以上下回っている。
- 「図形」領域の平均正答率は全国平均を下回ったが、全国平均とのかい離が0.2ポイント小さくなっている。

年度	数と式			図形			関数			資料の活用			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比(%)												
H26	75.5	77.4	-1.9	65.2	66.4	-1.2	56.0	58.0	-2.0	56.7	59.1	-2.4	65.6	67.4	-1.8
H25	71.7	72.7	-1.0	63.2	64.6	-1.4	57.0	58.7	-1.7	45.1	46.8	-1.7	62.2	63.7	-1.5
	数と式			図形			数量関係			資料の活用			合計		
H24	66.1	67.5	-1.4	66.2	66.7	-0.5	50.3	52.1	-1.3				60.8	62.1	-1.3
H22	74.7	75.2	-0.5	63.8	64.3	-0.5	54.6	54.3	0.3				64.4	64.6	-0.2
H21	66.0	67.3	-1.3	64.8	64.6	0.2	55.7	56.2	-0.5				62.1	62.7	-0.6
H20	65.4	68.0	-2.6	61.6	62.7	-1.1	57.3	58.6	-1.3				61.4	63.1	-1.7
H19	72.4	74.4	-2.0	73.7	75.5	-1.8	64.4	65.9	-1.5				70.3	71.9	-1.6

(4) 設問別の調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 指数を含む正の数と負の数の計算問題の平均正答率は65.3%であり、全国平均を5.4ポイント下回っている。[1(2)]
- ◆ 分数を含む一元一次方程式を解く問題の平均正答率53.4%であり、全国平均を6.1ポイント下回っている。[3(2)]

【図形】

- ◆ 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は32.9%であり、全国平均を5.8ポイント下回っている。[5(4)]

【関数】

- ◆ 比例の関係を式に表す問題の平均正答率は50.3%であり、全国平均を6.4ポイント下回っている。[10(1)]
- ◆ 反比例について、グラフと表を関連付けて理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は40.5%で、全国平均を5.2ポイント下回っている。[10(4)]

【資料の活用】

- ◆ ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解しているかどうかをみる問題の平均正答率は46.6%で、全国平均より5.4ポイント下回っている。[13(2)]
- ◆ 樹形図を利用して確率を求める問題の平均正答率は59.2%で、全国平均を5.9ポイント下回っている。[14(2)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1(1)	$3/4 \div 5/6$ を計算する	小6(1)イ						○	82.6	85.8	3.7	2.8	-3.2	0.9
1(2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	1(1)ウ						○	65.3	70.7	1.5	1.5	-5.4	0.0
1(3)	-7の絶対値を書く	1(1)ア						○	83.8	81.0	5.0	5.9	2.8	-0.9
1(4)	35を基準にして38を正の数で表す	1(1)ア,エ						○	91.2	91.1	2.2	2.3	0.1	-0.1
2(1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	1(2)エ						○	41.7	45.2	12.5	11.1	-3.5	1.4
2(2)	$10xy \div 5x$ を計算する	2(1)ア						○	87.9	90.7	2.6	2.4	-2.8	0.2
2(3)	$a=2, b=3$ のときの式 ab^2 の値を求める	2(1)イ						○	81.9	82.6	6.6	5.9	-0.7	0.7
2(4)	男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持った風船の合計数を、 m と n を用いて表した式を選ぶ	2(1)イ					○	90.8	91.2	0.3	0.4	-0.4	-0.1	
3(1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	1(3)イ					○	90.1	89.7	0.4	0.6	0.4	-0.2	
3(2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	1(3)ウ						○	53.4	59.5	14.9	12.4	-6.1	2.5
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	2(2)ウ						○	74.1	74.1	0.8	1.0	0.0	-0.2
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y=3x-2 \\ y=2x+3 \end{cases}$ を解く	2(2)ウ						○	63.7	67.2	10.9	10.0	-3.5	0.9
4(1)	線対称な図形を完成する		小6(1)イ					○	94.1	93.8	2.4	2.5	0.3	-0.1
4(2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	1(1)ア					○	55.1	56.0	0.5	0.7	-0.9	-0.2	
4(3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	1(1)イ					○	40.7	42.5	0.3	0.6	-1.8	-0.3	
5(1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	1(2)ア						○	80.3	81.0	4.0	4.2	-0.7	-0.2
5(2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ	1(2)イ					○	83.5	84.8	0.3	0.5	-1.3	-0.2	
5(3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	1(2)イ						○	66.9	67.7	7.3	7.4	-0.8	-0.1
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	1(2)ウ					○	32.9	38.7	0.6	0.7	-5.8	-0.1	
6(1)	長方形ABCDにおいて、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	2(2)ウ						○	60.0	61.7	0.4	0.6	-1.7	-0.2
6(2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	2(1)ア						○	71.6	73.4	0.8	1.0	-1.8	-0.2
6(3)	n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものを選ぶ	2(1)イ						○	47.3	47.8	0.8	1.0	-0.5	-0.2
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	2(2)ウ						○	73.3	73.1	0.7	0.9	0.2	-0.2
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	2(2)イ,ウ						○	76.5	75.8	7.3	7.2	0.7	0.1
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する			1(1)ア				○	36.6	35.8	17.9	17.9	0.8	0.0
10(1)	$x=2, y=6$ の比例の式を求める			1(1)エ				○	50.3	56.7	15.6	13.0	-6.4	2.6
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ			1(1)イ				○	75.1	75.9	0.8	1.1	-0.8	-0.3
10(3)	$s=vt$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ			1(1)エ				○	60.4	60.4	1.3	1.5	0.0	-0.2
10(4)	反比例のグラフから表を選ぶ			1(1)エ				○	40.5	45.7	1.6	1.7	-5.2	-0.1
11(1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ			2(1)イ				○	45.2	47.3	1.6	1.8	-2.1	-0.2
11(2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ			2(1)イ				○	75.8	75.1	1.2	1.4	0.7	-0.2
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ			2(1)ウ				○	64.0	66.7	2.4	2.5	-2.7	-0.1
13(1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める			1(1)ア				○	44.7	42.7	17.2	16.7	2.0	0.5
13(2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ			1(1)ア				○	46.6	52.0	1.7	1.8	-5.4	-0.1
14(1)	画びょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ			2(1)ア				○	76.5	76.6	1.9	2.0	-0.1	-0.1
14(2)	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める			2(1)ア				○	59.2	65.1	11.6	10.6	-5.9	1.0

8 中学校数学B問題

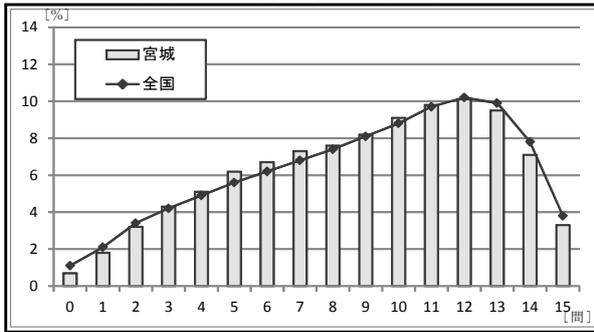
(1) 結果の概要

- 平均正答率は59.4%で、全国平均を0.4ポイント下回っている。全国平均とのかい離は、昨年度より1.4ポイント小さくなっており、改善が図られつつある。
- 「関数」領域の全ての問題で、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 全国平均とのかい離が3ポイント以上大きくなっている問題が、「数と式」領域に1問、「図形」領域に2問ある。

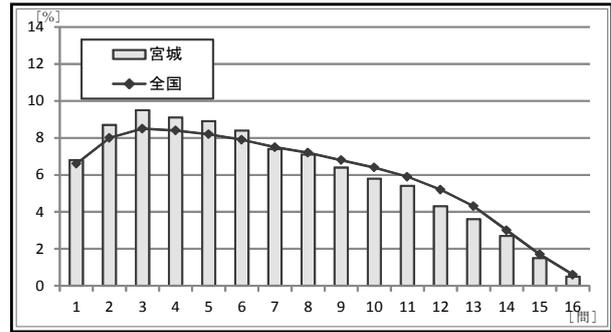
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比べ、13問(85%程度)以上正答した生徒の割合が低く、4問～8問(25%～50%程度)正答している生徒の割合が高くなっている。

【平成26年度正答数度数分布グラフ】



【平成25年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「数と式」領域の平均正答率は全国平均を下回っているが、全国平均とのかい離が3.4ポイント小さくなっている。
- 「図形」と「資料の活用」の領域の平均正答率は、平成25年度は全国平均を上回っていたのに対し、平成26年度は全国平均を下回り、課題がみられる。
- 「関数」領域の平均正答率は、全国平均を1.3ポイント上回っている。

年度	数と式			図形			関数			資料の活用			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)												
H26	54.7	56.9	-2.2	57.4	58.6	-1.2	65.7	64.4	1.3	55.4	55.9	-0.5	59.4	59.8	-0.4
H25	36.1	41.7	-5.6	45.8	44.8	1.0	39.2	40.0	-0.8	42.7	42.2	0.5	39.7	41.5	-1.8
	数と式			図形			数量関係			合計					
H24	41.4	40.9	0.5	61.8	59.7	2.1	30.9	39.8	0.1				50.5	49.3	1.2
H22	43.5	43.2	0.3	41.1	40.2	0.9	46.2	45.5	0.7				44.0	43.3	0.7
H21	61.6	61.4	0.2	58.8	57.5	1.3	54.7	54.1	0.6				57.7	56.9	0.8
H20	53.8	54.2	-0.4	59.2	57.6	1.6	44.2	44.7	-0.5				49.1	49.2	-0.1
H19	45.5	48.2	-2.7	54.0	53.1	0.9	67.0	67.9	-0.9				59.4	60.6	-1.2

(4) 設問別調査結果

○全国とのかい離が大きい設問等 (◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 与えられた証明の道筋を読み取り、式を適切に変形することで、その証明を完成することができるかどうかをみる問題の平均正答率は55.0%で、全国平均を6.2ポイント下回っている。[2(1)]

【図形】

- ◆ 事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができるかどうかをみる問題の平均正答率は57.6%で、全国平均を3.0ポイント下回っている。[1(3)]
- ◆ 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、証明された事柄を用いることができるかどうかをみる問題の平均正答率は20.3%で、全国平均を3.0ポイント下回っている。[4(2)]

【関数】

- ◇ 与えられたグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題の平均正答率は65.0%で、全国平均を2.3ポイント上回っている。[6(1)]

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1(1)	案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ		1(2) ア、イ			○			77.7	77.0	0.2	0.3	0.7	-0.1
1(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ		1(2) ア、イ			○			93.6	92.8	0.3	0.4	0.8	-0.1
1(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する		1(2) ア、イ				○		57.6	60.6	13.2	12.7	-3.0	0.5
2(1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する	2(1) イ、ウ					○		55.0	61.2	9.0	9.3	-6.2	-0.3
2(2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	2(1) イ、ウ					○		65.3	65.4	8.7	9.0	-0.1	-0.3
2(3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	2(1) イ、ウ						○	43.8	44.2	6.5	6.3	-0.4	0.2
3(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かかったことを表す点を求める			1(1) ウ			○		88.9	87.5	4.9	5.8	1.4	-0.9
3(2)	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する			1(1) ア、エ				○	62.4	62.3	30.6	30.1	0.1	0.5
4(1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する		2(2) イ、ウ					○	37.8	39.4	22.0	22.5	-1.6	-0.5
4(2)	$\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める		2(2) ア、ウ					○	20.3	23.3	28.1	25.8	-3.0	2.3
5(1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める				2(1) ア		○		79.8	79.7	4.0	4.8	0.1	-0.8
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する				2(1) イ			○	31.0	32.1	6.6	7.3	-1.1	-0.7
6(1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める			2(1) イ、エ			○		65.0	62.7	7.4	9.0	2.3	-1.6
6(2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ			2(1) イ、エ		○			81.7	79.8	1.8	2.5	1.9	-0.7
6(3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する			2(1) イ、エ				○	30.4	29.9	16.2	17.5	0.5	-1.3

生徒質問紙

質 問 事 項	宮城県	全国	かい離	
今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたが	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。	56.7	57.7	-1.0
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった。	37.3	35.7	1.6
	3 書く問題は全く解答しなかった。	5.7	6.0	-0.3
調査問題の解答時間は十分でしたか(数学A)	1 時間が余った。	52.6	58.7	-6.1
	2 ちょうどよかった。	37.0	32.2	4.8
	3 やや足りなかった。	8.1	6.7	1.4
	4 全く足りなかった。	1.9	1.8	0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(数学B)	1 時間が余った。	39.1	44.6	-5.5
	2 ちょうどよかった。	35.0	33.1	1.9
	3 やや足りなかった。	21.1	17.5	3.6
	4 全く足りなかった。	4.5	4.4	0.1

Ⅲ 類似（同一）問題の比較

(1) 小学校国語

A5 登場人物の相互関係を捉える。

平成22年度の類似問題である。平成22年度調査での正答率は63.6%であったが、今年度調査では63.9%であった。平成22年度、平成26年度とも、全国平均とのかい離が-1.4ポイントであった。

物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題があり、物語を読むときの基本となる登場人物の人物像や相互関係を捉える指導について、一層の指導の充実が必要である。

物語などの文学的な文章は、登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながらかく読むことが重要である。中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。その際、その中心人物を取り巻く登場人物がその中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴ってどのように変化していくのかに着目できるようにすることが大切である。

H 2 6 小国 A 5

5

次は、「かくれんぼう」という題名の物語の一部です。
 中には、「よし子」「ジョール」「オデット」という人物の名前が入ります。それぞれに当てはまる名前を書きましよう。ただし、同じ名前は一回しか入りません。

ア ・ イ ・ ウ

■物語のこれまでのあらすじ

登場人物は、よし子、フランス人のジョールとその妹のオデットです。三人は、かくれんぼうをして遊んでいます。おにのジョールは、よし子とオデットを同時に見つけました。そこで、二人はジョールにどちらを先に見つけたのかたずねています。

よし子もオデットさんも耳をすまし、ジョールさんの口から出る言葉を待っている。

しばらくして、

「オデットだ。」

と、ジョールさんはさっぱり言い切った。緊張はゆるむ。

「ジョールはうそ。いやだわ、私。」

オデットさんはまゆ根を寄せ、かたに付くほど首をかたむけ、後ろ手に門の戸をすって横歩きしながら、泣きだしそうな顔をした。

よし子は、気の毒そうに、だまってしばらくそれを見ていたが、

「そんなら、いいわ。私、おにになるわ。」

と言った。

「ア、ずるい。」

兄さんは妹をにらんだ。

「いいことよ、私がおにになるから。早くおにげなさい。ね、早くおにげなさい。私、ここにこうしているから。」

「オデット、おいで。」

ウ さんは不興気に言った。

※1 「まゆ根を寄せ」…いやなことに対して顔をしかめること。
 (志賀直哉「かくれんぼう」による)

※2 「後ろ手」…手を背中に回すこと。

※3 「不興気」…おもしろくない様子。

(全国) 65.3%

(県) 63.9%

H 2 2 小国 A 3

3

次は、「たったひとりの伝説」という物語のはじめで、「おじいちゃん」に届いた外国語の手紙を見せられた「ぼく」について書かれた場面の一部です。

ウ 文中の言葉を使ってそれぞれ書きましょう。

ア ・

イ ・

「読まなくても、見るだけでいい」
おじいちゃんに言われ、ぼくは三枚の紙をひとつひとつお見見た。そして、
「やっぱり何が書いてあるか、わかんないよ」
と言って、すぐに紙をおじいちゃんに返した。

ア もしもそのとき、部屋に母さんがいたら、どんなでもないことになっていたらろう。
はこれくらいのことでも、顔をまっ青にして

イ にあやまるか、さも

ウ をしかる。

「なんですか、その態度は。おじいさまに、『やはり、わかりません』と言いなおしなさいー」
でも、母さんはそこにはいなかった。

(青藤洋「たったひとりの伝説」による。)

(全国) 65.0%
(県) 63.6%

B1一 目的に応じて、話合いの観点を整理する。

平成19年度の類似問題である。平成19年度調査での正答率は60.5%であったが、今年度調査では62.7%であった。平成19年度では全国平均とのかい離が-2.4ポイントであり、今年度は-2.5ポイントであった。司会として話合いの観点を整理することに課題があり、指導の充実が求められる。

複数の発言内容を聞き分け、考えの立場や見解を分類・整理するなどして、適切な観点を設定できるように指導することが大切である。また、各教科等との関連も図りながら、全員が司会の役割を経験する機会を設けるなどして、具体的に指導することが重要である。

B1三 立場を明確にして、質問や意見を述べる。

平成21年度の類似問題である。平成21年度調査での正答率は26.4%であったが、今年度調査では28.3%であった。平成21年度では全国平均とのかい離が+0.7ポイントであったが、今年度は全国平均とのかい離はない。

相手の発言を引用して質問や意見を述べることに課題があるものの、1つ目の条件である「書き手の立ち場に立って、質問、意見のどちらかを選択した上でその内容を書いている」を満たしている児童の割合が55.5%であることから、一定の立場に立って話し合うことの理解は進んでいるものと考えられる。

互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べることが重要であり、話し手の意図を捉えながら聞くとともに、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞くことができるよう指導することが大切である。

1

第一小学校の六年生の学級では、「卒業文集はパソコンを使ってつくるか、手書きにするか」という議題で、それぞれの立場に分かれて討論会を行っています。次は、そのときの「討論会の様子」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【討論会の様子】：①・②・③・④・⑤の発言の内容は、あとの問いと関係があります。

司会 これから討論会を始めます。今回の議題は「卒業文集はパソコンを使ってつくるか、手書きにするか」ということです。ではまず、パソコンを使う立場からの主張をお願いします。

丸山 はい。ぼくは、パソコンを使う方がよいと思います。手書きは、文字を書いたり消したりするのがめんどろからです。パソコンであれば、何度でも簡単に書き直すことができますので、作業に取り組みやすいと思います。

大野 私もパソコンを使う方がよいと思います。記念に残る卒業文集なので、読みやすくつくるべきだと考えます。手書きだった過去の卒業文集は読みにくいところがありました。パソコンであれば、文字が上手かどうかに関係なく、文字の形や大きさがそろっているので、読みやすくなります。

司会 次に、手書きの立場からの主張をお願いします。

関口 はい。ぼくは、手書きの方がよいと思います。六年生のときの手書きの文字をそのまま残した方が、記念に残る卒業文集になると思います。

平川 私も手書きの方がよいと思います。学校のパソコンは、利用できる場所や時間が限られています。手書きであれば、場所や時間に気にせず、自分のペースで作業を進めることができますので、取り組みやすいと思います。

司会 ここで、一度整理をします。それぞれの主張に共通する観点が二つあります。一つ目は、丸山さんと平川さんから出された「ア」についてです。二つ目は、大野さんと関口さんから出された「記念に残る卒業文集のあり方」についてです。では最初に、手書きの立場からパソコンを使う立場に対して、二つの観点それぞれについての質問や意見を出してもらいます。まず、一つ目の「ア」から、質問や意見をお願いします。

丸山 丸山さんの発言に対して質問があります。私はパソコンの操作が得意ではありません。パソコンを使って文章を書くことに慣れていない人は、学級に何人くらいいると考えていますか。

丸山 はい。学級の半分ぐらいの人は、使うことに慣れていないと思います。

谷 丸山さんの発言に対して意見があります。全員がパソコンを使いこなせるわけではないので、作業に時間がかかってしまい、完成がおそくなります。パソコンを使うよりも、手書きの方がスムーズに取り組みるので、手書きがよいと思います。

丸山 確かに、パソコンを上手に使える人は時間がかかるとは思います。そうであれば、使い慣れている人が、そうでない人に教えながら取り組むこともできるとは思います。

司会 ほかにもありませんか。(発言がないことを確かめて) ないようであれば、次に、二つ目の「記念に残る卒業文集のあり方」について、質問や意見をお願いします。

あなた 大野さんの発言に対して があります。
イ

一 【討論会の様子】の中の司会④の「ア」の中には、丸山さん①と平川さん③の発言に共通する観点が入ります。ふさわしい内容を、二人の発言に共通する言葉を使って、十二字以内で書きましょう。

二 【討論会の様子】の中の林さん⑤の質問は、どのようなねらいがあると考えられますか。その説明として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手の主張の内容と自分の主張の内容との共通点を知らうとしている。
- 2 相手の主張に対する自分の考えが理解されているかどうか確認しようとしている。
- 3 相手の主張の中で述べられていないことがらをくわしく聞き出そうとしている。
- 4 相手の主張の中に理由が述べられていないことを明らかにしようとしている。

三 あなたは、「討論会の様子」の中の のところで、大野さん②の発言に対して、手書きの立場から「質問」か「意見」かのどちらかを述べます。解答用紙の の中に「質問」か「意見」かのどちらかを選んで書き、その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

- 大野さん②の発言の中の言葉を、「」を使って引用して書くこと。なお、「」の中に引用する言葉は二十五字以内とする。
- 書き出しの文に続けて、八十字以上、百字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの文は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらかで行を変えないで、続けて書きましょう。

大野さんの発言に対して があります。

100字 80字

H 2 6 小 国 B 1 一
(全国) 65.2%
(県) 62.7%

H 2 6 小 国 B 1 三
(全国) 28.3%
(県) 28.3%

H 1 9 小国 B 1 一

1 次の記録は、六年生の大林さんの学級で、「一年生と楽しく交流しよう」という議題について話し合った様子です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

司会 それでは、一年生と楽しく交流するための計画について話し合います。遊びの内容、準備の分担、今後の日程の三つについて順番に話し合います。まずは、遊びの内容について話し合います。一年生と六年生がいっしょに遊ぶときに、どんな条件だったらいかが意見を出してください。

大林 ぼくは、一年生が喜ぶために、人気がある遊びを考えたいと思います。

山本 わたしは、一年生がやりやすいように、ルールが簡単な遊びがいいと思います。

1司会 そのほかに意見はありませんか。(発言がないのを確かめて)今出されている条件は、「一年生に人気があること」、「ルールが簡単であること」の二つです。この二つの条件に合った遊びにするということで、話し合いを進めてもいいですか。

全員 いいです。

2司会 それでは、この二つの条件に合う遊びを考えて、提案してください。

池田 ぼくは、ルールが簡単で、とっても人気があるぶんこで遊んだらいいと思います。

木村 わたしは、一年生がよくやっていて、ルールが簡単なおにごっこがいいと思います。一年生と親しくなるには、交代で順番にやるような遊びではなくて、一度にたくさんの人で遊べる遊びがいいからです。

小松 それだったら、ぼくは、長なわとびで遊んだらいいと思います。一年生も休み時間によくやっていて、特にむずかしいルールもなく、みんながいっせいに遊べるからです。

3司会 これまでに三つの遊びが提案されました。「ぶんこ」、「おにごっこ」、「長なわとび」です。提案の中には、先に決めた二つの条件以外の新しい条件もふくまれています。それは、**ア**という条件です。この条件を加えて話し合いを進めてもいいですか。

全員 はい、いいです。

3 (話し合いが続く)

1 3司会の **ア** の発言の中に入る、ふさわしい言葉を書きましよう。

(全国) 65.2%
(県) 62.7%

H 2 1 小国 B 2 二

2 川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

話し合いの様子の一部

【資料】家のなかのそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

(国立オリンピック記念青少年総合センター「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による)

司会 ここからは、川口さんたちが集めた【資料】をもとにして、「家のなかのそうじや整とん」について話し合います。【資料】を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口 平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家のなかのそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山 確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五%しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると、六十七%もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

村田 今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

あなたの発表

ア

3 (話し合いが続く)

2 あなたは、**ア** のところで、前のページの **ア** にある **ア** の意見の立場から発表することにしました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましよう。

- 【条件】
- 平成十七年の割合(%)を取り上げる
 - 六十字以上八十字以内(まどめて、発表するように書くこと)

(全国) 25.7%
(県) 26.4%

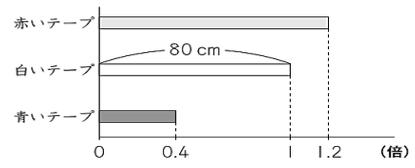
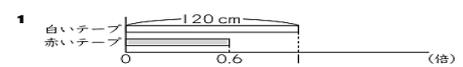
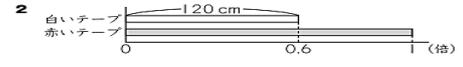
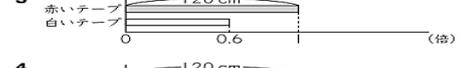
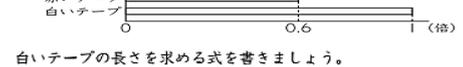
(2) 小学校算数

A[2] (2) 示された図を基に青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ。

平成24年度の類似問題である。平成24年度の正答率は41.6%であったが、今年度調査では55.0%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+0.5ポイントであったのに対し、今年度は+0.9ポイントとなった。割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることの理解に課題がある。

誤答については、「4」と解答した反応率が31.7%である。この中には、基準量より比較量が大きいか場合は加法、小さい場合は減法と捉えて選択している児童がいると考えられる。

基準量と比較量の関係を観察し、その関係を的確に捉えて演算の決定が確実にできるようにすることが大切である。

<p>H26 小学校 算数A [2] (2)</p> <p>下の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。</p>  <p>(2) 青いテープの長さを求める式を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 $80 + 0.6$ 2 $80 - 0.6$ 3 80×0.4 4 $80 \div 0.4$ 	<p>H24 小学校 算数A [3] (2)</p> <p>赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>赤いテープの長さは120cmです。 赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1  2  3  4  <p>(2) 白いテープの長さを求める式を書きましょう。 ただし、計算の答えを書く必要はありません。</p>
<p>(全国) 54.1%</p> <p>(県) 55.0%</p>	<p>(全国) 41.1%</p> <p>(県) 41.6%</p>

A[4] (2) 8㎡に16人いるAの部屋について、1㎡あたりの人数を求める式を書く。

平成25年度の類似問題である。平成25年度調査での正答率は48.0%であったが、今年度調査では60.8%であった。平成25年度では、全国平均とのかい離が-2.0ポイントであったのに対し、今年度はかい離がなかった。しかし、単位量当たりの大きさを求める除法の式を立てることには依然として課題が見られる。

誤答については、「4」と解答した反応率が15.2%である。「8㎡」、「16人」の二つの量には着目できているが、1㎡あたりの人数を求めるための式の理解ができていない児童がいると考えられる。

混み具合について、単位量当たりの人数で比べる際、具体的な操作を示すなどしながら等分除の見方と関連付けて捉えられるようにし、的確に式を立て1㎡あたりの人数を求めることが大切である。

<p>H26 小学校 算数A [4] (2)</p> <p>Aの部屋の1㎡あたりの人数を調べます。 Aの部屋の面積は8㎡で、部屋の中には16人います。</p> <p>(2) Aの部屋の1㎡あたりの人数を求める式を書きましょう。 ただし、計算の答えを書く必要はありません。</p>	<p>H25 小学校 算数A [4]</p> <p>AとBの2つのシートがあります。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">A 6㎡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">B 5㎡</div> </div> <p>下の表は、シートの上にはまっている人数とシートの面積を表しています。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">すわっている人数とシートの面積</th> </tr> <tr> <th></th> <th>人数(人)</th> <th>面積(㎡)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>8</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>どちらのシートのほうがこんでいるかを調べるために、下の計算をしました。</p> <p style="text-align: center;">A $12 \div 6 = 2$ B $8 \div 5 = 1.6$</p> <p>上の計算からどのようなことがわかりますか、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1㎡あたりの人数は2人と1.6人なので、Aのほうがこんでいる。 2 1㎡あたりの人数は2人と1.6人なので、Bのほうがこんでいる。 3 1人あたりの面積は2㎡と1.6㎡なので、Aのほうがこんでいる。 4 1人あたりの面積は2㎡と1.6㎡なので、Bのほうがこんでいる。 	すわっている人数とシートの面積				人数(人)	面積(㎡)	A	12	6	B	8	5
すわっている人数とシートの面積													
	人数(人)	面積(㎡)											
A	12	6											
B	8	5											
<p>(全国) 60.8%</p> <p>(県) 60.8%</p>	<p>(全国) 50.0%</p> <p>(県) 48.0%</p>												

(3) 中学校国語

B1 ー 表現の技法について理解する

平成24年度の類似問題である。平成24年度調査での正答率は41.9%であったが、今年度調査では64.1%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+1.5ポイントであったのに対し、今年度は-1.2ポイントとなった。

比喩や反復などの表現の技法については、その名称を確認するとともに、具体的な表現と結び付けて理解することが大切である。例えば、詩や短歌に用いられている表現の技法を取り上げ、意味や用法を考えながら、その効果について意見を述べ合う学習活動が考えられる。また、いくつかの表現の技法を取り上げて自分の表現に生かす学習活動も有効である。

H26 中国B1ー

- 1 反復法
- 2 対句法
- 3 擬人法
- 4 倒置法

「早川さんのノート」の に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 図書委員の早川さんは、皆にもっと本を読んでもらうために、社会で取り組まれている「読書週間」の標語を参考にして標語を作っています。次は、「読書週間」の標語を整理した「早川さんのノート」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「早川さんのノート」

「読書週間」の標語

■ 標語から伝わってくるメッセージと、表現の工夫とその効果について

- ・ ありますか？好きだといえる1冊が：
 - （メッセージ）↓ お気に入りの一冊をもつことは人生を豊かにする。この機会に本をたくさん読んで好きな一冊を見つけてほしいというメッセージが伝わる。
 - （表現の工夫）↓ 呼びかけの形で始めることで、読む人の関心を引いているところがよい。
 - （その効果）↓ 五七五のリズムも親しみももてる。
- ・ 風もページをめくる秋
 - （メッセージ）↓ 秋はさわやかな季節なので、たまには快い風の中で本を読み、リラックスした時間を過ごしてみようかというメッセージが伝わる。
 - （表現の工夫）↓ を使って、情景を豊かに想像できるようにしている。また、体言止めが使われ、秋が強調されている。
 - （その効果）↓ 本を旅する
- ・ 本と旅する
 - （メッセージ）↓ × 本と旅したり、本を旅したりするのはよいというメッセージが伝わる。

○ 旅の途中で本を読むのは楽しいことだ。また、旅をしなくても、本を読めば未知の世界を知ることができるというメッセージが伝わる。

「本」と「旅する」という言葉のつなが方を一文字変えて繰り返しすることで、心地よいリズムが生まれている。

(全国) 65.3%

(県) 64.1%

2 中学生の長井さんは、六年生のときの担任の先生に手紙を書いています。次は、その「手紙の下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「手紙の下書きの一部」

拝啓

ようやく春めいてまいりました。松山先生、いかがお過ごしですか。きっといつもの優しい笑顔で授業をされていると思います。

私は三年生になり、勉強と部活動とを両立させ、充実した中学校生活を送っています。

二 長井さんは、文章を読み返して、「――線部「ようやく春めいてまいりました。」のあとに、次のように書き足しました。書き足した内容から分かる長井さんの工夫として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

六年生のとき遠足で行った川原の土手にも、つくしが顔を出しています。

- 1 相手と共有できる話題を取り上げることで、一層親しみをもって読んでもらえるようにしている。
- 2 中学校生活の様子を詳しく報告することで、相手に具体的なイメージを伝えるようにしている。
- 3 話題に対する自分の立場とその根拠を示すことで、より説得力をもたせるようにしている。
- 4 相手を気づかう表現を加えることで、相手を不快な気持ちにさせないようにしている。

(全国) 40.4%

(県) 41.9%

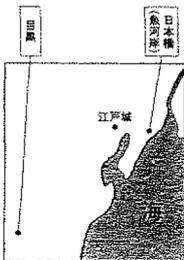
B3 三 ものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く

平成25年度の類似問題である。平成25年度調査での正答率は68.2%であったが、今年度調査では47.8%であった。平成25年度、今年度ともに全国平均を上回ったが、平成25年度が+3ポイントであったのに対し、今年度は+1.3ポイントであった。

文学的な文章では、登場人物の心情や作者の思いなどを想像しながら読むことが大切であり、自分が感じたことや考えたことの根拠を、文章に照らし合わせて明らかにすることが重要となる。さらに、自分の考えの根拠が妥当であるか、説明が十分であるかなどについて検討することが必要である。例えば、作品を読んで感じたことや考えたことを、根拠を明らかにして書き、互いに意見を述べ合う学習活動などが考えられる。

H26 中国B3三

※ 話は、このあとの「落語『目黒のさんま』の最後の部分（次のページ）に続きます。



(注1) 日本橋の魚河岸と当時、江戸の日本橋は大きな魚市場があり、新鮮な魚が集まっていた。
(注2) だが、江戸の日本橋は、新鮮な魚が集まっていた。

ある秋の日、江戸に住む殿さまが、家来を連れて、郊外の目黒まで馬に乗って出掛けました。殿さまが空腹を感じ出した頃、どこからか魚を焼くにおいが漂ってきます。殿さまは、このよいにおいが、「さんま」という魚を焼くにおいだと知り、さんまが食べたくてたまらなくなりました。

殿さまは、家来たちに「早速さんまを用意せよ」と言い付けました。しかし、このあたりには魚屋も見当たらないため、さんまはすぐに手に入りません。困った家来たちは、さんまを焼いていた農家を訪ね、餅のつた焼き立てのさんまを譲ってくれるように頼みますが断られます。そのやりとりを聞いていた殿さまは、自らお願いし、ようやく、生まれて初めてのさんまを召し上がり、座敷に戻ってからも、殿さまは目黒で食べたさんまの味が忘れられません。しかし、殿さまの食事に座敷の食べるさんまを出しては、十分すぎるほど、さんまへの思いは日に日に募る一方です。

ある日、殿さまは、親戚の家に出掛けました。すると、「何でもお好みのお料理をお申し付けください。」とのことだったので、殿さまは、待つてましたばかりに、「さんまが食べたい。」とおっしゃいました。親戚の家の家来たちは、早速日本橋の魚河岸から最も上等なさんまを取り寄せてきました。しかし、このような餅の多い魚を差し上げて、もしもお体にさわるっては大変と心配した家来たちは、十分に蒸して、小骨は毛抜きで抜いて、さんまのだしがみないものをこしらえました。

【落語『目黒のさんま』のあらすじ】

ある秋の日、江戸に住む殿さまが、家来を連れて、郊外の目黒まで馬に乗って出掛けました。殿さまが空腹を感じ出した頃、どこからか魚を焼くにおいが漂ってきます。殿さまは、このよいにおいが、「さんま」という魚を焼くにおいだと知り、さんまが食べたくてたまらなくなりました。

殿さまは、家来たちに「早速さんまを用意せよ」と言い付けました。しかし、このあたりには魚屋も見当たらないため、さんまはすぐに手に入りません。困った家来たちは、さんまを焼いていた農家を訪ね、餅のつた焼き立てのさんまを譲ってくれるように頼みますが断られます。そのやりとりを聞いていた殿さまは、自らお願いし、ようやく、生まれて初めてのさんまを召し上がり、座敷に戻ってからも、殿さまは目黒で食べたさんまの味が忘れられません。しかし、殿さまの食事に座敷の食べるさんまを出しては、十分すぎるほど、さんまへの思いは日に日に募る一方です。

ある日、殿さまは、親戚の家に出掛けました。すると、「何でもお好みのお料理をお申し付けください。」とのことだったので、殿さまは、待つてましたばかりに、「さんまが食べたい。」とおっしゃいました。親戚の家の家来たちは、早速日本橋の魚河岸から最も上等なさんまを取り寄せてきました。しかし、このような餅の多い魚を差し上げて、もしもお体にさわるっては大変と心配した家来たちは、十分に蒸して、小骨は毛抜きで抜いて、さんまのだしがみないものをこしらえました。

3

落語は、一人の演者が、極ったまま何人も登場人物を演じ分けて物語を表現する日本の伝統的な芸能です。次の「落語を紹介する本の一部」を、落語『目黒のさんま』の最後の部分を読んで、あとの問いに答えなさい。

【落語を紹介する本の一部】

落語の構成 次の三つの要素で構成されている。

(まくら) 本題に入る前の導入部分。本題に關係のある短い話などで聞く人を引き付ける。

(本題) 話の中心部分。「地」と呼ばれるナレーションを挟みながら、主に登場人物の会話で話を進める。

(落ち) 話の最後の部分で、聞く人を笑わせたり納得させたりする。話がストンと落ちるように結末を迎えるので「落ち」という。

【落語の演じ分け】 一人で演じるので、独特の工夫がある。

客席から見ると、舞台の右の方を上手、左の方を下手という。会話の場面では顔を上手や下手に向けてすることで、登場人物の上下関係や位置関係を表す。顔の向きその他、言葉遣いや口調、仕草を覚えることで、何人も登場人物を表現する。

(下手)

相手の立場が下なら
下手に向かって話す。

(上手)

相手の立場が上なら
上手に向かって話す。

次ページに続く

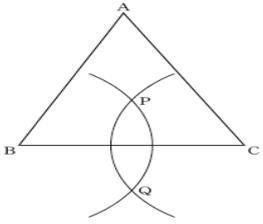
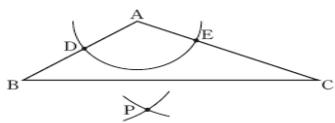
(4) 中学校数学

A[4] (2) 与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ。

平成24年度の類似問題である。平成24年度調査での正答率は56.1%であったが、今年度調査では55.1%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が-0.2ポイントであったのに対し、今年度は-0.9ポイントとなった。線分の垂直二等分線の作図の方法についての理解に課題がある。

誤答については、「イ」を選択した反応率が19.2%である。また、「ア」を選択した反応率が14.1%である。さらに、「ウ」を選択した反応率が11.1%である。これらの中には、①、②の手順で作図された図形の特徴を捉えずに、見た印象だけで判断した生徒がいると考えられる。

基本的な作図の学習において、作図した図形の特徴を作図の方法に基づいて捉え、何が作図できたのかを理解できるように指導することが大切である。

<p>H26 数学A[4] (2)</p> <p>(2) 次の図の△ABCにおいて、下の①、②の手順で直線PQを作図します。</p>  <p>作図の方法</p> <p>① 頂点B、Cを中心として、互いに交わるように等しい半径の円をかき、2つの交点をそれぞれ点P、点Qとする。</p> <p>② 点Pと点Qを通る直線をひく。</p> <p>この方法によって作図した直線PQについて、△ABCがどんな三角形でも成り立つことがらが、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 直線PQは、頂点Aと辺BCの中点を通る直線である。</p> <p>イ 直線PQは、頂点Aを通り直線BCに垂直な直線である。</p> <p>ウ 直線PQは、∠BACの二等分線である。</p> <p>エ 直線PQは、辺BCの垂直二等分線である。</p>	<p>H24 数学A[4] (1)</p> <p>(1) 次の図の△ABCにおいて、下の①、②、③の手順で直線APを作図します。</p>  <p>① 頂点Aを中心として、辺AB、辺ACの両方に交わる円をかき、その円と辺AB、辺ACとの交点をそれぞれ点D、点Eとする。</p> <p>② 点D、点Eを中心として、互いに交わるように等しい半径の円をかき、その交点の1つを点Pとする。</p> <p>③ 頂点Aと点Pを通る直線をひく。</p> <p>上の①、②、③の手順によって作図した直線APについて、△ABCがどんな三角形でも成り立つことがらが、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>ア 直線APは、頂点Aを通り直線BCに垂直な直線である。</p> <p>イ 直線APは、頂点Aと辺BCの中点を通る直線である。</p> <p>ウ 直線APは、直線BCに平行な直線である。</p> <p>エ 直線APは、∠CABの二等分線である。</p>
<p>(全国) 56.0%</p> <p>(県) 55.1%</p>	<p>(全国) 56.3%</p> <p>(県) 56.1%</p>

A[5] (4) 円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ。

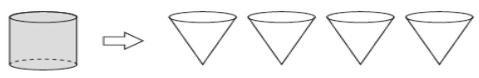
平成19年度の同一問題である。平成19年度調査での正答率は31.3%であったが、今年度調査では32.9%であった。

平成19年度では、全国平均のかい離が-5.2ポイントであったのに対し、今年度は-5.8ポイントとなった。円錐の体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積と関連付けて理解することに課題がある。

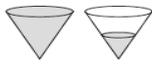
誤答については、「イ」を選択した反応率が38.5%である。この中には、円柱と円錐の立面図から長方形と三角形の面積比で判断している生徒がいると考えられる。

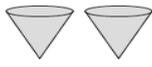
円柱の体積と円錐の体積との関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる活動を通して、円柱と円錐の関係を実感を伴って理解できるようにすることが大切である。

(4) 下の図は、円柱、円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは等しいことがわかっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。



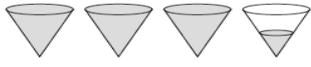
このとき、下のアからオまでの中に、円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを1つ選びなさい。

ア 

イ 

ウ 

エ 

オ 

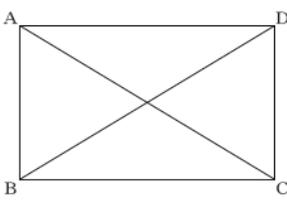
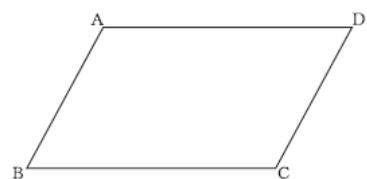
<p>H26</p> <p>(全国) 38.7%</p> <p>(県) 32.9%</p>	<p>H19</p> <p>(全国) 36.5%</p> <p>(県) 31.3%</p>
--	--

A6 (1) 長方形 ABCD において、 $AC = BD$ が表す性質を選ぶ。

平成19年度の類似問題である。平成19年度調査での正答率は64.2%であったが、今年度調査では60.0%であった。平成19年度では、全国平均とのかい離が-2.2ポイントであったのに対し、今年度は-1.7ポイントとなった。長方形について、「対角線の長さは等しい」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることについて課題がある。

誤答については、「エ」を選択した反応率が30.2%である。この中には、対角線には着目しているが、記号で表された関係を正しく読み取ることについて課題がある。

図形の構成要素やそれらの関係を記号で表したり、記号で表された図形の構成要素やそれらの関係を読み取ったりすることができるように指導することが大切である。

<p>H26 数学A6 (1)</p> <p>(1) 長方形 ABCD において、$AC = BD$ が成り立ちます。</p>  <p>上の下線部が表しているものを、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 向かい合う辺は平行である。 イ 向かい合う辺は等しい。 ウ 向かい合う角は等しい。 エ 対角線はそれぞれの中点で交わる。 オ 対角線の長さは等しい。</p>	<p>H19 数学A6 (3)</p> <p>(3) 下の四角形 ABCD において、「$AB \parallel DC, AB = DC$」が成り立っています。このことは平行四辺形になるための条件に当てはまっているので、四角形 ABCD は平行四辺形になることが分かります。</p>  <p>上の下線部「$AB \parallel DC, AB = DC$」が表しているものを、下のアからオの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行である。 イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい。 ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい。 エ 対角線がそれぞれの中点で交わる。 オ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい。</p>
<p>(全国) 61.7%</p> <p>(県) 60.0%</p>	<p>(全国) 64.4%</p> <p>(県) 64.2%</p>

A6 (3) n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n - 2)$ が表すものを選ぶ

平成24年度の同一問題である。平成24年度調査で正答率は46.6%であったが、今年度調査では47.3%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+0.9ポイントであったのに対し、今年度は-0.5ポイントとなった。 n 角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n - 2)$ における $(n - 2)$ の意味の理解に課題がある。

誤答については、「ア」を選択した反応率が22.7%である。また、「ウ」を選択した反応率が16.0%である。これらの中には、 $(n - 2)$ の n が示すものだけに着目した生徒がいると考えられる。

多項式の内角の和を表す式が、多角形を三角形に分割することによって導き出されることを理解できるように指導することが大切である。その際、様々な多角形を考察することを通して、多角形の内角の和を表す式を導いたり、その式の意味を読み取ったりする場面を設定することが考えられる。

(3) 図1のように、 n 角形を1つの頂点からひいた対角線によって、いくつかの三角形に分けて考えると、 n 角形の内角の和は、 $180^\circ \times (n - 2)$ で表すことができます。

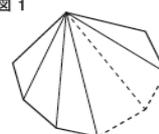


図1

例えば、六角形の場合、図2のようにして内角の和を求めることができます。

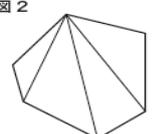
$$180^\circ \times (6 - 2) = 180^\circ \times 4 = 720^\circ$$


図2

n 角形の内角の和を表す式 $180^\circ \times (n - 2)$ の $(n - 2)$ は、 n 角形において何を表していますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 頂点の数
 イ 辺の数
 ウ 内角の数
 エ 1つの頂点からひいた対角線の数
 オ 1つの頂点からひいた対角線によって分けられた三角形の数

<p>H26</p> <p>(全国) 47.8%</p> <p>(県) 47.3%</p>	<p>H24</p> <p>(全国) 45.7%</p> <p>(県) 46.6%</p>
--	--

A13 (1) 生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。
 平成25年度の類似問題である。平成25年度調査での正答率は20.5%であったが、今年度調査では44.7%であった。平成25年度では、全国平均とのかい離が-2.3ポイントであったのに対し、今年度は+2.0ポイントとなった。与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることに課題がある。

誤答については、「18」と解答した反応率が19.9%である。この中には、度数分布表の30~40の階級に含まれる度数をそのまま解答した生徒がいると考えられる。

相対度数の必要性和意味についての理解を深めることができるように指導することが大切である。その際、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが考えられる。

<p>H26 数学A13 (1)</p> <p>13 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。</p> <p>(1) ある中学校の3年生に対して、通学時間を調査しました。下の度数分布表は、その結果をまとめたものです。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>3年生の通学時間</caption> <thead> <tr> <th>階級(分)</th> <th>度数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>以上 未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0~10</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>10~20</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>20~30</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>30~40</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>40~50</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>50~60</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>30分以上40分未満の階級の相対度数を求めなさい。</p>	階級(分)	度数(人)	以上 未満		0~10	5	10~20	9	20~30	14	30~40	18	40~50	11	50~60	3	合計	60	<p>H25 数学A14 (2)</p> <p>(2) 下の図は、ある市の平成24年6月1日から30日までについて、日ごとの最高気温の記録をヒストグラムに表したものです。このヒストグラムから、例えば、最高気温が30℃以上32℃未満の日が5日あったことがわかります。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>22℃以上24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。</p>
階級(分)	度数(人)																		
以上 未満																			
0~10	5																		
10~20	9																		
20~30	14																		
30~40	18																		
40~50	11																		
50~60	3																		
合計	60																		
<p>(全国) 42.7%</p> <p>(県) 44.7%</p>	<p>(全国) 22.8%</p> <p>(県) 20.5%</p>																		

A13 (2) ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ。
 平成24年度の類似問題である。平成24年度調査での正答率は35.0%であったが、今年度調査では46.6%であった。平成24年度では、全国平均とのかい離が+2.6ポイントであったのに対し、今年度は-5.4ポイントとなった。中央値の意味を理解し、ヒストグラムから中央値が含まれる階級を判断することに課題がある。

誤答については、「ア」を選択した反応率が22.6%である。この中には、中央値をヒストグラムのちょうど真ん中の階級と捉えた生徒がいると考えられる。また、「エ」を選択した反応率が18.5%である。この中には、中央値を平均値と捉えた生徒がいると考えられる。

目的に応じてデータを収集して整理し、資料を代表する値について考察しながら資料の傾向を読み取る活動を通して、代表値の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。

<p>H26 数学A13 (1)</p> <p>(2) 下のヒストグラムは、ある中学校の男子31人のハンドボール投げの記録をまとめたものです。このヒストグラムから、例えば、記録が14m以上16m未満の人は1人いたことがわかります。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>中央値が含まれる階級を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。</p> <p>ア 24m以上26m未満 イ 26m以上28m未満 ウ 28m以上30m未満 エ 30m以上32m未満</p>	<p>H24 数学A15 (2)</p> <p>(2) ある中学校のバスケットボール部の生徒が、フリースローを10回ずつ行いました。下の図は、ボールのに入った回数と人数の関係を表したものです。ボールのに入った回数の最頻値を求めなさい。</p> <div style="text-align: center;"> </div>
<p>(全国) 52.0%</p> <p>(県) 46.6%</p>	<p>(全国) 32.4%</p> <p>(県) 35.0%</p>

IV 児童生徒質問紙調査結果

1 結果の概要

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食することなど、基本的な生活習慣に関する質問に対しては、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
- 家庭で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに全国値を大きく上回っている。
- 長時間（3時間以上）テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小学生は全国値よりは高いものの昨年度より減少し、中学生においては全国値よりも低い。
- 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。
- 国語の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小・中学生ともに昨年度よりも増加し、中学生においては全国値よりも高い。
- 算数・数学の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小学生で昨年度よりも減少しており、小・中学生ともに全国値よりも低い。
- 平日に2時間以上勉強している中学生の割合は、昨年度より減少し、全国値を下回っている。
- 授業のはじめに目標を示されたり、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思っている割合は、小学生で昨年度より減少し、小・中学生ともに全国値を下回っている。

2 質問事項別の状況

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

- 小・中学生において、「授業のはじめに目標が示されていた」「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行った」という質問に肯定的な回答をしている割合が、全国値を下回っている。
- 国語の授業の内容がよく分かると答えた割合は、小・中学生とも昨年度よりわずかに増加し、中学生においては全国値を上回っている。また、算数・数学については、数学がよく分かると答えた割合は、昨年度より増加したものの、算数・数学とも全国値を下回っている。
- 小・中学生において、国語の授業で、自分の考えをその理由が分かるように気を付けて書いていると答えた割合が全国値を上回っている。また、中学生においては文章のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる割合が、全国値を上回っている。

※表の下段は全国との比較（以下同じ）

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20
1	授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されていたと思いますか	77.5	78.1					67.7	65.0				
		-4.5	-4.4					-3.8	-3.1				
2	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	68.0	73.3					53.0	52.9				
		-3.9	-3.4					-0.3	+1.6				
3	国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8	78.4	83.7	82.3	80.1	77.6	74.5	74.3	74.7	71.5	70.1	69.6
		-1.3	-1.5	+0.6	+0.0	+0.1	-0.4	+2.5	+2.4	+3.5	+1.6	+1.3	+2.8
4	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	78.2	78.6	79.5	78.0	80.2	79.2	71.4	70.5	64.1	64.8	62.4	64.5
		-1.4	-1.6	+0.4	+0.8	+1.0	+0.8	-0.1	+0.0	-0.8	-0.9	-2.5	-1.0
5	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	71.6	68.9	72.0	72.8	66.7	67.2	65.2	66.5	63.3	62.1	58.6	61.4
		+0.9	+0.0	+0.7	+3.6	+0.5	0.1	+4.9	+6.1	+3.9	+4.4	+3.5	5.9
6	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	74.8	72.4	74.9	74.9	70.6	71.7	70.6	67.7	68.5	66.7	63.3	65.6
		-1.0	-0.9	-0.2	+1.5	-0.2	-0.2	+3.1	+3.2	+2.9	+3.0	+2.6	4.1
7	算数・数学の問題の解き方が分からないときはあらかじめいろいろな方法を考えますか	77.0	75.4	78.1	77.4	77.6	76.2	70.5	68.2	65.7	68.7	64.9	64.7
		-1.1	-2.0	-1.0	+0.1	+0.8	+0.2	+0.2	+0.9	-0.3	+1.6	+0.1	+1.1
8	言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題についてどのように解答しましたか（最後まで書く努力をした）	77.7	72.9	70.8	60.5	66.4	65.9	56.7	42.9	45.8	45.6	48.4	42.2
		-2.0	-1.5	-1.6	-1.5	-1.6	-1.1	+1.0	-2.0	-0.1	+0.1	+0.4	-0.5

(2) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食べている児童生徒の割合は全国値を上回っている。
- 小学生において、家の人と学校での出来事について話をしている割合が、小・中学生ともに、全国値を上回っている。
- 地域の行事に参加している小学生の割合は、全国値を大きく上回っている。中学生も上回っている。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20
1	朝食を毎日食べていますか	96.8	96.7	96.6	97.4	96.6	96.3	94.6	94.7	94.4	94.5	94.0	93.6
		+0.8	+0.4	+0.5	+1.0	+0.6	+0.9	+1.1	+0.9	+0.8	+1.2	+1.6	+1.7
2	家の人と学校での出来事について話をしていますか	81.5	77.8	77.6	77.0	71.0	70.9	74.2	67.6	66.7	65.1	61.1	60.0
		+1.1	+1.3	+1.7	+2.8	+0.1	+1.7	+1.6	+1.0	+1.0	+1.4	+1.3	+2.1
3	今住んでいる地域の行事に参加していますか	76.0	73.1	73.2	74.4	73.0	71.6	44.2	41.3	37.9	39.5	40.9	39.8
		+8.0	+9.2	+10.0	+12.8	+10.6	+11.7	+0.7	-0.3	+0.2	+5.2	+3.1	+2.8

(3) 学習時間等

- 小学生においては、家で授業の予習、復習をしている割合は、昨年度よりもさらに増加し、全国値を上回っている。しかし、昨年度と比較すると平日に家で勉強する時間が短い方の割合が増えている。中学生においては、2時間以上学習する生徒の割合が昨年度より減り、全国値より下回っている。
- 小・中学生ともに、3時間以上テレビやビデオ・DVDを見る割合は、小学生は全国値より高いものの昨年度より減少し、中学生においては全国値を下回っている。
- 長時間（3時間以上）携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)						
		H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20	
1	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	65.7	61.3	61.1	64.7	55.5	51.5	50.4	48.5	45.6	44.3	40.1	35.8	
		+4.7	+2.4	+3.1	+6.4	+0.8	-0.5	+3.8	+4.0	+2.7	+2.5	+2.2	1.6	
2	家で学校の授業の予習をしていますか	50.2	47.6	45.6	48.6	42.6	39.1	46.7	48.3	39.3	43.9	42.1	41.0	
		+7.0	+6.3	+5.1	+8.2	+5.1	+3.7	+12.5	+14.8	+10.0	+13.0	+12.6	+12.6	
3	家で学校の授業の復習をしていますか	66.1	61.9	59.9	61.2	54.9	50.8	63.0	60.8	56.8	54.4	49.7	48.4	
		+12.1	+10.5	+9.7	+11.6	+8.9	+7.4	+12.6	+12.2	+11.3	+10.9	+9.2	+8.8	
4	普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか	30分以上	90.6	90.1	89.1	88.7	86.1	83.5	85.6	85.4	84.7	83.1	81.7	81.4
			+3.4	+2.4	+3.5	+3.9	+2.5	+1.1	+0.4	+0.2	+1.4	0.0	-0.2	-0.7
		1時間以上	64.1	64.8	61.2	61.5	56.9	52.9	66.1	66.4	65.8	63.7	62.2	63.1
			+2.1	+1.6	+1.7	+3.3	-0.3	-3.2	-1.8	-2.2	-0.6	-2.5	-3.1	-2.3
	2時間以上	21.4	22.0	21.3	20.8	19.7	18.8	29.6	30.7	30.0	28.5	29.1	29.8	
		-4.4	-5.1	-4.3	-4.9	-6.0	-6.7	-5.5	-5.8	-5.3	-7.2	-6.6	-5.9	
	3時間以上	6.8	7.0	7.0	6.8	17.9	16.3	6.9	7.1	6.6	6.3	13.5	13.6	
		-4.4	-4.5	-4.1	-4.6	-4.9	-6.4	-3.5	-3.4	-3.3	-3.9	-1.9	-1.5	
5	普段1日にどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	39.6	41.9	47.8	47.2	51.1	51.7	30.3	29.7	33.3	38.1	40.4	43.0	
		+1.6	+3.3	+5.1	+3.9	+5.4	+5.6	-1.2	+0.0	+0.8	+1.6	+2.4	+3.4	
6	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(3時間以上)	4.8						18.8						
		-0.2						-1.0						

(4) 自尊意識・規範意識

- 小・中学生ともに「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合は全国値を下回っている。
- 「夢を持っているか」「最後までやり遂げているか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学生は全国値を下回っているものの、昨年度と比較すると増えている。中学生は、肯定的な回答をしている割合は全国値を上回っている。
- 「きまりを守っているか」「いじめは絶対にいけないと思うか」という規範意識に関する質問に対して肯定的な回答をした割合は、おおむね昨年度より上回っているが、小・中学生ともに全国値には届いていない。

	質問事項	小学校 (%)						中学校 (%)					
		H26	H25	H24	H22	H21	H20	H26	H25	H24	H22	H21	H20
1	自分には、よいところがあると思う	74.0	72.2	76.4	73.6	72.9	71.4	65.3	65.6	67.7	63.8	61.6	61.8
		-2.1	-3.5	-0.4	-0.8	-1.7	-2.0	-1.8	-0.8	-0.5	+0.7	+0.4	+1.0
2	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.8	93.4	94.8	94.5	93.8	93.2	94.2	93.7	93.4	93.6	92.9	92.9
		-0.6	-0.9	+0.3	+0.4	+0.0	-0.3	+0.3	0.0	+0.2	+0.9	+1.0	+1.0
3	将来の夢や目標を持っていますか	86.6	86.4	86.5	86.5	85.6	84.0	72.5	73.7	73.8	72.6	71.3	72.0
		-0.1	-1.3	-0.2	-0.3	-0.7	-0.7	+1.1	+0.2	+0.6	+0.9	+0.3	+1.3
4	学校のきまり（規則）を守っていますか	89.9	89.6	91.2	89.4	87.6	85.7	92.5	92.2	91.2	90.5	89.3	88.0
		-0.6	-1.0	-0.1	+0.2	-0.9	-0.6	-0.5	-0.3	-1.1	+0.4	+0.7	+0.6
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.7	95	95.3	94.3	95.1	95.0	92.5	92.8	92.9	90.8	90.7	89.8
		-0.7	-0.9	-0.1	-0.7	+0.2	+0.3	-0.9	-0.7	-0.1	-0.3	+0.4	+0.3
6	人の役に立つ人間になりたいと思う	92.3	91.7	94.7	92.5	91.8	92.0	92.8	92.6	93.7	91.5	90.4	90.6
		-1.7	-1.9	0.0	-0.9	-0.7	-0.4	-1.2	-0.7	-0.2	-0.6	0.0	+0.1

V 学校質問紙調査結果

1 結果の概要

- 「全国学力・学習状況調査の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 国語の指導において、書く習慣を付ける指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに昨年度よりも増加しており、全国値よりも高い。
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校ともに全国値よりも高く、特に小学校では大きく上回っている。
- 算数・数学の指導において、補充的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より増加しており、小・中学校ともに全国値よりも高い。
- 算数・数学の指導において、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校で昨年度より減少しており、小・中学校ともに全国値よりも低い。

2 質問事項別の状況

(1) 指導方法・学習規律

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は、小学校で増加し、小・中学校ともに全国値より高い。経年比較においては、小学校で大きく上昇している。
- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小学校で全国値より低く、中学校で全国値と同程度である。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小学校で全国値と同程度であり、中学校で全国値より高い。
- 資料を使って発表できるよう指導した学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。

※ 表の下段は全国との比較（以下同じ）

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか。	86.6	78.6	77.6	72.3	68.1	62.1		96.0	99.0	97.3	94.1	96.8	95.9	
	+14.6	+7.1	+6.3	+1.7	-1.4	-4.1		+1.8	+4.5	+2.0	-2.1	+0.9	+0.0	
2 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れているか。	95.2	96.1						94.1	95.4					
	-1.7	-0.4						+0.1	+2.8					
3 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れているか。	91.6	91.4						91.6	90.9					
	0	-0.6						+2.4	+2.8					
4 資料を使って発表できるよう指導したか。	87.3	88	88.8	95.8	94.0			86.6	76.8	82.5	82.3	87.7		
	+1.5	+1.8	-0.4	+5.0	+3.7			+8.5	+0.0	+1.2	+1.7	+6.2		

(2) 国語科、算数・数学科の指導方法、小中連携

- 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った学校の割合は、中学校で増加しているが、小・中学校ともに全国値より低い。
- 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。
- 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高いが、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、中学校で増加してはいるが、小・中学校ともに全国値より低い。
- 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。
- 算数・数学の授業で、チームティーチングによる指導を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。経年比較においては、小学校で大きく上昇している。
- 小学校では教科の指導内容や指導方法について中学校と連携を行っている学校は、全国値より低い。中学校では小学校と連携を行っている学校は、増加してはいるが全国値より低い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか。	82.5	86	89.5	85.4	85.5	87.4	82.6	84.7	78.3	84.6	84.9	85.9	81.4	84.4
	-0.7	+2.3	+6.6	+2.4	+2.2	+4.5	+2.3	-1.4	-5.9	+0.7	+0.2	+3.2	-1.7	+2.3
2 国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか。	93.2	89.1	94.0	91.6	88.3	90.1	82.2	96.5	96.0	94.9	94.2	95.0	89.5	85.8
	+2.6	-0.8	+4.2	+2.2	-0.8	+2.7	-1.2	+2.9	+3.8	+3.3	+3.1	+4.1	-0.3	-1.9
3 算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行ったか。	89.8	87.4	91.9	89.6	88.5	93.1	88.8	88.1	88.9	87.3	89.0	88.2	91.8	91.2
	+0.3	+0.1	+3.6	+1.8	+1.8	+3.1	+1.0	+0.5	+2.9	+0.3	+2.4	+2.1	+3.0	+4.5
4 算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行ったか。	54.4	54.7	55.0	58.4	55.4	59.2	56.4	59.4	52.5	53.9	52.6	60.0	55.9	55.1
	-3.9	+0.3	+1.1	+4.5	+0.9	+1.4	-1.9	-1.9	-5.8	-4.6	-4.1	+4.5	-3.2	-4.6
5 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったか。	66.8	65	61.8	61.7	66.0	63.5	62.4	66.3	55.1	54.1	50.1	52.3	53.7	46.2
	+0.6	+2.0	-1.3	-0.9	+4.1	+2.7	+2.3	+5.5	-2.1	-1.4	-1.5	+2.4	+3.9	-2.3
6 算数・数学の授業で、チームティーチングによる指導を行ったか。	68.1	35.3						68.9	52.0					
	+5.7	-4.8						+14.9	+13.6					
7 教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校（中学校）と連携を行ったか。	49.3	53.7	69.4					63.9	51.5	59.8				
	-13.1	-15.5	-8.7					-8.2	-18.0	-18.4				

(3) 調査結果の活用

- 全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
- 全国学力・学習状況調査の自校の結果について保護者や地域の人たちに公表や説明を行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より10ポイント以上高い。
- 全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに働きかけを行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 全国学調の自校の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか。	97.5	96.1	87.2	100.0	86.7	85.8		97.1	92.4	76.8	85.7	90.0	84.5	
	+0.4	+4.0	+1.7	+0.1	+2.1	+4.0		+1.8	+3.7	-3.2	+4.9	+9.2	+5.6	
2 全国学調の自校の結果について保護者や地域の人たちに公表や説明を行ったか。	94.4							93.6						
	+13.3							+18.0						
3 全国学調や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上等の取組について、保護者や地域の人たちに働きかけを行ったか。	93.4							90.1						
	+8.4							+12.9						
4 全国学調の結果を地方公共団体独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか。	81.2							80.2						
	-7.7							-4.3						

(4) 学力向上に向けた取組

- 学校図書館を活用した授業を計画的に行った学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。
- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。
- 長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、小・中学校ともに全国値より低い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 学校図書館を活用した授業を計画的に行ったか。	80.1	79.1	75.4	77.8	72.6	63.5	56.4	33.1	30.8	30.7	41.6	41.3	28.6	36.0
	-0.4	+0.5	-1.8	-1.0	-5.2	-3.8	-3.5	-9.1	-10.8	-13.2	-4.8	-6.3	-11.1	-2.3
2 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施したか。	76.4	74	70.2	78.5	76.8	58.6	61.0	88.5	88.9	85.2	84.0	85.9	63.6	61.8
	+14.1	+12.3	+8.4	+16.5	+15.9	+16.7	+20.1	+1.7	+2.9	-1.5	-1.5	+2.7	+6.4	+6.4
3 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施したか。	62.1	61.8	53.3	53.3	46.6	43.0	41.2	74.3	74.7	74.5	73.7	68.6	70.0	68.9
	-4.0	-3.2	-10.1	-5.1	-10.3	-7.0	-6.6	-10.0	-9.4	-9.6	-6.7	-11.6	-7.0	-6.1

(5) 家庭学習・家庭との連携

- 国語の指導で、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、小・中学校ともに増加しているが、小学校で全国値より高く、中学校で全国値より低い。
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った学校の割合は、小学校で全国値より高く、中学校で全国値より低い。
- 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えた学校の割合は、小・中学校ともに増加し、全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。
- 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、小・中学校ともに全国値より高い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 国語の指導で、家庭学習の課題（宿題）を与えたか。	99.8	99.3	99.2	99.3	99.3	99.6	98.4	85.6	81.3	84.1	96.5	89.1	85.5	78.6
	+0.4	-0.1	-0.1	+0.1	+0.3	+0.9	+1.3	-5.3	-8.3	-4.7	+7.7	+2.1	-1.0	-5.4
2 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったか。	93.6							76.2						
	+8.2							-0.7						
3 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えたか。	82.2	74.6	75.5					68.8	58.6	61.3				
	+4.4	-0.5	+0.8					+4.6	-0.7	+1.4				
4 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたか。	95.4	93.1	93.2					91.1	91.9	88.4				
	+7.2	+2.2	+3.0					+6.3	+4.8	+1.8				

(6) 教員研修・教職員の取組

- 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている学校の割合は、中学校で増加しているが、全国値より小学校で15ポイント、中学校で13ポイント低く、かゝり離れが大きい。
- 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している学校の割合は、小学校で全国値より低く、中学校で全国値より高い。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか。	77.5	77.6	78.1	78.4	73.7	75.0	70.1	71.8	65.2	66.6	71.1	66.4	59.0	63.6
	-15.0	-15.1	-13.9	-13.8	-18.2	-17.1	-20.9	-13.0	-19.2	-17.3	-11.3	-16.2	-23.9	-19.5
2 言語活動に重点を置いた指導計画を作成しているか。	85.6	85.7						87.6	87.4					
	-2.6	-1.4						+7.1	+4.5					

(7) 地域の人材・施設の活用

- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加し全国値より高い。経年比較においては、中学校で大きく上昇している。
- 職場見学や職場体験活動を行った学校の割合は、小・中学校ともに増加しているが、小学校で全国値より15ポイント以上低く、かゝり離れが大きい。

質問事項	小学校 (%)							中学校 (%)						
	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったか。	82.7	80.0	80.5	82.0	70.0	75.7	79.3	63.4	54.5	63.4	44.2	56.8	54.5	58.2
	+6.4	+0.7	-1.6	+3.4	-4.2	+0.9	+0.9	+4.9	-3.1	+3.1	-6.8	+0.2	-3.4	-1.4
2 職場見学や職場体験活動を行ったか。	29.1	25.9	32.5	22.9	22.5	25.9	22.5	99.5	99.0	98.3	100.0	99.1	100.0	99.1
	-15.8	-16.0	-10.0	-14.8	-13.7	-8.5	-10.1	+1.0	+0.6	+0.0	+2.2	+2.0	+3.2	+3.1

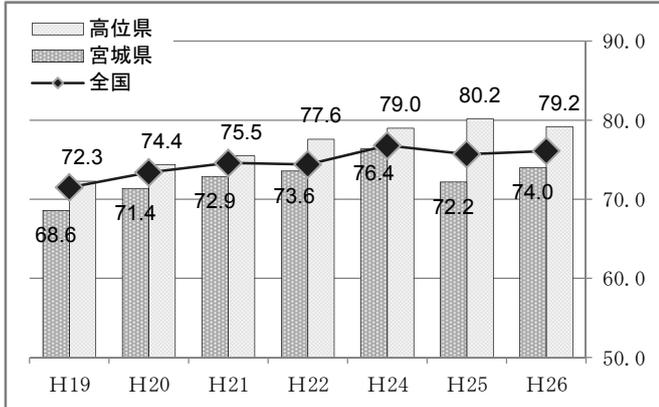
VI 平均正答率の高い県との比較

宮城県全体の課題をより明確に把握したいと考え、児童生徒質問紙調査において、自尊意識、将来の夢や目標、基本的な生活習慣、学習習慣、教科への取組や関心・意欲・態度に関する特徴の見られた10項目について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。また、学校質問紙調査において、地域人材・施設の活用について、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較した。

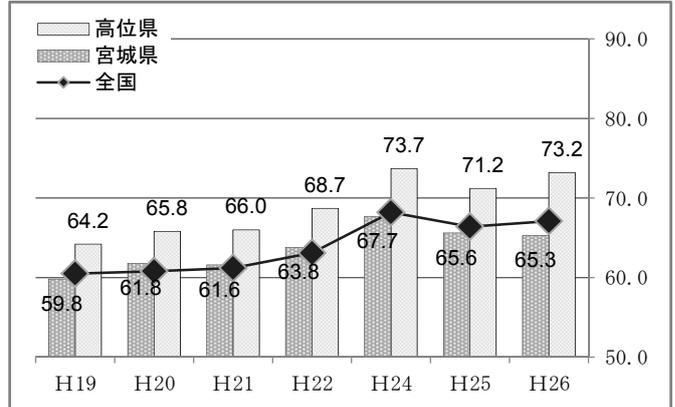
（1）自尊意識、将来の夢や目標に関する質問事項の比較結果

①自分にはよいところがあると思いますか。

【小学校】

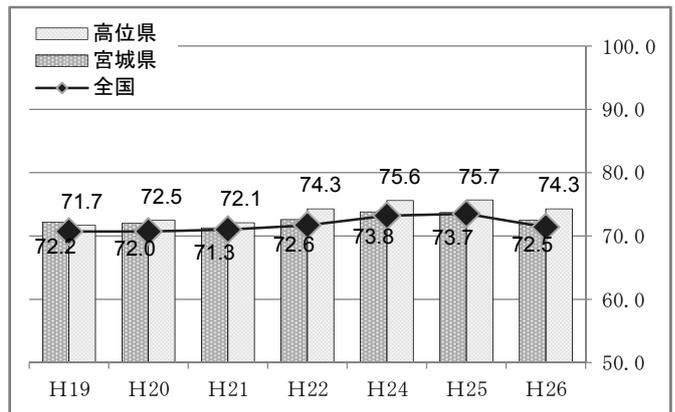
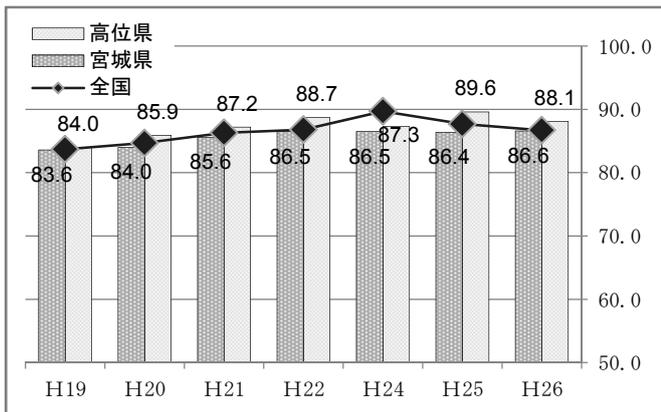


【中学校】



・小・中学生ともに全国値及び高位県より低い。

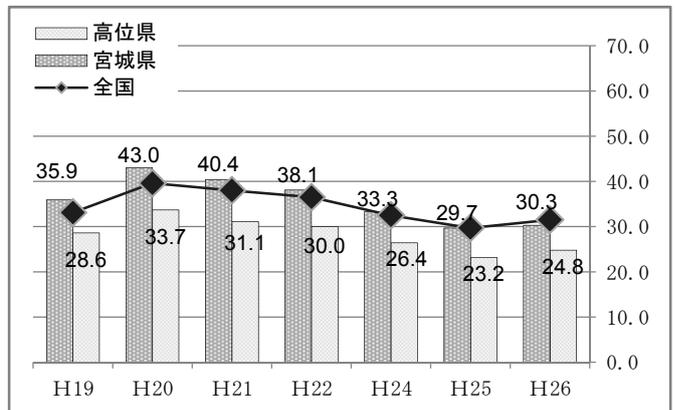
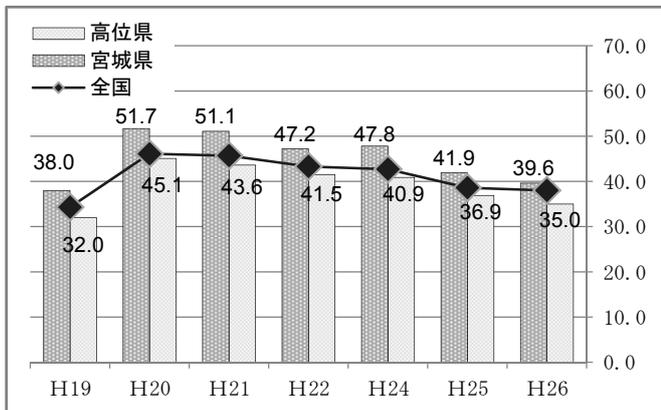
②将来の夢や目標を持っていますか。



・小学生は全国値とほぼ同じだが、高位県より低い。
 ・中学生は全国値より高いが、高位県より低い。

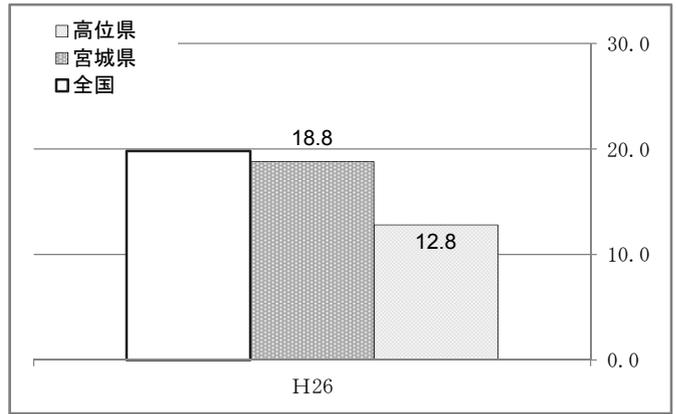
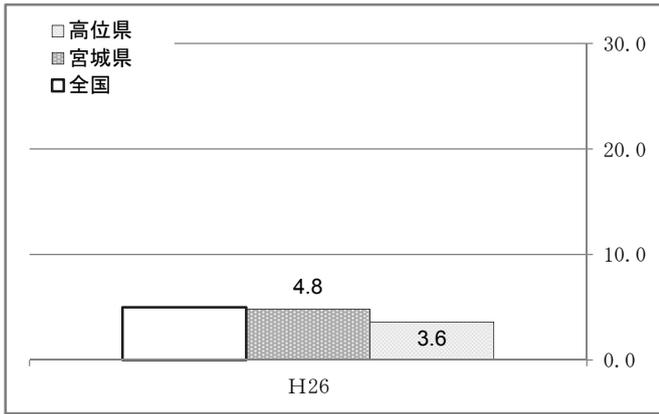
（2）基本的な生活習慣に関する質問事項の比較結果

①1日何時間、テレビ等を見ますか。（3時間以上と回答した割合）



・小学生は全国値及び高位県より高い。
 ・中学生は全国値より低い、高位県より高い。

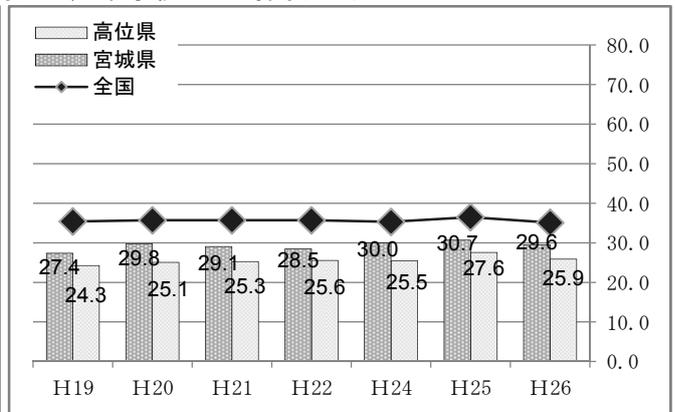
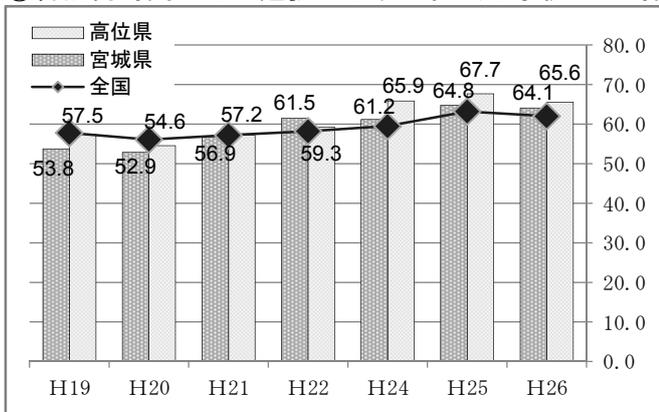
② 1日何時間、スマートフォン等で通話やメール、インターネットをしますか。(3時間以上と回答した割合)



・小・中学生ともに全国値に近いが、高位県より高い。

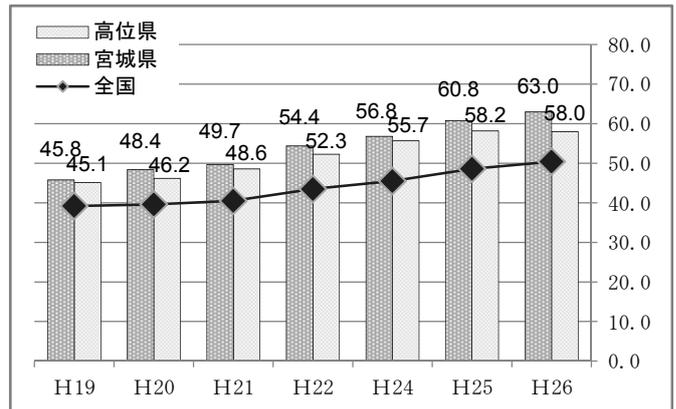
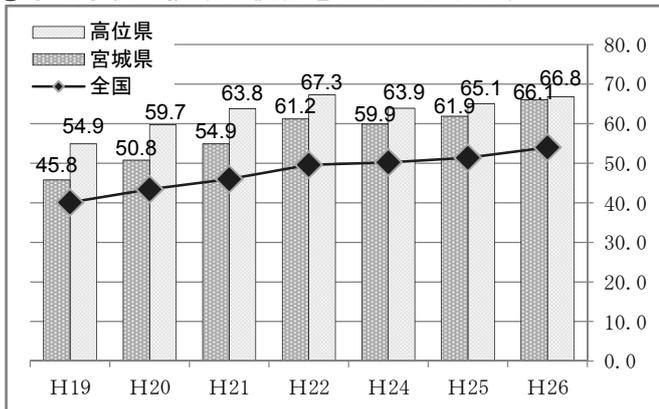
(3) 学習習慣に関する質問事項の比較結果

① 普段何時間くらい勉強しますか。(小学校：1時間以上、中学校：2時間以上)



- ・小学生は全国値より高いが、高位県より低い。
- ・中学生は高位県より高いが、全国値より低い傾向が続いている。

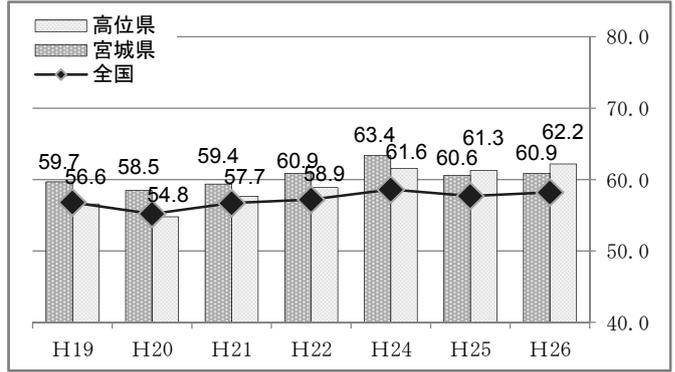
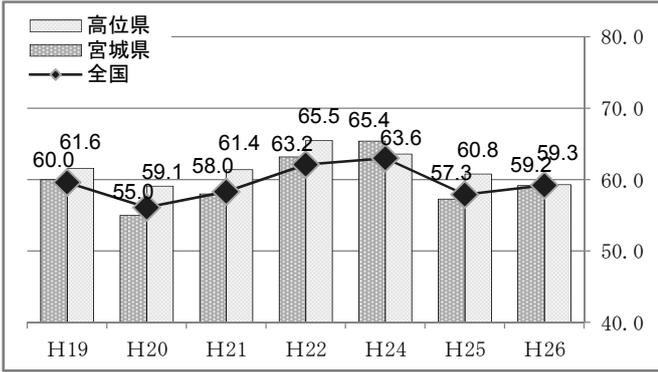
② 家で学校の授業の復習をしていますか。



- ・小学生は全国値より高いが、高位県より低い。
- ・中学生は全国値及び高位県より高い。

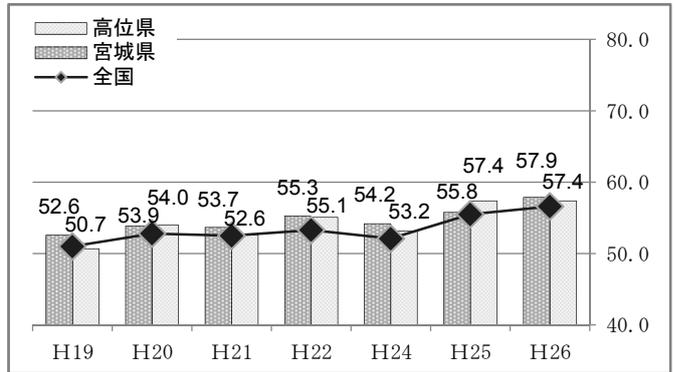
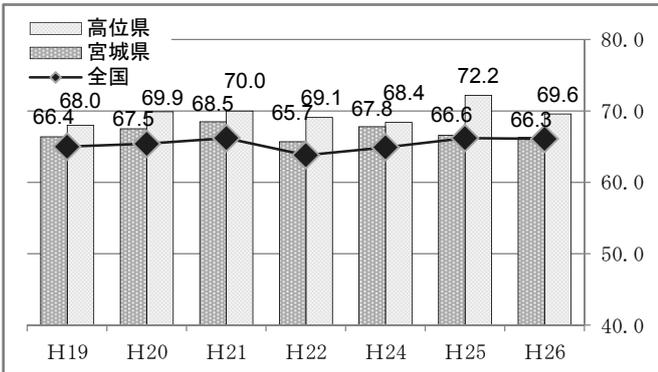
(4) 教科への取組や関心・意欲・態度に関する質問事項の比較結果

①国語の勉強は好きですか。



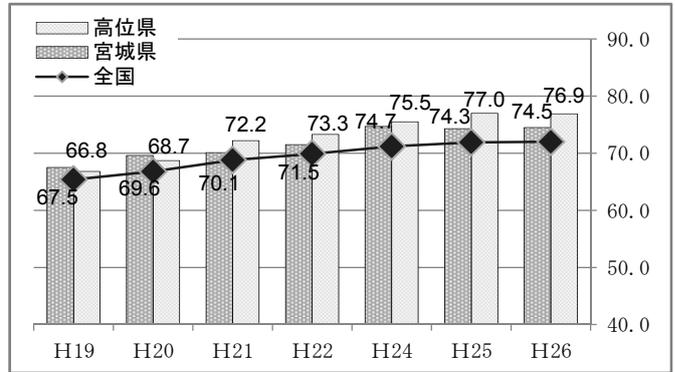
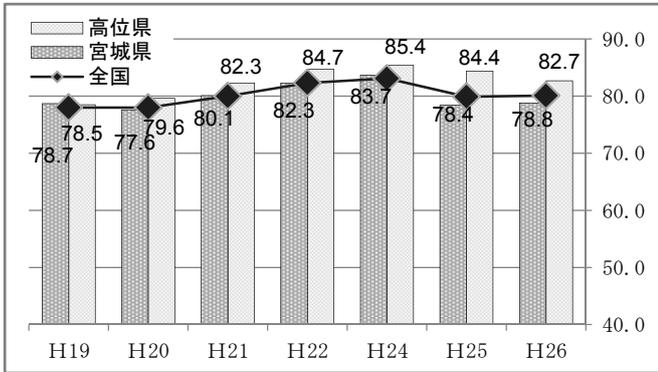
・小学生は全国値，高位県とほぼ同じである。中学生は全国値よりも高いが，高位県より低い。

②算数・数学の勉強は好きですか。



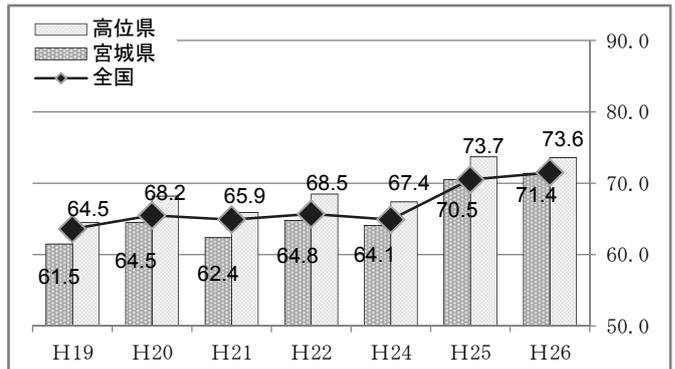
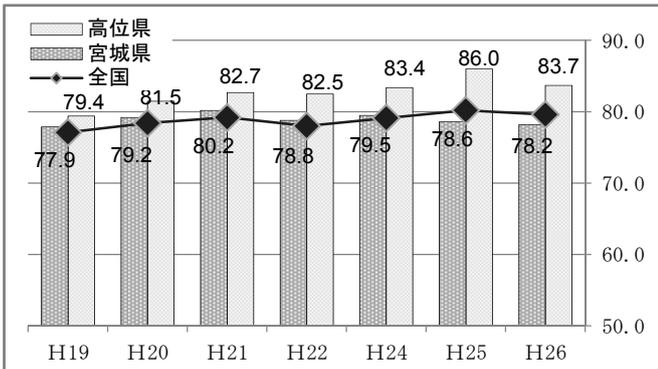
・小学生は全国値とほぼ同じで，高位県より低い。中学生は全国値，高位県とほぼ同じである。

③国語の授業の内容はよく分かりますか。



・小学生は全国値及び高位県より低い。
・中学生は全国値より高いが，高位県より低い。

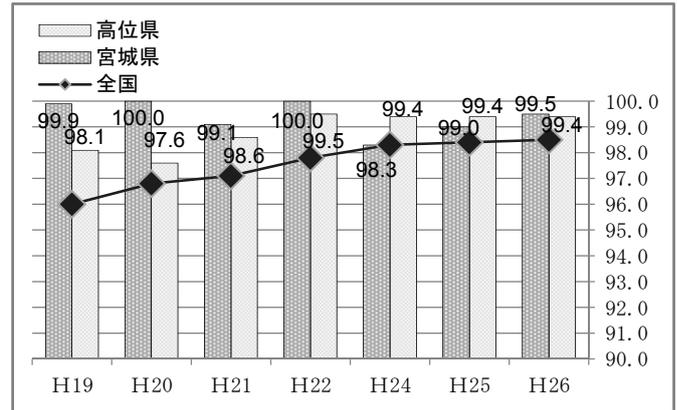
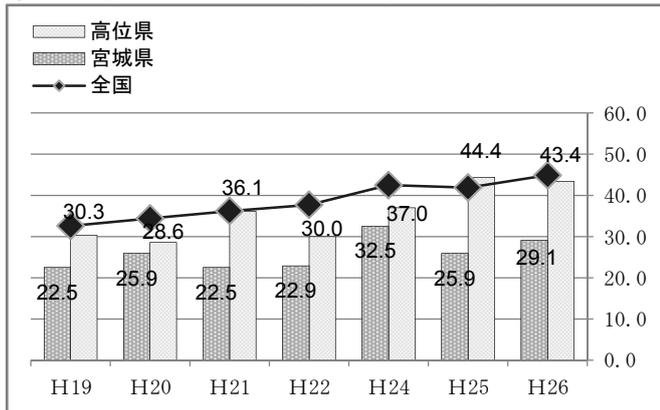
④算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



・小学生は全国値及び高位県より低い。
・中学生は全国値とほぼ同じだが，高位県より低い。

(5) 地域人材・施設の活用に関する質問事項の比較結果（学校質問紙調査）

① 職場見学や職場体験活動を行っていますか。



- ・小学生は全国値及び高位県より低い。
- ・中学生は全国値及び高位県とほぼ同じである。

(6) 高位県との比較から見てきた宮城県全体の状況

- 本県児童生徒の自尊意識は、高位県と比較して小・中学生ともに低い。また、小・中学生ともに全国値より低い。
- 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、高位県と比較すると小・中学生ともに低い。
- 3時間以上テレビやビデオ・DVDを見る児童生徒の割合は、高位県、全国、本県ともに減少傾向にあるものの、本県小・中学生の割合は明らかに高い。また、3時間以上メールやインターネットを使用する割合も、本県児童生徒は高位県に比べて高い。
- 平日に家で1時間以上勉強する本県小学生の割合は、高位県より低い。2時間以上勉強する本県中学生の割合は、高位県より高いが、全国値よりは低い。
- 家で授業の復習をする児童生徒の割合は、本県小・中学生ともに全国値を上回り、中学生は高位県より高いが、小学生は高位県よりやや低い。
- 国語が好き、授業の内容が分かると答えた本県小・中学生の割合は、ともに高位県より低い。算数・数学についても、本県小学生については高位県より低い。しかしながら、本県中学生については、算数・数学が好きと答えた割合は高位県よりやや高く、国語・数学の授業の内容が分かると答えた割合は、調査開始時に比べて増加の傾向が見られる。
- 職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合は、本県中学校については高位県、全国値とほぼ同じであるが、本県小学校については高位県より低く、全国値よりも低い。

教員の授業力向上、児童生徒の学力向上に結び付く参考文献等へのアクセス方法

I 宮城県総合教育センターウェブページへのアクセス方法

宮城県総合教育センターの学力向上や専門研究・長期研修等に係るウェブページにアクセスするには、宮城県総合教育センタートップページのメニューバーより、「学校支援」や「専門研究・長期研修」を選択してください。

学校支援

先生方の授業づくりや学級づくり、生徒指導をサポートします！

<p>カリキュラム開発支援室</p> <p>指導主事が授業づくりをお手伝いします。</p> <p>来所による相談にも対応しております。</p> <p>※【文献データ】【学習指導案データ】はこちらから入ります。</p>	<p>特別支援教育</p> <p>教師のためのサポートブックや、研究事例など、特別支援教育に関する情報を提供しています。</p>	<p>情報教育</p> <p>情報教育に関する様々な情報を提供しています。</p>	<p>理科教育</p> <p>理科の授業づくりを提案しています。また、当センターで実施している科学巡回指導訪問の様子もお知らせしています。</p>
<p>学力向上推進プログラム事業</p> <p>学力向上サポートプログラム事業に関する各種様式や記入例、報告書をダウンロードすることができます。</p>	<p>検証改善委員会</p> <p>宮城県検証改善委員会の報告書をダウンロードすることができます。</p>	<p>指導の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆漢字指導の手引き ◆計算指導の手引き ◆「記述する力」を高める授業支援プラン（算数・数学） 	<p>単元問題ライブラリー</p> <p>国語、算数・数学の単元問題ライブラリーがダウンロードできます。</p>

専門研究・長期研修

専門研究や長期研修の成果を提供しています。

<p>専門研究 本県の今日的課題について、所員と共同で研究しています。</p> <p>研究ダイジェスト版、研究報告書、補助資料等を掲載しています。</p>
<p>長期研修 授業づくりにかかわる課題を解決したり教材開発を行ったりしています。</p> <p>長期研修員A（6ヶ月間の研修）と長期研修員B（年25回の来所研修）の各教科等の研修での報告書、補助資料を掲載しています。</p>

※宮城県総合教育センターのアドレスは「<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>」です。

II 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例

(1) 小学校国語

学年	領域・内容	全国学力・学習状況調査問題	上段：授業アイデア例（学習課題） 下段：課題の見られた問題の概要と結果
3・4	伝国(1)ア(イ)	A ²	「故事成語について調べ、クイズをしよう」 正答率A ² 一:56.0%, A ² 二:50.1% 「五十歩百歩」「百聞は一見にしかず」の使い 方として適切なものを選択する。
3・4 5・6 5・6	読むこと オ 書くこと ウ 読むこと エ	B ³	「同じ作者の詩を比べて読み、考えたことを伝え合おう」 正答率:B ³ 二 48.7% 【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する。 B ³ 三 48.3% 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く。
5・6	読むこと エ	A ⁵	「登場人物の人物像や相互関係を関係図に表そう」 正答率:65.5% 物語の一部に入る適切な人物の名前を書く。
	話すこと・聞くこと エ, オ 書くこと ウ	B ¹	「立場や意図をはっきりさせながら、討論会をしよう」 正答率:B ¹ 一 65.4% 司会④の発言の内容をまとめて書く。 B ¹ 二 60.3% 林さん⑥の質問のねらいとして適切なものを選択する。 B ¹ 三 28.4% 大野さん⑨の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を聞く。
	書くこと ウ 読むこと ウ	B ² 二	「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けよう」 正答率 27.1% 付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く。



(2) 小学校算数

学年	領域・内容	全国学力・学習状況調査問題	上段：授業アイデア例（学習課題） 下段：課題の見られた問題の概要と結果
4	図形(1)ア, イ	A ⁶	「図形の約束や性質に基づいて作図しよう」 正答率 52.1% コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。
2 3 4	数と計算(1)エ 数と計算(3)ウ 数量関係(3)ア	B ¹ (2)	「算数の言葉である式に表現し、考えよう」 正答率 55.5% 二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く。
2 3 4 5 5	数量関係(3) 数量関係(3)ア 数量関係(4)イ 量と測定(2)ア 数量関係(4)	B ²	「資料から読み取ったことをグラフに表してわかりやすく伝えよう」 正答率 61.7% 6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の1/4より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ。
5	数と計算(3)ア	B ⁵ (2)	「一あた半の長さについて考えよう」 正答率 46.3% 使いやすい箸の長さの目安を基に、「一あた半」の長さを表している図を選ぶ。
	量と測定(4)ア	A ⁴	「こみぐあいを図に表して立式しよう」 正答率:A ⁴ (1) 82.4% 8m^2 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ。 A ⁴ (2) 61.0% 8m^2 に16人いるAの部屋について、 1m^2 当たりの人数を求める式を書く。

(3) 中学校国語

学年	領域・内容	全国学力・学習状況調査問題	上段：授業アイデア例（学習課題） 下段：課題の見られた問題の概要と結果
1	伝国(1)イ(ウ)	A ⁸ 三ア	「言葉を集め、言葉カレンダーを作ろう」 正答率60.0% 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
1 2	書くこと ウ 読むこと オ	B ² 三	「説明的な文章を読んで、質問に答えよう」 正答率28.8% 水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く。
1 2 2	書くこと ウ 読むこと エ 伝国(1)ア(ア)	B ³ 三	「落語の演じ方を考える」 正答率47.2% 落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く。
1 2 2	伝国(1)イ(オ) 書くこと オ 読むこと ウ	B ¹ 三	「表現の技法を用いて、読書についての標語を作る」 正答率48.9% ノートを基に、標語から伝わってくるメッセージとく表現の工夫とその効果を書く。
2	話すこと・聞くこと オ	A ⁶ 一	「互いの発言を整理しながら、話し合おう」 正答率54.9% 二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する。



(3) 中学校数学

学年	領域・内容	全国学力・学習状況調査問題	上段：授業アイデア例（学習課題） 下段：課題の見られた問題の概要と結果
1	図形(1)イ	A ⁴ (3)	「図形の回転移動で、対応する角を見つけよう」 正答率42.9% 与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ。
	関数(1)ア,ウ,エ	B ³ (2)	「全校生徒でウェーブをするのにかかる時間を予想しよう」 正答率63.0% 事象を理想化・単純化して問題解決の結果を、事象に即して解釈し、2つの数量の関係を数学的に説明する。
2	数と式(1)イ,ウ	B ² (3)	「反例をあげて説明しよう」 正答率44.9% 予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明する。
	資料の活用(1)ア,イ	B ⁵ (2)	「スティックゲームでは何点が出やすいか調べよう」 正答率32.7% 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析し、教育委員会や学校における効果的な取組や課題を明らかにし、改善につなげるため協議を重ねてきました。その結果、学力向上のための学校改善に活用できる資料として作成したものが本報告書です。

今年度は、昨年度作成した「みやぎ授業づくりスタンダード」に基づき、「見通し・振り返り」の学習活動に重点を置いて、小学校国語・算数、中学校国語・数学の指導のポイント及び授業アイデア例を作成しました。

各学校においては、児童生徒を確かな学力への入口に向かうよう、本報告書を学校や地域の実態に合ったものにアレンジしていただき、積極的に活用されることを願っています。

※必要なページをコピーして活用できます。

(宮城県総合教育センターHPからもダウンロードができます。)

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

【主に、校長先生、教頭先生へ】

○職員会議や打合せ等での活用

- ・自身の豊富な教育経験を例に挙げ、本報告書の内容について教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への引用，PTA研修会等での活用

- ・本報告書の内容を引用しながら、学校の特色ある取組を保護者や地域へ発信するなど

【主に、教務主任の先生、研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

- ・研修会、授業研究会、指導計画作成会議等において、本報告書の内容を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

- ・本報告書の内容にかかわって校内外の優れた実践例などを掲載し、校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生、教科担任の先生、指導にかかわる全ての方へ】

○授業づくり，学級づくりなどへの活用

- ・学級経営案や教科指導方針の作成や、授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど
- ・子供の実態を踏まえて、学習習慣の形成に向けて共通理解したい事項を確かめるなど

《平成26年度宮城県検証改善委員会》

回	月 日	主 な 活 動 内 容
1	7月 4日	・本委員会の方針，計画等の決定
2	9月 8日	・平成26年度全国学力・学習状況調査結果の分析，課題等の整理
3	10月 7日	・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味，提言内容の協議 ・報告書の構成内容の決定
4	10月23日	・報告書内容の吟味，表現の仕方等の検討
5	11月21日	・報告書内容，表現の吟味，校正

《平成26年度宮城県検証改善委員》

吉村 敏之	(宮城教育大学教職大学院 教授)
本田 伊克	(宮城教育大学 准教授)
平塚 隆	(石巻市立山下中学校 校長)
高橋 豊	(登米市立佐沼中学校 教頭)
佐藤 真奈美	(柴田町立船岡小学校 教諭)
二階堂浩一郎	(義務教育課 課長補佐)
工藤 吉則	(登米地域事務所 次長)
大沼 あゆみ	(仙台教育事務所 主幹)
一條 美奈	(北部教育事務所 主幹)
佐々木 清光	(総合教育センター 副所長)
小野寺 一浩	(総合教育センター 副参事)
高橋 琢哉	(総合教育センター 次長)
林 恵美子	(総合教育センター 次長)
小松 昭	(総合教育センター 主幹)
稲辺 正浩	(総合教育センター 主幹)

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。

宮城県検証改善委員会報告書

確かな学力への入口

「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用

発行年月 平成27年1月

編集発行 宮城県総合教育センター

住 所 名取市美田園2丁目1番4号

電 話 022-784-3541